

平成19年4月期（平成18年11月1日～平成19年4月30日）決算短信

平成19年6月14日

不動産投信発行者名 プレミア投資法人

上場取引所 東証

コード番号 8956 (URL <http://www.pic-reit.co.jp>)

本社所在都道府県 東京都

問合せ先 (資産運用会社) プレミア・リート・アドバイザーズ株式会社

責任者役職名 取締役 業務運営本部長 兼 総務部長

氏名 鈴木 文夫 TEL 03-5772-8551

決算役員会開催日 平成19年6月14日

分配金支払開始日 平成19年7月9日（予定）

1. 平成19年4月期の運用、資産の状況（平成18年11月1日～平成19年4月30日）

(1) 運用状況

(金額は単位未満を切捨て)

	営業収益		営業利益金額		経常利益金額		当期純利益金額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年4月期	4,050	5.8	1,980	8.6	1,655	8.1	1,654	8.2
18年10月期	3,827	2.3	1,822	5.6	1,531	5.4	1,529	5.4

	1口当たり 当期純利益金額	純資産 当期純利益率 (年換算値)		総資本 経常利益率 (年換算値)		営業収益 経常利益率
	円	%	%	%	%	%
19年4月期	16,318	3.1	(6.3)	1.6	(3.2)	40.9
18年10月期	15,085	2.9	(5.7)	1.5	(3.0)	40.0

(注) ①1口当たり当期純利益金額は、次の期中平均投資口数により算出しています。
平成18年10月期 101,400口 平成19年4月期 101,400口

②会計処理の方法の変更 有

③営業収益、営業利益金額、経常利益金額、当期純利益金額におけるパーセント表示（小数点以下第二位を四捨五入）は、対前期増減率です。

④年換算値＝平成18年10月期：当該計算期間の数値／資産運用期間の日数184日×365（日）

平成19年4月期：当該計算期間の数値／資産運用期間の日数181日×365（日）

⑤純資産当期純利益率、総資本経常利益率の算定において、純資産、総資本は期首と期末の純資産総額、総資本の平均値をそれぞれ使用しております。

(2) 分配状況

(分配金総額は百万円未満を切捨て)

	1口当たり分配金 (利益超過分配金は含まない)	分配金総額	1口当たり 利益超過分配金	利益超過 分配金総額	配当性向 (注)	純資産 配当率 (注)
	円	百万円	円	百万円	%	%
19年4月期	16,318	1,654	—	—	99.9	3.1
18年10月期	15,086	1,529	—	—	100.0	2.8

(注) 配当性向及び純資産配当率については小数点第一位未満を切捨てにより表示しております。

(3) 財政状態

(総資産額と純資産額は百万円未満を切捨て)

	総資産額	純資産額	純資産比率	1口当たり純資産額 (注)
	百万円	百万円	%	円
19年4月期	107,017	53,089	49.6	523,565
18年10月期	104,878	52,964	50.5	522,333

(注) 期末発行済投資口数 平成18年10月期 101,400口 平成19年4月期 101,400口

2. 平成19年10月期の運用状況の予想（平成19年5月1日～平成19年10月31日）

	営業収益	経常利益金額	当期 純利益金額	1口当たり分配金 (利益超過分配金は含まない)	1口当たり 利益超過分配金
	百万円	百万円	百万円	円	円
19年10月期	4,363	1,708	1,707	16,840	—

(参考) 1口当たりの予想当期純利益金額 16,840円

(注) 本予想数値は別紙記載の前提条件の下に算出した現時点のものであり、状況の変化により実際の営業収益、経常利益金額、当期純利益金額及び1口当たり分配金はいずれも変動する可能性があります。また、本予想は分配金の額を保証するものではありません。

1. 投資法人の関係法人

後記 68 ページ【投資法人の関係法人】をご参照ください。

なお、関係法人とは本投資法人の資産運用会社であるプレミア・リート・アドバイザーズ株式会社及び一般事務受託者兼資産保管会社である中央三井信託銀行株式会社等をいいます。

2. 運用方針及び運用状況

(1) 運用方針

後記 70 ページ【投資法人の運用並びに分配に関する基本方針】をご参照ください。

(2) 運用状況

①当期の概況

ア. ファンドの主な推移

本投資法人は、「投資信託及び投資法人に関する法律」（以下「投信法」といいます。）に基づき、プレミア・リート・アドバイザーズ株式会社（以下「資産運用会社」といいます。）を設立企画人として、平成 14 年 5 月 2 日に出資総額 2 億円（400 口）で設立され、平成 14 年 9 月 10 日に公募による投資口の追加発行（59,000 口）を実施し、約 272 億円の資金を調達して同日東京証券取引所に上場いたしました（銘柄コード 8956）。その後、平成 15 年 11 月 15 日に公募により 18,000 口、平成 15 年 12 月 10 日に第三者割当増資により 2,000 口、平成 17 年 5 月 31 日に公募により 22,000 口の投資口をそれぞれ追加発行し、平成 19 年 4 月 30 日現在の出資総額は、51,434 百万円となっております。

本投資法人は、投資地域を東京経済圏（注）に特化し、オフィス及びレジデンスを主たる用途とする不動産に分散投資することで中長期的に安定した収益の確保を図ってきております。平成 15 年 4 月の第 1 期以降、前期の第 8 期まで 8 回の利益分配を行ってまいりました。

（注）東京経済圏とは、本書において、以下に定義する都心 5 区を中心とする東京 23 区及び周辺都市部を含むエリアを指します。以下同じです。

- ・都心 5 区：いわゆる都心 3 区（千代田区、中央区、港区）に加え、新宿区、渋谷区を加えたエリアを指します。都心 3 区は従来よりビジネスエリアとして中心的役割を果たしてきた地域であり、新宿区及び渋谷区は近年新たにビジネスエリアとして確立されてきた地域です。
- ・東京 23 区：都心 5 区を除いた東京都特別区を指します。
- ・周辺都市部：東京都特別区を除く東京都下、神奈川県（横浜市、川崎市を中心とする人口集中地等）、埼玉県（さいたま市を中心とする人口集中地等）、千葉県（千葉市を中心とする人口集中地等）の 1 都 3 県を指します。

イ. 投資環境と運用実績

（ア）当期における日本経済は、引き続き堅調な輸出や民間設備投資の伸びを背景に高水準の企業収益が維持され、雇用情勢も改善傾向を維持するなど、景気は緩やかな拡大基調を継続しました。

（イ）不動産市場に関しましては、国土交通省が平成 19 年 3 月 22 日に発表した平成 19 年 1 月 1 日時点の公示地価によりますと、東京・大阪・名古屋の三大都市圏において、商業地の平均地価が 2 年連続の上昇となったことに加え、住宅地の平均地価も 16 年ぶりの上昇となりました。

特に、東京圏における平均地価は商業地で前年比 9.4% の高い上昇率となり、住宅地では同じく 3.6% の上昇率を示しています。地方圏（三大都市圏を除く地域）の平均地価は引き続き下落しましたが、3 年連続で平均地価の下落幅を縮小させており、地方中心都市では 2 年連続の上昇となった札幌市のほか、仙台市、福岡市など複数の都市で平均地価が上昇に転じています。

このように平均地価は回復基調が確かな状況となっておりますが、地域や地区で見ますと、産業集積度が高く、人口集中が進む大都市圏での回復ぶりが目立ちます。また、同じ圏域内においても、商業機能の集積の高さやブランド力を備えた地区や再開発事業の計画等で繁華性の向上が見込まれる地区での地価上昇が顕著です。

本投資法人が投資対象とする東京経済圏におけるオフィスビルとレジデンスの市場環境は以下のとおりです。

<オフィスビル>

賃貸市場においては、東京都区部におけるオフィスビルで事業規模の拡大や雇用の増加を背景とした増床需要が一段と高まってきており、空室率の低下と賃料上昇の動きが都心のオフィスビルを中心に進行しています。

また、売買市場においては、国際的に見た割安感や今後の賃料上昇による収益性の向上を見込んだ国内外の投資資金が活発に流入してきており、特に中央区・港区・渋谷区といった高度商業地においては局所的に大幅な地価上昇を示す地域もあります。

<レジデンス>

賃貸用レジデンスについては、新築分譲マンションの販売が好調になってきていることなどから、競争力の高い賃貸用物件の供給がやや減少傾向にあります。その一方、雇用の回復等を背景に、既存の好条件な物件に対する需要は堅調に推移しており、賃料水準も底打ちから緩やかな上昇に転じつつあります。

また、賃料水準の上昇を見込んだ国内外の資金による投資が活発であり、競争力の高い物件への投資意欲には引き続き旺盛なものがあります。

- (ウ) このような投資環境の中、本投資法人は平成 19 年 2 月 9 日にプレミアステージ駒込（レジデンス、取得価格 1,830 百万円）を取得いたしました。この結果、平成 19 年 4 月 30 日現在、本投資法人が保有する資産は、オフィスビル 11 棟、レジデンス 25 棟の計 36 物件となり、取得価格の総額は 99,598 百万円、総賃貸可能面積は 121,060.99 m²、テナント数は 1,079、用途別の投資比率はオフィスビルが 48.6%、レジデンスが 51.4%となっております。

また、相対取引により、プレミア東陽町ビル（オフィス、取得価格 4,310 百万円）について、当該物件を信託する不動産信託受益権譲渡契約を平成 19 年 2 月 8 日に締結し、第 10 期中の平成 19 年 5 月 18 日に取得を完了しました。

- (エ) 保有物件の稼働率は、平成 19 年 4 月 30 日現在でオフィスビルが 97.5%（前期末比+0.5%）、レジデンスが 94.7%（同+1.7%）となっております。

ウ. 資金調達の概要等

- (ア) 今後の金利上昇に備え、既存の変動金利建て短期借入金 6,500 百万円（注 1）を平成 19 年 2 月 28 日付けで期限前返済し、同日付けで固定金利建てタームローン 6,500 百万円（注 2）によりリファイナンスいたしました。

（注 1）平成 18 年 3 月 28 日に借入を行った短期借入金 1,500 百万円、平成 18 年 7 月 31 日に借入を行った短期借入金 1,650 百万円、平成 18 年 9 月 1 日に借入を行った短期借入金 1,850 百万円及び平成 18 年 10 月 13 日に借入を行った短期借入金 1,500 百万円です。

（注 2）平成 19 年 2 月 28 日に期間 5 年のタームローン第 002 号（3,650 百万円）を株式会社三井住友銀行、中央三井信託銀行株式会社及び株式会社あおぞら銀行から、期間 6 年のタームローン第 003 号（2,850 百万円）を株式会社りそな銀行及び三井住友海上火災保険株式会社からそれぞれ借入れたものです。

- (イ) また、プレミアステージ駒込の取得資金等の一部に充当するため、平成 19 年 2 月 9 日に株式会社三菱東京UFJ銀行から変動金利建て短期借入金 1,800 百万円（借入期間：平成 19 年 2 月 9 日～平成 20 年 2 月 8 日）を調達いたしました。

- (ウ) これらの借入は全て、平成 17 年 9 月 7 日付けで中央三井信託銀行株式会社、株式会社あおぞら銀行、住友信託銀行株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行及び株式会社りそな銀行と締結した基本合意書（その後の変更及び貸付人の追加（株式会社三井住友銀行及び三井住友海上火災保険株式会社）を含みます。）に規定されるタームローン及び 14,000 百万円を極度貸付限度額とする極度貸付を利用したものであり、無担保・無保証、期日一括返済の条件となっております。

この結果、平成 19 年 4 月 30 日現在の有利子負債総額は 48,700 百万円（うち投資法人債は 25,000 百万円、長期借入金は 21,900 百万円、有利子負債総額中の長期有利子負債比率 96.3%）となっております。

- (エ) 本投資法人が取得している発行体格付け及び債券の格付けは下表のとおりです。

株式会社格付投資情報センター（R&I）より平成 17 年 7 月 14 日に取得した発行体格付け（A（安定的））及び平成 17 年 8 月 11 日に取得した第 1 回無担保投資法人債及び第 2 回無担保投資法人債の格付け（A）について、平成 19 年 3 月 28 日付けで下表のとおり引き上げられました。

格付機関	格付け内容	
	発行体格付け (格付けの方向性又は見通し)	債券の格付け (第 1 回無担保投資法人債 及び第 2 回無担保投資法人債)
株式会社格付投資情報センター（R&I）	A+（安定的）	A+
ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク	A3（安定的）	A3

エ. 業績及び分配の概要

上記のような運用の結果、当期の実績として営業収益 4,050 百万円、営業利益金額 1,980 百万円、経常利益金額 1,655 百万円、当期純利益金額は 1,654 百万円を計上いたしました。また、分配金につきましては、租税特別措置法第 67 条の 15 の適用により、利益分配金の最大額が損金算入されることを企図して、投資口 1 口当

たりの分配金が1円未満となる端数部分を除く当期末処分利益の全額を分配することとし、投資口1口当たりの分配金を16,318円といたしました。

②次期の見通し

当面の日本経済は、高水準の企業業績や雇用情勢の改善が徐々に賃金水準の向上や個人消費の伸びに波及することによって景気拡大を維持できるものと思われます。こうした経済環境を受け、都心部においてはオフィスビルの賃料水準の改善傾向が広がる一方、レジデンスについても、引き続き景気回復の進む東京都区部を中心に人口増加が見込めること等から、利便性の高い優良物件を中心に稼働率や賃料水準の改善が進むものと思われます。

ア. 今後の運用の基本方針

本投資法人では、東京経済圏に立地するオフィス及びレジデンスを主たる用途とする不動産を投資対象とし、中長期的な観点から、運用資産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行っていきます。ポートフォリオに占めるオフィスビルとレジデンスの投資金額の比率については、概ね6対4を目処として新規物件の取得に取り組むことを基本方針とします（東京経済圏における現在の取得環境としましては、新規物件の供給が一段落しているオフィスビルに比べ、近年はレジデンスにおいて安定的な新規物件の供給が確保されておりましたことにより、第1期末時点で概ね8：2でありました上記比率が第9期末では概ね5：5となっております。当面の新規取得を進めていく過程でオフィスビルの取得機会も積極的にうかがっていく方針です。）。

イ. 新規物件取得（外部成長）について

- (ア) 保有物件の入替等も展望し、着実に資産規模の拡大を図っていきます。また、中長期的に安定した収益を見込めるよう、立地条件、環境及びスペック等の面で競争力のある物件の取得に努めます。
- (イ) 安定した分配金の実現に繋がる投資利回りを確保するためには、過度な価格競争を回避する必要があります。そのためにも、資産運用会社のスポンサーである三井トラストフィナンシャルグループやケン・コーポレーショングループ等の有力な情報ルートを最大限に活用するとともに、資産運用会社がこれまで育んできた多様な情報ルートや取得ノウハウを一層強化して、優良物件取得に繋がる情報の早期入手に努めます。
- (ウ) 物件取得競争が激しさを増す中、長期的に競争力のあるポートフォリオ構築という観点から、第三者が建築中の物件については、竣工後のテナントの確保が十分可能と判断でき、完工・引渡しのリスクが極小化されている場合等においては、当該投資対象不動産を取得するメリットと一定の期間について賃貸事業収入が生じないデメリットその他当該投資対象不動産の取得により本投資法人が負担するリスクを比較検討しつつ開発案件へも取り組みます。

ウ. 管理運営（内部成長）について

本投資法人は各テナントとの良好な信頼関係を維持・発展させていきます。具体的には以下の運用管理方針で取得した投資対象不動産の中長期的な収益極大化に努めていきます。

- (ア) テナントニーズの細やかな把握と建物管理サービスの提供、個別物件の特性に応じた誘致活動を通じて既存テナントの解約防止や増床、新規テナントの確保に繋げ、保有物件の安定稼働と稼働率の向上に努めます。
- (イ) 賃貸収益の中長期的な拡大を目指し、地区的な特性や設備グレード等に応じた各物件固有のポテンシャルを最大限に発揮させるべく積極的な賃料設定やその他賃貸条件の向上に努めます。
- (ウ) 物件のハード管理面では、管理グレードの適正化を基本方針とし、管理コストの削減を考慮しつつ、各建物の機能の維持・保全に最適な修繕計画を立案・実行することにより、保有物件のクオリティの維持、向上に努めます。また、計画的な修繕の実施により、管理コスト計上時期の分散化、平準化を図っていきます。

エ. 資金調達について

機動的な短期資金と安定的な長期資金のバランスを考慮した調達を行います。長期資金については、(1) 調達手段の多様化（銀行借入、投資法人債）、(2) 返済・償還時期の分散、及び(3) 金融・経済環境の動向に応じた変動/固定金利の選択など柔軟性を持った調達に努めます。

オ. コンプライアンスについて

本投資法人の業務運営における法令遵守に関しましては細心の注意を払って臨んでおります。引き続き投資主の皆様や債権者の皆様方のご信頼にお応えすべく、法令遵守・ガバナンス機能の充実及び一層の強化に真摯に取り組んでいきます。

カ. 運用状況の見通し

(ア) 第10期(平成19年5月1日～平成19年10月31日)及び第11期(平成19年11月1日～平成20年4月30日)の運用状況につきましては、以下のとおり見込んでおります。なお、各期見通しの前提条件につきましては、7ページ記載の「第10期(平成19年5月1日～平成19年10月31日)及び第11期(平成19年11月1日～平成20年4月30日)の運用状況予想の前提条件」をご参照ください。

第10期(平成19年5月1日～平成19年10月31日)

営業収益	4,363百万円
経常利益金額	1,708百万円
当期純利益金額	1,707百万円
1口当たり分配金	16,840円
1口当たり利益超過分配金	－円

第11期(平成19年11月1日～平成20年4月30日)

営業収益	4,371百万円
経常利益金額	1,686百万円
当期純利益金額	1,685百万円
1口当たり分配金	16,620円
1口当たり利益超過分配金	－円

(注) 上記予想数値は一定の前提条件の下に算出した現時点でのものであり、状況の変化により実際の営業収益、経常利益金額、当期純利益金額及び1口当たり分配金はいずれも変動する可能性があります。また、本予想は分配金の額を保証するものではありません。

(イ) 決算後に生じた重要な事実

本投資法人で、決算日(平成19年4月30日)以降に生じた重要な事項は以下のとおりです。

A. 資産の取得について

a. 本投資法人は、規約に定める資産運用の基本方針等に基づき、手元資金及び借入(後記B.「資金の借入について」記載)により、平成19年5月18日に以下のとおり資産を取得いたしました。

[プレミア東陽町ビル]

(取得の概要)

取得資産：不動産を信託する信託の受益権 取得価格(注)：4,310百万円

(取得資産の概要)

所在地(住居表示)：東京都江東区東陽三丁目23番21号 用途：事務所、車庫

敷地面積：1,080.98㎡

建物延床面積：5,054.32㎡ 構造：鉄骨・鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付7階建

建築時期：平成18年10月 総賃貸可能面積：3,857.04㎡

(注) 取得価格は、当該不動産の取得に要した諸費用(売買媒介手数料、公租公課等)を含まない金額(売買契約書等に記載された売買価格)を記載しております。

b. 本投資法人は、規約に定める資産運用の基本方針等に基づき、平成19年5月18日に以下の資産につき不動産信託受益権譲渡契約を締結し、平成19年6月29日の取得を予定しております。

[YS海岸ビル]

(取得の概要)

取得資産：不動産を信託する信託の受益権 取得予定価格(注1)：5,100百万円

(取得資産の概要)

所在地(住居表示)：東京都港区海岸二丁目2番6号 用途(注2)：事務所、共同住宅、駐車場

敷地面積：1,670.99㎡ 建物延床面積：8,476.92㎡ 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根12階建

建築時期：平成5年1月 併設住宅戸数：12戸 総賃貸可能面積：6,383.57㎡

(注1) 取得予定価格は、当該不動産の取得に要した諸経費(売買媒介手数料、公租公課等)を含まない金額(売買契約書等に記載された売買価格)を記載しております。

(注2) 本物件は、上層階3階(10階～12階)に住宅が併設されたオフィスビルです。

- c. 本投資法人は、規約に定める資産運用の基本方針等に基づき、平成19年5月25日に以下の資産につき不動産信託受益権譲渡契約を締結し、平成19年6月29日の取得を予定しております。

[プレミアステージ大塚]

(取得の概要)

取得資産：不動産を信託する信託の受益権 取得予定価格（注）：1,310百万円

(取得資産の概要)

所在地（住居表示）：東京都豊島区南大塚三丁目34番8号 用途：共同住宅、店舗

敷地面積：254.76 m²

建物延床面積：1,894.61 m² 構造：鉄筋コンクリート造陸屋根14階建 建築時期：平成18年8月

戸数：58戸、店舗1区画 総賃貸可能面積：1,644.64 m²

(注) 取得予定価格は、当該不動産の取得に要した諸経費（売買媒介手数料、公租公課等）を含まない金額（売買契約書等に記載された売買価格）を記載しております。

B. 資金の借入について

本投資法人は、平成19年5月18日に不動産信託受益権（前記A. 「資産の取得について」記載のプレミア東陽町ビル）の取得資金及び当該取得に関連する諸費用の一部に充当するため、平成19年5月16日付極度内貸付契約に基づき以下のとおり借入を行ないました。

借入金額：4,400百万円

借入先：住友信託銀行株式会社、中央三井信託銀行株式会社、株式会社みずほ銀行及び株式会社三井住友銀行 借入日：平成19年5月18日 元本返済日：平成20年5月16日

元本返済方法：期限一括返済 金利：変動金利型（各利息計算期間に対応するTIBOR+0.45%）

担保の有無：無担保・無保証

③その他の参考情報

該当する事項はございません。

第10期(平成19年5月1日～平成19年10月31日)及び第11期(平成19年11月1日～平成20年4月30日)の運用状況予想の前提条件

項目	前提条件
計算期間	<p>【第10期】平成19年5月1日～平成19年10月31日(184日)</p> <p>【第11期】平成19年11月1日～平成20年4月30日(181日)</p>
運用資産	<p>【第10期】 平成19年4月30日現在保有している既存36物件に平成19年5月18日に取得した1物件及び平成19年6月29日に取得予定の2物件を加えた39物件を前提としております。なお、実際には新規物件の取得、又は既存物件の売却等により変動する可能性があります。</p> <p>【第11期】 第10期と保有物件数の異動がないことを前提としております。</p>
発行済投資口数	<p>【第10期】 平成19年4月30日現在の発行済投資口数と同じ101,400口を前提とし、新投資口の追加発行がないことを前提としております。</p> <p>【第11期】 第10期と発行済投資口数の異動がないことを前提としております。</p>
有利子負債	<p>【第10期】 平成19年4月30日現在の23,700百万円の借入金(長期:21,900百万円、短期:1,800百万円)と投資法人債25,000百万円(5年債15,000百万円、7年債10,000百万円)の計48,700百万円に、平成19年5月の資産取得に当たり調達した短期借入4,400百万円及び平成19年6月の資産取得に当たり調達予定の短期借入5,300百万円を加算した計58,400百万円を前提としております。</p> <p>【第11期】 第10期と残高の異動がないことを前提としております。</p>
営業費用	<p>【第10期】 平成19年2月以降に取得した2物件(プレミアステージ駒込及びプレミア東陽町ビル)及び平成19年6月に取得予定の2物件(Y S海岸ビル及びプレミアステージ大塚)については固定資産税・都市計画税等の精算額は取得価格に算入され、第10期の営業費用には計上されません。また、減価償却費については、709百万円を見込んでおります。</p> <p>【第11期】 平成19年2月以降に取得した2物件(プレミアステージ駒込及びプレミア東陽町ビル)及び平成19年6月に取得予定の2物件(Y S海岸ビル及びプレミアステージ大塚)については固定資産税・都市計画税等の精算額は取得価格に算入され、第11期の営業費用には計上されません。また、減価償却費については、723百万円を見込んでおります。</p>
1口当たり 分配金の額	<p>投資口1口当たりの分配金が1円未満となる端数を除く当期未処分利益の全額を分配することを前提としています。</p> <p>なお、運用資産の異動、テナントの異動等に伴う賃貸収入の変動又は予期せぬ修繕の発生等を含む種々の要因により、1口当たり分配金は変動する可能性があります。</p>
1口当たり 利益超過分配金	<p>利益を超える金銭の分配に関して、かかる分配を受けた投資主がその分配の都度譲渡損益の算定を行うことが必要である税務の取扱いを踏まえ、現時点では投資主に対して利益を超える金銭の分配は行わない予定です。</p> <p>したがって、第10期及び第11期においても1口当たりの利益超過分配金は行わないことを前提としています。</p>

3. 財務諸表等

(1) 経理の状況

①貸借対照表

(単位：千円)

期 別 科 目	当 期 (平成19年4月30日現在)			前 期 (平成18年10月31日現在)			増 減	
	金 額	構成比	(%)	金 額	構成比	(%)	金 額	前期比
資産の部								
I 流動資産								
現金及び預金	1,476,869			742,620			734,248	
信託現金及び信託預金	6,722,644			6,622,160			100,484	
営業未収入金	47,952			42,616			5,335	
前払費用	63,071			46,665			16,405	
前払金	103,007			51,501			51,505	
未収消費税等	-			63,636			△63,636	
繰延税金資産	1,864			1,008			856	
その他流動資産	215			429			△213	
流動資産合計	8,415,625	7.9		7,570,640	7.2		844,985	11.2
II 固定資産								
1. 有形固定資産								
器具備品	145			145				
減価償却累計額	△145	-		△120	24		△24	
信託建物 ※1	41,135,730			40,028,386				
減価償却累計額	△4,898,239	36,237,491		△4,274,541	35,753,844		483,646	
信託構築物	651,326			629,113				
減価償却累計額	△188,869	462,456		△164,275	464,838		△2,381	
信託器具備品	89,507			80,615				
減価償却累計額	△27,880	61,627		△20,685	59,929		1,697	
信託土地		61,754,035			60,912,724		841,311	
信託建設仮勘定		-			3,386		△3,386	
有形固定資産合計	98,515,611	92.1		97,194,748	92.7		1,320,863	1.4
2. 無形固定資産								
その他の無形固定資産	2,330			3,305			△975	
信託その他の無形固定資産	1,659			1,682			△23	
無形固定資産合計	3,990	0.0		4,988	0.0		△998	△20.0
3. 投資その他の資産								
差入敷金保証金	10,000			10,000			-	
長期前払費用	25,410			21,159			4,251	
投資その他の資産合計	35,410	0.0		31,159	0.0		4,251	13.6
固定資産合計	98,555,011	92.1		97,230,896	92.7		1,324,115	1.4
III 繰延資産								
創業費	-			6,107			△6,107	
投資法人債発行費	47,274			70,911			△23,637	
繰延資産合計	47,274	0.0		77,019	0.1		△29,744	△38.6
資産合計	107,017,911	100.0		104,878,555	100.0		2,139,356	2.0

(単位：千円)

科 目	当 期 (平成19年4月30日現在)		前 期 (平成18年10月31日現在)		増 減	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	前期比
負債の部		(%)		(%)		(%)
I 流動負債						
営業未払金	300,509		256,913		43,595	
短期借入金	1,800,000		6,500,000		△4,700,000	
未払費用	101,165		83,492		17,673	
未払分配金	14,478		14,356		122	
未払法人税等	1,715		574		1,141	
未払事業所税	4,549		2,561		1,988	
未払消費税等	46,755		-		46,755	
前受金	690,141		651,776		38,364	
預り金	6,200		2,765		3,434	
流動負債合計	2,965,515	2.8	7,512,440	7.2	△4,546,925	△60.5
II 固定負債						
投資法人債	25,000,000		25,000,000		-	
長期借入金	21,900,000		15,400,000		6,500,000	
信託預り敷金保証金	4,062,858		4,001,525		61,333	
固定負債合計	50,962,858	47.6	44,401,525	42.3	6,561,333	14.8
負債合計	53,928,373	50.4	51,913,965	49.5	2,014,407	3.9
純資産の部※3						
I 投資主資本						
1. 出資総額	51,434,852	48.1	51,434,852	49.0	-	-
2. 剰余金						
当期未処分利益	1,654,686		1,529,737		124,948	8.2
投資主資本合計	53,089,538	49.6	52,964,589	50.5	124,948	0.2
純資産合計	53,089,538	49.6	52,964,589	50.5	124,948	0.2
負債・純資産合計	107,017,911	100.0	104,878,555	100.0	2,139,356	2.0

②損益計算書

(単位：千円)

科 目	当 期			前 期			増 減	
	自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日			自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日			金額	前期比
	金 額	百分比	(%)	金 額	百分比	(%)		
1. 営業収益		4,050,380	100.0		3,827,928	100.0	222,451	5.8
貸貸事業収入 ※1	3,599,604			3,415,894				
その他の貸貸事業収入 ※1	450,776			412,034				
2. 営業費用		2,070,236	51.1		2,005,222	52.4	65,013	3.2
貸貸事業費用 ※1	1,749,871			1,695,761				
資産運用報酬	167,792			156,194				
役員報酬	9,000			9,000				
資産保管委託報酬	9,780			9,425				
一般事務委託報酬	54,562			53,985				
会計監査人報酬	6,500			6,500				
その他の費用	72,728			74,356				
営業利益金額		1,980,144	48.9		1,822,706	47.6	157,437	8.6
3. 営業外収益		6,588	0.2		3,313	0.1	3,275	98.8
受取利息	3,575			625				
未払分配戻入	1,550			2,687				
雑収入	1,462			-				
4. 営業外費用		331,025	8.2		294,887	7.7	36,138	12.3
支払利息	159,105			121,620				
投資法人債利息	140,326			141,673				
投資法人債発行費償却	23,637			23,637				
創業費償却	6,107			6,107				
その他営業外費用	1,848			1,848				
経常利益金額		1,655,707	40.9		1,531,132	40.0	124,574	8.1
税引前当期純利益金額		1,655,707	40.9		1,531,132	40.0	124,574	8.1
法人税、住民税及び事業税		1,894	0.0		605	0.0	1,289	213.2
法人税等調整額		△856	0.0		823	0.0	△1,679	
当期純利益金額		1,654,668	40.9		1,529,704	40.0	124,964	8.2
前期繰越利益		17			33		△16	
当期未処分利益		1,654,686			1,529,737		124,948	

③投資主資本等変動計算書

当期（自平成18年11月1日 至平成19年4月30日）

（単位：千円）

	投資主資本			純資産合計
	出資総額	剰余金	投資主資本合計	
		当期末処分利益		
前期末残高	51,434,852	1,529,737	52,964,589	52,964,589
当期変動額				
剰余金の分配	—	△1,529,720	△1,529,720	△1,529,720
当期純利益金額	—	1,654,668	1,654,668	1,654,668
当期変動額合計	—	124,948	124,948	124,948
当期末残高※1	51,434,852	1,654,686	53,089,538	53,089,538

前期（自平成18年5月1日 至平成18年10月31日）

（単位：千円）

	投資主資本			純資産合計
	出資総額	剰余金	投資主資本合計	
		当期末処分利益		
前期末残高	51,434,852	1,451,168	52,886,020	52,886,020
当期変動額				
剰余金の分配	—	△1,451,135	△1,451,135	△1,451,135
当期純利益金額	—	1,529,704	1,529,704	1,529,704
当期変動額合計	—	78,568	78,568	78,568
当期末残高	51,434,852	1,529,737	52,964,589	52,964,589

④金銭の分配に係る計算書

科 目	期 別	当期	前期
		自 平成18年11月1日 至 平成19年4月30日	自 平成18年5月1日 至 平成18年10月31日
I 当期末処分利益		1,654,686,218	1,529,737,724 円
II 分配金の額 (投資口1口当たり分配金の額)		1,654,645,200 (16,318 円)	1,529,720,400 円 (15,086 円)
III 次期繰越利益		41,018 円	17,324 円
分配金の額の算出方法		本投資法人の規約第13条第1項に定める分配方針に基づき、分配金の額は利益の金額を限度とし、かつ、租税特別措置法第67条の15に規定されている「配当可能所得の金額」の90%に相当する金額を超えるものとしております。かかる方針により、当期末処分利益を超えない額で発行済投資口数101,400口の整数倍の最大値となる1,654,645,200円を利益分配金として分配することいたしました。なお本投資法人規約第13条第2項に定める利益を超えた金銭の分配は行いません。	本投資法人の規約第13条第1項に定める分配方針に基づき、分配金の額は利益の金額を限度とし、かつ、租税特別措置法第67条の15に規定されている「配当可能所得の金額」の90%に相当する金額を超えるものとしております。かかる方針により、当期末処分利益を超えない額で発行済投資口数101,400口の整数倍の最大値となる1,529,720,400円を利益分配金として分配することいたしました。なお本投資法人規約第13条第2項に定める利益を超えた金銭の分配は行いません。

⑤キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	期別	当期		前期	
		自 平成18年11月 1日 至 平成19年 4月 30日		自 平成18年 5月 1日 至 平成18年10月 31日	
		金	額	金	額
I	営業活動によるキャッシュ・フロー				
	税引前当期純利益金額	1,655,707		1,531,132	
	減価償却費	658,540		689,009	
	創業費償却	6,107		6,107	
	投資法人債発行費償却	23,637		23,637	
	受取利息	△3,575		△625	
	未払分配金戻入	△1,550		△2,687	
	支払利息	299,431		263,293	
	信託有形固定資産除却損	106		196	
	営業未収入金の増加・減少額	△5,335		1,464	
	未収消費税等の増加・減少額	64,964		△63,414	
	営業未払金の増加・減少額	15,705		7,992	
	未払消費税等の増加・減少額	46,755		△71,342	
	前受金の増加・減少額	38,364		3,286	
	その他	△58,406		17,124	
	小計	2,740,453		2,405,173	
	利息の受取額	3,575		625	
	利息の支払額	△289,878		△245,686	
	法人税等の支払額	△752		△1,866	
	営業活動によるキャッシュ・フロー	2,453,397		2,158,245	
II	投資活動によるキャッシュ・フロー				
	信託有形固定資産の取得による支出	△1,951,950		△5,443,084	
	信託預り敷金保証金の収入	224,409		215,689	
	信託預り敷金保証金の支出	△163,076		△148,581	
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,890,616		△5,375,976	
III	財務活動によるキャッシュ・フロー				
	短期借入金の借入による収入	1,800,000		5,000,000	
	短期借入金の返済による支出	△6,500,000		—	
	長期借入金の借入による収入	6,500,000		—	
	分配金の支払額	△1,528,047		△1,450,818	
	財務活動によるキャッシュ・フロー	271,952		3,549,181	
IV	現金及び現金同等物の増加・減少額	834,733		331,451	
V	現金及び現金同等物の期首残高	7,364,781		7,033,330	
VI	現金及び現金同等物の期末残高※1	8,199,514		7,364,781	

⑥注記表

[重要な会計方針に係る事項に関する注記]

期 別 項 目	当 期	前 期
	自 平成18年11月1日 至 平成19年4月30日	自 平成18年5月1日 至 平成18年10月31日
1. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定額法を採用しております。 なお、主たる有形固定資産の耐用年数は以下のとおりであります。 器具備品 3年 信託建物 3年～47年 信託構築物 3年～37年 信託器具備品 3年～10年 また、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産につきましては残存価格を廃止し、耐用年数経過時点において備忘価格の1円を残して全額償却する方法を採用しております。 (2) 長期前払費用 定額法を採用しております。	(1) 有形固定資産 定額法を採用しております。 なお、主たる有形固定資産の耐用年数は以下のとおりであります。 器具備品 3年 信託建物 3年～47年 信託構築物 3年～37年 信託器具備品 3年～10年 (2) 長期前払費用 定額法を採用しております。
2. 繰延資産の処理方法	(1) 創業費 5年間で均等額を償却しております。 (2) 投資法人債発行費 3年間で均等額を償却しております。	(1) 創業費 5年間で均等額を償却しております。 (2) 投資法人債発行費 3年間で均等額を償却しております。
3. 収益及び費用の計上基準	固定資産税等の処理方法 保有する不動産にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、原則として賦課決定された税額のうち当期に納税する額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しております。 但し、保有する不動産のうち、各期毎に分割納付回数異なる物件にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、年間納付回数を営業期間に対応させた額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しております。 なお、不動産又は不動産を信託財産とする信託受益権の取得に伴い、精算金として譲渡人に支払った初年度の固定資産税等相当額については、費用に計上せず当該不動産等の取得原価に算入しております。当期において不動産等の取得原価に算入した固定資産税等相当額は、1,734千円であります。	固定資産税等の処理方法 保有する不動産にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、賦課決定された税額のうち当期に納税する額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しております。 なお、不動産又は不動産を信託財産とする信託受益権の取得に伴い、精算金として譲渡人に支払った初年度の固定資産税等相当額については、費用に計上せず当該不動産等の取得原価に算入しております。当期において不動産等の取得原価に算入した固定資産税等相当額は、2,107千円あります。
4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金及び信託現金、随時引き出し可能な預金及び信託預金並びに容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金及び信託現金、随時引き出し可能な預金及び信託預金並びに容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 不動産等を信託財産とする信託受益権に関する会計処理方針 保有する不動産等を信託財産とする信託受益権につきましては、信託財産内の全ての資産及び負債勘定並びに信託財産に生じた全ての収益及び費用勘定について、貸借対照表及び損益計算書の該当勘定科目に計上しております。 なお、該当勘定科目に計上した信託財産のうち重要性がある下記の科目については、貸借対照表において区分掲記しております。 ① 信託現金及び信託預金 ② 信託建物、信託構築物、信託器具備品、信託土地 ③ 信託その他の無形固定資産 ④ 信託預り敷金保証金 (2) 消費税等の処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。	(1) 不動産等を信託財産とする信託受益権に関する会計処理方針 保有する不動産等を信託財産とする信託受益権につきましては、信託財産内の全ての資産及び負債勘定並びに信託財産に生じた全ての収益及び費用勘定について、貸借対照表及び損益計算書の該当勘定科目に計上しております。 なお、該当勘定科目に計上した信託財産のうち重要性がある下記の科目については、貸借対照表において区分掲記しております。 ① 信託現金及び信託預金 ② 信託建物、信託構築物、信託器具備品、信託土地、信託建設仮勘定 ③ 信託その他の無形固定資産 ④ 信託預り敷金保証金 (2) 消費税等の処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

[会計方針の変更に関する注記]

項目	期別	当期	前期
		自 平成18年11月1日 至 平成19年4月30日	自 平成18年5月1日 至 平成18年10月31日
1. 貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準		—	当期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準委員会 平成17年12月9日 企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。 なお、従来の「出資の部」の合計に相当する金額は52,964,589千円であります。
2. 固定資産の減価償却の方法		平成19年度税制改正により、当期より平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について残存価格を廃止し、耐用年数経過時点で備忘価格の1円を残して全額償却する方法を採用しております。 この結果、従来の処理方法に比較して、賃貸事業費用が15千円増加しております。	—

[追加情報]

項目	期別	当期	前期
		自 平成18年11月1日 至 平成19年4月30日	自 平成18年5月1日 至 平成18年10月31日
3. 固定資産税等の処理方法		当期より、保有する不動産のうち、各期毎に分割納付回数異なる物件にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、年間納付回数を営業期間に対応させた額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しております。 この結果、従来の処理方法に比較して、賃貸事業費用が27,576千円減少しております。	—

[貸借対照表に関する注記]

項目	期別	当期	前期
		(平成19年4月30日現在)	(平成18年10月31日現在)
※1 国庫補助金により取得した有形固定資産の圧縮記帳額		信託建物 19,834千円	信託建物 19,834千円
※2 コミットメント・ライン設定契約に係る借入未実行枠残高等		本投資法人は、短期的な資金需要に機動的に対応することを主たる目的として株式会社あおぞら銀行とコミットメント・ライン設定契約を締結しております。	本投資法人は、短期的な資金需要に機動的に対応することを主たる目的として株式会社あおぞら銀行とコミットメント・ライン設定契約を締結しております。
		コミットメント・ラインの総額 1,000,000千円	コミットメント・ラインの総額 1,000,000千円
		当期末借入残高 —千円	当期末借入残高 —千円
		当期末未実行枠残高 1,000,000千円	当期末未実行枠残高 1,000,000千円
※3 投資信託及び投資法人に関する法律第67条第4項に定める最低純資産額		50,000千円	50,000千円

[損益計算書に関する注記]

当期 自 平成18年11月 1日 至 平成19年 4月30日	前期 自 平成18年 5月 1日 至 平成18年10月31日
<p>※1 不動産賃貸事業損益の内訳</p> <p>A. 不動産賃貸事業収益</p> <p>賃貸事業収入</p> <p>(賃料) 3,108,236 千円</p> <p>(共益費) <u>491,367 千円</u></p> <p>計 3,599,604 千円</p> <p>その他の賃貸事業収入</p> <p>(駐車場使用料) 95,517 千円</p> <p>(施設使用料) 25,299 千円</p> <p>(付帯収益) 203,440 千円</p> <p>(その他の雑収入) <u>126,518 千円</u></p> <p>計 <u>450,776 千円</u></p> <p>不動産賃貸事業収益合計 4,050,380 千円</p> <p>B. 不動産賃貸事業費用</p> <p>賃貸事業費用</p> <p>(外注委託費) 451,623 千円</p> <p>(水道光熱費) 198,891 千円</p> <p>(公租公課) 208,619 千円</p> <p>(損害保険料) 12,653 千円</p> <p>(修繕費) 150,113 千円</p> <p>(信託報酬) 44,442 千円</p> <p>(減価償却費) 657,541 千円</p> <p>(その他の賃貸事業費用) <u>25,985 千円</u></p> <p>不動産賃貸事業費用合計 1,749,871 千円</p> <p>C. 不動産賃貸事業損益 (A-B) 2,300,508 千円</p>	<p>※1 不動産賃貸事業損益の内訳</p> <p>A. 不動産賃貸事業収益</p> <p>賃貸事業収入</p> <p>(賃料) 2,935,708 千円</p> <p>(共益費) <u>480,186 千円</u></p> <p>計 3,415,894 千円</p> <p>その他の賃貸事業収入</p> <p>(駐車場使用料) 92,477 千円</p> <p>(施設使用料) 24,375 千円</p> <p>(付帯収益) 237,682 千円</p> <p>(その他の雑収入) <u>57,497 千円</u></p> <p>計 <u>412,034 千円</u></p> <p>不動産賃貸事業収益合計 3,827,928 千円</p> <p>B. 不動産賃貸事業費用</p> <p>賃貸事業費用</p> <p>(外注委託費) 431,488 千円</p> <p>(水道光熱費) 219,815 千円</p> <p>(公租公課) 181,357 千円</p> <p>(損害保険料) 13,127 千円</p> <p>(修繕費) 92,722 千円</p> <p>(信託報酬) 42,520 千円</p> <p>(減価償却費) 688,009 千円</p> <p>(その他の賃貸事業費用) <u>26,718 千円</u></p> <p>不動産賃貸事業費用合計 1,695,761 千円</p> <p>C. 不動産賃貸事業損益 (A-B) 2,132,167 千円</p>

[投資主資本等変動計算書に関する注記]

当期 自 平成18年11月 1日 至 平成19年 4月30日	前期 自 平成18年 5月 1日 至 平成18年10月31日
<p>※1 発行可能投資口の総口数及び発行済投資口数の総口数</p> <p>発行可能投資口の総口数 2,000,000 口</p> <p>発行済投資口数の総口数 101,400 口</p>	<p>※1 発行可能投資口の総口数及び発行済投資口数の総口数</p> <p>発行可能投資口の総口数 2,000,000 口</p> <p>発行済投資口数の総口数 101,400 口</p>

[キャッシュ・フロー計算書に関する注記]

当期 自 平成18年11月 1日 至 平成19年 4月30日	前期 自 平成18年 5月 1日 至 平成18年10月31日
<p>※1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成19年 4月30日現在)</p> <p>現金及び預金 1,476,869 千円</p> <p>信託現金及び信託預金 6,722,644 千円</p> <p>現金及び現金同等物 <u>8,199,514 千円</u></p>	<p>※1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成18年10月31日現在)</p> <p>現金及び預金 742,620 千円</p> <p>信託現金及び信託預金 6,622,160 千円</p> <p>現金及び現金同等物 <u>7,364,781 千円</u></p>

[リース取引に関する注記]

当期 自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日	前期 自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日
オペレーティングリース取引（貸主側） 未経過リース料	オペレーティングリース取引（貸主側） 未経過リース料
1年内 396,142 千円 1年超 753,422 千円 合計 1,149,565 千円	1年内 396,142 千円 1年超 951,494 千円 合計 1,347,637 千円

[有価証券に関する注記]

当期 自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日	前期 自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日
本投資法人は、有価証券取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。	本投資法人は、有価証券取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

[デリバティブ取引に関する注記]

当期 自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日	前期 自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日
本投資法人は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。	本投資法人は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

[退職給付に関する注記]

当期 自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日	前期 自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日
本投資法人は、退職給付制度がありませんので、該当事項はありません。	本投資法人は、退職給付制度がありませんので、該当事項はありません。

[税効果会計に関する注記]

当期 自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日	前期 自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳 (繰延税金資産)	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳 (繰延税金資産)
未払事業税等損金不算入額 1,864 千円	未払事業税等損金不算入額 1,008 千円
繰延税金資産合計 1,864 千円	繰延税金資産合計 1,008 千円
(繰延税金資産の純額) 1,864 千円	(繰延税金資産の純額) 1,008 千円
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳
法定実効税率 39.39%	法定実効税率 39.39%
(調整)	(調整)
支払分配金の損金算入額 △39.36%	支払分配金の損金算入額 △39.34%
その他 0.03%	その他 0.04%
税効果会計適用後法人税等負担率 0.06%	税効果会計適用後法人税等負担率 0.09%

[持分法損益等に関する注記]

当期 自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日	前期 自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日
本投資法人には、関連会社が一切存在せず、該当事項はありません。	本投資法人には、関連会社が一切存在せず、該当事項はありません。

[関連当事者との取引に関する注記]

当期 自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日	前期 自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日
1. 親会社及び法人主要株主等 該当事項はありません。 2. 役員及び個人主要株主等 該当事項はありません。 3. 子会社等 本投資法人が出資する子会社等は一切存在せず、該当事項はありません。 4. 兄弟会社等 該当事項はありません。	1. 親会社及び法人主要株主等 該当事項はありません。 2. 役員及び個人主要株主等 該当事項はありません。 3. 子会社等 本投資法人が出資する子会社等は一切存在せず、該当事項はありません。 4. 兄弟会社等 該当事項はありません。

[1口当たり情報に関する注記]

当期 自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日	前期 自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日
1口当たり純資産額 523,565 円 1口当たり当期純利益金額 16,318 円 なお、1口当たり当期純利益金額は、当期純利益金額を日数加重平均投資口数で除することより算定しております。 また、潜在投資口調整後1口当たり当期純利益金額については、潜在投資口がないため記載しておりません。	1口当たり純資産額 522,333 円 1口当たり当期純利益金額 15,085 円 なお、1口当たり当期純利益金額は、当期純利益金額を日数加重平均投資口数で除することより算定しております。 また、潜在投資口調整後1口当たり当期純利益金額については、潜在投資口がないため記載しておりません。

(注) 1口当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	当期 自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日	前期 自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日
当期純利益金額 (千円)	1,654,668	1,529,704
普通投資主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通投資口に係る当期純利益金額 (千円)	1,654,668	1,529,704
期中平均投資口数 (口)	101,400	101,400

[重要な後発事象に関する注記]

当期 自 平成 18 年 11 月 1 日 至 平成 19 年 4 月 30 日	前期 自 平成 18 年 5 月 1 日 至 平成 18 年 10 月 31 日
<p>A. 資産の取得について</p> <p>a. 本投資法人は、規約に定める資産運用の基本方針等に基づき、手元資金及び借入（下記B. 「資金の借入について」記載）により、平成 19 年 5 月 18 日に以下のとおり資産を取得しました。</p> <p>〔プレミア東陽町ビル〕 (取得の概要) 取得資産：不動産を信託する信託の受益権 取得価格（注）：4,310 百万円 (取得資産の概要) 所在地（住居表示）：東京都江東区東陽三丁目 23 番 21 号 用途：事務所、車庫 敷地面積：1,080.98 ㎡ 建物延床面積：5,054.32 ㎡ 構造：鉄骨・鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 7 階建 建築時期：平成 18 年 10 月 総賃貸可能面積：3,857.04 ㎡ (注) 取得価格は、当該不動産の取得に要した諸費用（売買媒介手数料、公租公課等）を含まない金額（売買契約書等に記載された売買価格）を記載しております。</p> <p>b. 本投資法人は、規約に定める資産運用の基本方針等に基づき、平成 19 年 5 月 18 日に以下の資産につき不動産信託受益権譲渡契約を締結し、平成 19 年 6 月 29 日の取得を予定しております。</p> <p>〔YS 海岸ビル〕 (取得の概要) 取得資産：不動産を信託する信託の受益権 取得予定価格（注 1）：5,100 百万円 (取得資産の概要) 所在地（住居表示）：東京都港区海岸二丁目 2 番 6 号 用途（注 2）：事務所、共同住宅、駐車場 敷地面積：1,670.99 ㎡ 建物延床面積：8,476.92 ㎡ 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根 12 階建 建築時期：平成 5 年 1 月 併設住宅戸数：12 戸 総賃貸可能面積：6,383.57 ㎡ (注 1) 取得予定価格は、当該不動産の取得に要した諸経費（売買媒介手数料、公租公課等）を含まない金額（売買契約書等に記載された売買価格）を記載しております。 (注 2) 本物件は、上層階 3 階（10 階～12 階）に住宅が併設されたオフィスビルです。</p> <p>c. 本投資法人は、規約に定める資産運用の基本方針等に基づき、平成 19 年 5 月 25 日に以下の資産につき不動産信託受益権譲渡契約を締結し、平成 19 年 6 月 29 日の取得を予定しております。</p> <p>〔プレミアステージ大塚〕 (取得の概要) 取得資産：不動産を信託する信託の受益権 取得予定価格（注）：1,310 百万円 (取得資産の概要) 所在地（住居表示）：東京都豊島区南大塚三丁目 34 番 8 号 用途：共同住宅、店舗 敷地面積：254.76 ㎡ 建物延床面積：1,894.61 ㎡ 構造：鉄筋コンクリート造陸屋根 14 階建 建築時期：平成 18 年 8 月 戸数：58 戸、店舗 1 区画 総賃貸可能面積：1,644.64 ㎡ (注) 取得予定価格は、当該不動産の取得に要した諸経費（売買媒介手数料、公租公課等）を含まない金額（売買契約書等に記載された売買価格）を記載しております。</p> <p>B. 資金の借入について 本投資法人は、平成 19 年 5 月 18 日に不動産信託受益権（上記A. 「資産の取得について」記載のプレミア東陽町ビル）の取得資金及び当該取得に関連する諸費用の一部に充当するため、平成 19 年 5 月 16 日付極度内貸付契約に基づき以下のとおり借入を行いました。</p> <p>借 入 金 額：4,400 百万円 借 入 先：住友信託銀行株式会社、中央三井信託銀行株式会社、株式会社みずほ銀行及び株式会社三井住友銀行 借 入 日：平成 19 年 5 月 18 日 元本返済日：平成 20 年 5 月 16 日 元本返済方法：期限一括返済 金 利：変動金利型（各利息計算期間に対応する TIBOR+0.45%） 担保の有無：無担保・無保証</p>	<p>該当事項はありません。</p>

(2) 発行済投資口数の増減

当期における増資等はありません。なお、本投資法人の設立から当期までの増資等の状況は以下のとおりです。

年月日	摘要	発行済投資口数 (口)		出資金総額 (百万円)		備考
		増減	残高	増減	残高	
平成14年 5月 2日	私募設立	400	400	200	200	(注1)
平成14年 9月 10日	公募増資	59,000	59,400	27,187	27,387	(注2)
平成15年11月15日	公募増資	18,000	77,400	8,699	36,087	(注3)
平成15年12月10日	グリーンシュエーションによる第三者割当	2,000	79,400	966	37,053	(注4)
平成17年 5月 31日	公募増資	22,000	101,400	14,381	51,434	(注5)

(注1) 1口当たり500,000円にて本投資法人が設立されました。

(注2) 1口当たり480,000円(引受価額460,800円)にて、物件の取得資金等の調達を目的として公募にて新投資口を発行いたしました。

(注3) 1口当たり501,760円(引受価額483,328円)にて、物件の取得資金等の調達を目的として公募にて新投資口を発行いたしました。

(注4) 平成15年11月15日に行われた公募増資に伴い、1口当たり483,328円にて、日興シティグループ証券会社(現 日興シティグループ証券株式会社)に対して新投資口の割当てを行いました。

(注5) 1口当たり677,180円(引受価額653,686円)にて、物件の取得資金の一部及び借入金の返済等に充当することを目的として公募にて新投資口を発行いたしました。

4. 参考情報

(1) 本投資法人の財産の構成

資産の種類	用途等による区分	地域等による区分	当期 (平成19年4月30日現在)		前期 (平成18年10月31日現在)	
			保有総額 (百万円)(注2)	対総資産 比率(%)	保有総額 (百万円)(注2)	対総資産 比率(%)
信託不動産	オフィスビル	都心5区	35,275	33.0	35,435	33.8
		東京23区	1,368	1.3	1,381	1.3
		周辺都市部	10,773	10.1	10,817	10.3
		小計	47,417	44.3	47,634	45.4
	レジデンス	都心5区	42,226	39.5	42,506	40.5
		東京23区	8,871	8.3	7,054	6.7
		周辺都市部	—	—	—	—
		小計	51,098	47.7	49,560	47.3
合計		98,515	92.1	97,194	92.7	
預金等のその他資産	—	—	8,502	7.9	7,683	7.3
資産合計(注1)	—	—	107,017	100.0	104,878	100.0

(注1) 上表中の「資産合計」は、貸借対照表における資産合計を記載しております。

(注2) 上表中の「保有総額」は、取得価額(取得に伴う付帯費用を含みます。)から、減価償却累計額を控除した金額です。なお、不動産等を主な信託財産とする信託受益権には信託財産内の預金は含まれておりません。

	当期 (平成19年4月30日現在)		前期 (平成18年10月31日現在)	
	金額(百万円)	対総資産比率(%)	金額(百万円)	対総資産比率(%)
負債総額	53,928	50.4	51,913	49.5
純資産総額	53,089	49.6	52,964	50.5
資産総額	107,017	100.0	104,878	100.0

(2) 投資不動産物件及び不動産を信託する信託の受益権等

①投資資産の概要及び価格と投資比率

下記の表は、平成19年4月30日時点における本投資法人の保有に係る投資資産の概要を一覧表にまとめたものです。個々の投資資産については、下記「②個別資産の概要」をご参照ください。なお、下記投資資産はいずれも不動産を信託する信託の受益権です。

用途	地域	物件 番号	物件名称	取得価格 (百万円) (注1)	貸借対照表 計上額 (百万円) (注2)	投資比率 (注3) (注4)	期末算定価額 (百万円) (注5)	期末 稼働率 (注3)	
オフィス	都心 5区	A 1	ランディック新橋ビル	6,341	6,450	6.4%	7,970	88.3%	
		A 2	ランディック第2新橋ビル	7,045	7,117	7.1%	9,320	100.0%	
		A 3	フジビル37	1,727	1,635	1.7%	2,820	100.0%	
		A 4	KN渋谷3	5,348	5,158	5.4%	8,480	100.0%	
		A 5	高田馬場センタービル	5,118	4,775	5.1%	6,750	100.0%	
		A 6	六番町ビル	7,860	8,344	7.9%	9,850	100.0%	
		A 7	櫻岳ビル	1,796	1,792	1.8%	2,030	100.0%	
	東京 23区	B 1	I P B御茶ノ水ビル	1,456	1,368	1.5%	1,700	100.0%	
	周辺 都市部	C 1	日総第3ビル	3,558	3,518	3.6%	5,230	100.0%	
		C 2	かながわサイエンスパーク R&D棟	6,556	5,853	6.6%	8,020	96.0%	
		C 3	NARA BUILDING II	1,580	1,401	1.6%	2,260	92.3%	
	オフィス小計				48,385	47,417	48.6%	64,430	97.5%
	レジデンス	都心 5区	D 1	パークアクシス四谷ステージ	5,208	5,053	5.2%	5,510	98.4%
D 2			パークアクシス明治神宮前	2,604	2,611	2.6%	2,430	100.0%	
D 3			サンパレス南麻布	1,150	1,122	1.2%	1,010	93.8%	
D 4			キャビンアリーナ赤坂	1,330	1,311	1.3%	1,620	100.0%	
D 5			キャビンアリーナ南青山	1,070	1,045	1.1%	1,270	97.4%	
D 6			ビューロー紀尾井町	1,840	1,871	1.8%	1,830	100.0%	
D 7			ホームマツウッドビル	5,090	5,080	5.1%	5,150	100.0%	
D 8			六本木グリーンテラス	4,678	4,522	4.7%	5,570	92.6%	
D 9			ビーサイト芝公園	2,181	2,100	2.2%	2,190	100.0%	
D10			プレミアステージ日本橋茅場町	2,430	2,421	2.4%	2,930	96.0%	
D11			ラング・タワー京橋	927	928	0.9%	1,120	95.0%	
D12			プレミアステージ三田慶大前	1,580	1,613	1.6%	1,910	95.0%	
D13			プレミアアロッソ	1,662	1,690	1.7%	1,860	91.8%	
D14			プレミアブラン代々木公園	2,330	2,339	2.3%	2,510	80.7%	
D15			プレミアステージ内神田	1,723	1,725	1.7%	2,220	88.5%	
D16			プレミアステージ市ヶ谷河田町	1,460	1,496	1.5%	1,640	100.0%	
D17			Walk赤坂	2,043	2,015	2.1%	2,190	100.0%	
D18			プレミアステージ芝公園	1,585	1,655	1.6%	1,620	81.6%	
D19			MEW	1,556	1,619	1.6%	1,540	92.6%	
東京 23区		E 1	ビーサイト大崎	1,072	1,028	1.1%	1,110	100.0%	
		E 2	プレミアガーデン本郷	975	1,007	1.0%	1,120	100.0%	
	E 3	プレミアグランデ馬込	1,560	1,540	1.6%	1,400	90.7%		
	E 4	プレミアノッツェ祐天寺	1,525	1,610	1.5%	1,550	90.0%		
	E 5	アクロス湯島	1,803	1,820	1.8%	1,840	96.6%		
	E 6	プレミアステージ駒込	1,830	1,863	1.8%	1,830	81.2%		
レジデンス小計				51,213	51,098	51.4%	54,970	94.7%	
合計				99,598	98,515	100.0%	119,400	96.1%	

(注1) 「取得価格」は、当該不動産の取得に要した諸費用(売買媒介手数料、公租公課等)を含まない金額(売買契約書等に記載された売買価格)を記載しております。

(注2) 「貸借対照表計上額」は、取得価額(取得に伴う付帯費用を含みます。)から、減価償却累計額を控除した金額です。また信託その他無形固定資産(合計1,659千円)は含んでおりません。

(注3) 「投資比率」及び「期末稼働率」は、小数点第二位を四捨五入しております。

(注4) 「投資比率」とは、本投資法人の取得価格の総額に対する当該資産の取得価格の比率をいいます。

(注5) 「期末算定価額」は、投資法人規約に定める資産評価の方法及び基準並びに社団法人投資信託協会の定める規則に基づき、不動産鑑定士による鑑定評価に基づく評価額（決算日を価格時点とする財団法人日本不動産研究所、日本土地建物株式会社、青山リアルティアー・アドバイザーズ株式会社及び東京建物株式会社作成の報告書によります。）を記載しております（百万円未満を切捨てにより表示しております。）。

なお、各評価機関による評価対象物件（物件番号で表示しております。）は以下のとおりです。

財団法人日本不動産研究所：A1～A5、B1、C1～C3、D1～D11、D15、E1～E2

日本土地建物株式会社：A6～A7、D12～D13、D17、E3

青山リアルティアー・アドバイザーズ株式会社：D14、D16、D18、E4～E6

東京建物株式会社：D19

②個別資産の概要

個別の保有不動産に関する概要は以下のとおりです。かかる概要は、登記事項証明書等及び保有不動産に関して実施された法務調査、境界確認・越境状況等につき実施された物件調査及び建物等に対して実施された建物状況調査等に基づき記載しております。なお記載内容は、原則として、平成19年4月30日時点の情報を基準としております。

<特定資産の概要>			
①	「所在地（住居表示を除きます）」、「面積」、「延床面積」、「構造」、「建築時期」については、登記簿上に表示されているものを記載しております。		
②	「用途」については、登記簿上に表示されている種類のうち、主要なものを記載しております。		
③	「用途地域」については、都市計画法(昭和43年法律第100号、その後の改正を含みます。以下「都市計画法」といいます。)第8条第1項第1号に掲げる用途地域の種類を記載しております。		
④	「PM会社」については、プロパティ・マネジメント業務受託者を記載しております。		
<損益状況>			
①	不動産賃貸事業損益は、各保有不動産の不動産賃貸事業収益から各保有不動産に直接かかる不動産賃貸事業費用を控除した、その差額を指しています。資産運用報酬、支払利息等については不動産賃貸事業費用に含まれておりません。		
②	「保険料」「信託報酬」は「その他支出」に含まれております。		
③	金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。		
④	固定資産税、都市計画税等については、原則として賦課決定された税額のうち当期に納税する額当該決算期間において納税した額を不動産賃貸事業費用として費用処理しております。但し、保有する不動産のうち、各期毎に分割納付回数異なる物件にかかる固定資産税、都市計画税等については、年間納付回数を営業期間に対応させた額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しております。なお、不動産の取得に伴い精算金として譲渡人に支払った取得年度の固定資産税、都市計画税等については、費用計上せず当該不動産の取得原価に算入しております。		
⑤	修繕費は、年度による差異が大きいこと及び定期的に発生する金額ではないこと等から、対象期間における修繕費が、保有不動産を長期にわたり継続して保有する場合の修繕費の金額と大きく異なる可能性があります。		
⑥	「建物管理委託報酬（プロパティ・マネジメント業務報酬）」、「建物管理委託費」は「外注委託費」に含まれております。		
<賃貸借の概況>			
①	「賃料合計（月額）」（百万円未満切捨て）は平成19年4月30日現在において有効な賃貸借契約の契約賃料合計額を記載しております。有効な賃貸借契約の契約賃料合計とは、個々の保有不動産の所有部分に係るテナントとの間で平成19年4月30日現在において有効に存続している賃貸借契約に関し、賃貸借契約上規定されている1ヶ月分の賃料及び共益費（当該賃貸借契約に付帯して締結される駐車場賃貸借契約等に規定されている駐車場使用料その他の契約上の賃料は含みません。）の合計を意味します。		
②	マスターリース契約が締結されている物件は、転借人の数をテナント総数としております。		
<取得時の鑑定評価額>			
①	記載されている数値は、財団法人日本不動産研究所、青山リアルティ・アドバイザーズ株式会社、東京建物株式会社及び株式会社日本土地建物株式会社による不動産鑑定評価書に基づいております。		
②	不動産鑑定評価書については、その内容を保証するものではなく、意見に過ぎません。		
<不動産価格調査の概要>			
①	記載されている数値は、財団法人日本不動産研究所、青山リアルティ・アドバイザーズ株式会社及び東京建物株式会社による調査報告書並びに日本土地建物株式会社による不動産価格調査書に基づいております。		
②	資産運用会社としては、決算期末毎にその価格の推移を知るために調査報告書又は不動産価格調査書を取る方針です。		
③	調査報告書又は不動産価格調査書については、その内容を保証するものではなく、意見に過ぎません。		
<特記事項>			
特記事項の記載については、保有不動産の権利関係や利用等で重要と考えられること、また評価額、収益性、処分性への影響度を考慮して重要と考えられることに関して、次の分類により記載しております。			
①	物件の権利形態等	⑧	賃貸借の概況
②	他の共有者・区分所有者との取り決め	⑨	その他
③	不動産に関する行政法規		
④	近隣との関係		
⑤	隣接地との関係		
⑥	越境物の状況		
⑦	有害物質等		

＜物件A1 ランディック新橋ビル＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区西新橋三丁目8番3号 <地番> 東京都港区西新橋三丁目2番3 他6筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	1,003.27 m ²	容積率/建ぺい率	700%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	事務所
	延床面積	6,914.84 m ²	建築時期	昭和57年6月
	構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根9階建		
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社 (注)			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	9
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	261百万円		総賃貸可能面積	5,593.24 m ²
貸室賃料・共益費	207百万円		総賃貸面積	4,941.04 m ²
その他の賃貸事業収入	53百万円		賃料合計(月額)	32百万円
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	122百万円		稼働率	88.3%
外注委託費	24百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
水道光熱費	12百万円		取得年月日	平成14年9月11日
公租公課	21百万円		取得価格	6,341百万円
修繕費	35百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
減価償却費	24百万円		価格時点	平成14年3月25日
その他支出	4百万円		鑑定評価額	6,450百万円
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	138百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
			調査の基準となる時点	平成19年4月30日
			期末評価価格	7,970百万円
(注)アール・エー・アセット・マネジメント株式会社は資産運用会社プレミア・リート・アドバイザーズ株式会社の主要株主である株式会社ケン・コーポレーション及びそのグループ会社による100%出資会社であり、投信法上の利害関係人等に該当します。				
◇ 特記事項 ◇				
[不動産に関する行政法規] 本物件は、昭和56年における改正前の建築基準法令に準拠して設計・施工された建物ですが、設計地震力について現行基準(新耐震設計法)に準拠して検討されています。しかしながら、耐震性能について現行の建築基準法上の基準を満たしていない可能性があります。				
[越境物の状況] 本物件に関し、隣接地から本物件敷地内へと、本物件の付属物等が敷地外へと、各々わずかな越境があります。この件に関して、当該隣接地所有者より、建物の全部又は一部を新築又は増改築する際に越境物を撤去することを約した確認書を取得しております。				
[賃貸借の概況] 1. 本物件の建物賃借人であるテナント1社より平成19年5月25日(契約書上の賃貸面積486.94m ²)をもって賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。 2. 平成19年4月20日において、上記1.の空室部分243.47m ² 及び空室部分652.20m ² についてそれぞれ賃貸借契約を締結しており、かかる契約に基づき平成19年6月1日に入居済みです。				

＜物件A2 ランディック第2新橋ビル＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区西新橋三丁目7番1号 <地番> 東京都港区西新橋三丁目14番1 他4筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	1,400.74 m ²	容積率/建ぺい率	600%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	事務所・店舗
	延床面積	8,332.65 m ²	建築時期	昭和53年12月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根11階建(注)		
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	9
			総賃貸可能面積	6,973.52 m ²
			総賃貸面積	6,973.52 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	276 百万円	賃料合計(月額)	42 百万円	
貸室賃料・共益費	255 百万円	稼働率	100.0%	
その他の賃貸事業収入	20 百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇		
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	86 百万円	取得年月日	平成14年9月11日	
外注委託費	18 百万円	取得価格	7,045 百万円	
水道光熱費	16 百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇		
公租公課	15 百万円	価格時点	平成14年3月25日	
修繕費	0 百万円	鑑定評価額	7,050 百万円	
減価償却費	30 百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇		
その他支出	4 百万円	調査の基準となる時点	平成19年4月30日	
(C) 不動産賃貸事業損益=(A)-(B)	190 百万円	期末評価価格	9,320 百万円	
(注)登記簿上は11階建となっておりますが、現状11階は塔屋となっております、貸室は1階乃至10階です。				
◇ 特記事項 ◇				
[不動産に関する行政法規] 本物件は、昭和56年における改正前の建築基準法令に準拠して設計・施工された建物であり、設計地震力が現行基準(新耐震設計法)に比べて小さく、耐震性能について現行の建築基準法上の基準を満たしていない可能性があります。				

<物件A3 フジビル37>

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都渋谷区道玄坂一丁目18番3号 <地番> 東京都渋谷区道玄坂一丁目28番11、16			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	435.26 m ²	容積率/建ぺい率	800%/80% (注)
建物	所有形態	所有権	用途	事務所・店舗
	延床面積	2,721.71 m ²	建築時期	平成3年6月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下2階付8階建		
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	6
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	91百万円		総賃貸可能面積	1,905.52 m ²
貸室賃料・共益費	71百万円		総賃貸面積	1,905.52 m ²
その他の賃貸事業収入	20百万円		賃料合計(月額)	12百万円
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	43百万円		稼働率	100.0%
外注委託費	7百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
水道光熱費	4百万円		取得年月日	平成14年9月10日
公租公課	5百万円		取得価格	1,727百万円
修繕費	8百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
減価償却費	15百万円		価格時点	平成14年3月25日
その他支出	1百万円		鑑定評価額	1,740百万円
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	48百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
			調査の基準となる時点	平成19年4月30日
			期末評価価格	2,820百万円
(注) 本物件の容積率については、建築基準法により、552%が上限となっております。				
◇ 特記事項 ◇				
[越境物の状況] 隣接地より、隣地建物の付属物の一部が本物件に越境しております。この件に関して覚書等は締結されておられません。				
[賃貸借の概況] 1. 本物件の建物賃借人であるテナント1社より平成19年4月30日(契約書上の賃貸面積180.90m ²)をもって賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。 2. 平成19年4月20日において、上記1.の空室予定部分180.90m ² について賃貸借契約を締結しており、かかる契約に基づき平成19年5月1日に入居済みです。				

< 物件 A 4 KN渋谷 3 >

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都渋谷区桜丘町 9 番 8 号 <地番> 東京都渋谷区桜丘町 4 番 4 他 9 筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	2,327.60 m ²	容積率/建ぺい率	500%/80% (注)
建物	所有形態	所有権	用途	事務所
	延床面積	7,737.27 m ²	建築時期	平成 5 年 2 月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 4 階建		
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成 19 年 4 月 30 日現在) ◇	
運用期間	平成 18 年 11 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 30 日 (181 日)		テナント総数	2
			総賃貸可能面積	5,824.31 m ²
			総賃貸面積	5,824.31 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	249 百万円		賃料合計 (月額)	36 百万円
貸室賃料・共益費	220 百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	29 百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	91 百万円		取得年月日	平成 14 年 9 月 11 日
外注委託費	20 百万円		取得価格	5,348 百万円
水道光熱費	15 百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	15 百万円		価格時点	平成 14 年 3 月 25 日
修繕費	3 百万円		鑑定評価額	5,980 百万円
減価償却費	31 百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	3 百万円		調査の基準となる時点	平成 19 年 4 月 30 日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	157 百万円		期末評価価格	8,480 百万円
(注) 本物件の容積率については、建築基準法により、327%が上限となっております。				
◇ 特記事項 ◇				
[隣接地との関係] 隣接地との境界について、書面による境界確定が行われておりません。				
[越境物の状況] 隣接地より、建物外壁の一部及び造作の一部が本物件に越境しております。この件に関して覚書等は締結されておりません。				

＜物件A5 高田馬場センタービル＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都新宿区高田馬場一丁目 31 番 18 号 <地番> 東京都新宿区高田馬場一丁目 310 番 3、4			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	1,556.29 m ²	容積率/建ぺい率	500%/80% (注)
建物	所有形態	所有権	用途	事務所
	延床面積	9,906.83 m ²	建築時期	平成4年5月
	構造	鉄骨・鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付12階建		
PM会社	ケネディクス株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	8
			総賃貸可能面積	6,302.81 m ²
			総賃貸面積	6,302.81 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	249 百万円		賃料合計 (月額)	34 百万円
貸室賃料・共益費	209 百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	39 百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	143 百万円		取得年月日	平成14年9月11日
外注委託費	32 百万円		取得価格	5,118 百万円
水道光熱費	18 百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	22 百万円		価格時点	平成14年3月25日
修繕費	13 百万円		鑑定評価額	5,100 百万円
減価償却費	52 百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	4 百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	105 百万円		期末評価価格	6,750 百万円
(注) 本物件は建築基準法第59条の2(総合設計制度)に基づいて、公開空地の設置を条件として容積率につき610%まで緩和措置を受けております。公開空地の所有者は、かかる公開空地を一般に開放し適正に維持・管理する義務を負います。				
◇ 特記事項 ◇				
[賃貸借の概況] 本物件の建物賃借人であるテナント1社より平成19年12月31日(契約書上の賃貸面積559.58m ²)をもって賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。				

<物件A6 六番町ビル>

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都千代田区六番町6番28号 <地番> 東京都千代田区六番町6番28			
土地	所有形態	所有権	用途地域	第二種住居地域
	面積	2,036.66 m ²	容積率/建ぺい率	400%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	事務所
	延床面積	9,339.42 m ²	建築時期	昭和62年4月
	構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付7階建		
PM会社	ケネディクス株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	1
			総賃貸可能面積	6,872.77 m ²
			総賃貸面積	6,872.77 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	-		賃料合計(月額)	- (注)
貸室賃料・共益費	-		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	-		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	-		取得年月日	平成16年3月26日
外注委託費	-		取得価格	7,860百万円
水道光熱費	-		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	-		価格時点	平成16年2月20日
修繕費	-		鑑定評価額	8,400百万円
減価償却費	-		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	-		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	213百万円		期末評価価格	9,850百万円
<p>(注) 本物件につきましては、ひとつの主要テナントとの賃貸借契約による契約賃料収入が本物件の契約賃料合計の80%を占めており、かかる主要テナントから賃料収入を開示することにつき同意を得られていないため、やむを得ない事情により開示できない場合として記載していません。</p> <p align="center">◇ 特記事項 ◇</p> <p>[不動産に関する行政法規] 本物件の土地の一部(北西側接道部)には道路計画(名称:補助64号線、計画決定日:昭和21年4月25日、幅員:15m)が計画決定されており、該当部分には都市計画法第53条及び54条に基づき、次のとおり建築制限があります。 1. 建築物を建築する場合には、原則として都道府県知事の許可が必要になること。 2. 前号の建築物は階数が2以下でかつ地階を有しないもので主要構造部が木造、鉄骨造、コンクリートブロック造その他これに類する構造であり、かつ容易に移転・除去することができるものであるときに限り許可されること。</p> <p>[越境物の影響] 隣接地より、隣地建物の付属物の一部が本物件に越境しております。この件に関して覚書等は締結されていません。</p> <p>[有害物質等] 吹付けアスベスト材の使用に関して、平成17年10月にX線回折定量分析法を用いてサンプリング調査を実施したところ、建物の一部の天井内梁部分の吹付け材より、当該吹付け材の重量の0.8%のクリソタイル(アスベストの一種)が検出されたとの報告を受けました。 その後、平成19年4月の再調査に際し、前回より多くの試験体を採取し、採取箇所を多くして、より精度の高い分析を実施した結果、不検出という結果となりました。</p>				

＜物件A7 櫻岳ビル＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都千代田区神田佐久間町二丁目19番地 <地番> 東京都千代田区神田佐久間町二丁目19番 他1筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	421.21 m ²	容積率/建ぺい率	(注)
建物	所有形態	所有権	用途	事務所
	延床面積	2,776.30 m ²	建築時期	昭和63年3月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付8階建		
PM会社	三幸エステート株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	5
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	69百万円		総賃貸可能面積	2,082.94 m ²
貸室賃料・共益費	61百万円		総賃貸面積	2,082.94 m ²
その他の賃貸事業収入	8百万円		賃料合計(月額)	10百万円
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	28百万円		稼働率	100.0%
外注委託費	6百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
水道光熱費	4百万円		取得年月日	平成17年6月1日
公租公課	4百万円		取得価格	1,796百万円
修繕費	1百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
減価償却費	9百万円		価格時点	平成17年2月7日
その他支出	1百万円		鑑定評価額	1,830百万円
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	41百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
			調査の基準となる時点	平成19年4月30日
			期末評価価格	2,030百万円
(注) 容積率/建ぺい率 西側道路より30m内80%/80%、西側道路より30m外600%/80%				
◇ 特記事項 ◇				
[隣接地との関係] 隣接地との境界について一部、書面による境界確定が行われておりません。				

＜物件B1 I P B御茶ノ水ビル＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都文京区本郷三丁目3番11号 <地番> 東京都文京区本郷三丁目301番3、6、11、14			
土地	所有形態	356.88㎡につき所有権 その他の部分につき敷地利用権	用途地域	商業地域
	面積	460.41㎡	容積率/建ぺい率	600%/80%
建物	所有形態	所有権(区分所有)	用途	事務所・倉庫
	延床面積	2,314.89㎡	建築時期	平成4年3月
	構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付9階建		
PM会社	ケネディクス株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	6
			総賃貸可能面積	2,178.65㎡
			総賃貸面積	2,178.65㎡
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	65百万円		賃料合計(月額)	9百万円
貸室賃料・共益費	58百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	6百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	33百万円		取得年月日	平成14年9月11日
外注委託費	6百万円		取得価格	1,456百万円
水道光熱費	4百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	4百万円		価格時点	平成14年3月25日
修繕費	4百万円		鑑定評価額	1,450百万円
減価償却費	12百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	1百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	31百万円		期末評価価格	1,700百万円
◇ 特記事項 ◇				
[物件の権利形態等] 権利形態 1. 建物: 本物件は、地下1階付地上9階建の事務所部分と地上6階建の住居部分で構成される区分所有建物です。本投資法人は、地下1階付地上9階建の事務所部分にかかる専有部分についての信託受益権を保有しております。また、他の区分所有者の専有部分は、以下のとおりです。 種類: 共同住宅、構造: 鉄骨造陸屋根6階建、延床面積241.28㎡、所有者: 個人(1名)				
2. 土地: 本物件の土地にかかる権利形態は、一般的な区分所有形態に見られる敷地権の(準)共有ではなく、6筆に分筆された土地を各専有部分の所有者が分有する形態となっています。このうち、本投資法人が取得している部分は4筆です。なお、信託受託者は、他の区分所有者の所有地について敷地利用権を設定しておりますが、かかる敷地利用権の登記はなされておられません。				
[他の共有者・区分所有者との取り決め] 平成12年1月31日付「I P Bお茶の水ビルに関する覚書」により、本物件の敷地についてその所有者が相互に他の所有者の敷地利用権を有すること及び土地と建物を分離して処分出来ないことが定められています。但し、かかる敷地利用権について登記がなされていないため、第三者に対抗できない可能性があります。また、本物件の区分所有権の譲渡に際し、事前に他の区分所有者に購入の機会を与える必要があります。				
[越境物の状況] 隣接地より、建物の付属設備の一部が本物件に越境しております。この件に関して、当該隣接地所有者より、建物の全部又は一部を新築又は増改築する際に越境物を撤去することを約した確認書を取得しております。				
[有害物質等] 清水建設株式会社にて実施された建物状況調査に基づく平成14年7月1日付エンジニアリングレポートによれば、ヒートポンプの冷媒として、フロン類R-22が使用されています。現状のまま使用して差し支えありませんが、交換、修理などの際にはフロンの大気中への放散を防ぐために適切な取扱いが要求されています。				
[賃貸借の概況] 本物件の建物賃借人であるテナント1社より平成19年9月5日(契約書上の賃貸面積184.37㎡)をもって賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。				

<物件C1 日総第3ビル>

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 横浜市西区北幸二丁目5番15号 <地番> 横浜市西区北幸二丁目5番15 他7筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	1,440.14 m ²	容積率/建ぺい率	600%/80% (注)
建物	所有形態	所有権	用途	事務所
	延床面積	7,562.90 m ²	建築時期	昭和61年4月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付8階建		
PM会社	ケネディクス株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	7
			総賃貸可能面積	5,487.17 m ²
			総賃貸面積	5,487.17 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	199 百万円		賃料合計 (月額)	25 百万円
貸室賃料・共益費	154 百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	44 百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	84 百万円		取得年月日	平成14年9月11日
外注委託費	20 百万円		取得価格	3,558 百万円
水道光熱費	11 百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	10 百万円		価格時点	平成14年3月25日
修繕費	17 百万円		鑑定評価額	3,570 百万円
減価償却費	22 百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	2 百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	114 百万円		期末評価価格	5,230 百万円
<p>本物件は岡野地区土地区画整理事業（施行：横浜市、規模51.5ha、換地処分昭和41年6月）において区画として定められた敷地及び敷地上の建物です。</p> <p>(注) 本物件の容積率については、建築基準法により、480%が上限となっております。</p>				
◇ 特記事項 ◇				
<p>[隣接地との関係] 南側隣接地との境界につき、書面による境界確定は行われておりません。</p>				
<p>[越境物の状況] 1. 南東側隣接地との境界に、本物件に付属する既存扉があります。かかる扉につき、当事者の申込みによりいつでも撤去できること（但し、費用は申込者の負担）とし、第三者に譲渡した場合でもかかる事項を承継させる旨の確認書を隣接地所有者と取り交わしております。 2. 南西側隣接地との境界に、隣接地所有者の建物に付属する既存扉があります。かかる扉につき、当事者の申込みによりいつでも撤去できること（但し、費用は申込者の負担）とし、第三者に譲渡した場合でもかかる事項を承継させる旨の確認書を隣接地所有者と取り交わしております。</p>				
<p>[有害物質等] 9階屋上に設置された高圧受電設備につき、平成18年4月に実施した更新工事に際して、使用済み変圧器から微量のポリ塩化ビフェニル（PCB）が検出されました。当該使用済み変圧器につきましては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号、その後の改正を含みます。）、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（平成13年法律第65号、その後の改正を含みます。）その他の法令等に従い、現在地下1階に適切に保管されており、適切な処理方法に基づいて処分する予定です。</p>				

＜物件C 2 かながわサイエンスパーク R & D棟＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号 <地番> 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目100番1			
土地	所有形態	所有権(敷地権)(敷地権割合:1,000,000分の683,672)の共有(共有持分1,000,000分の270,000)		
	面積	55,362.76 m ²	容積率/建ぺい率	200%/60%(注)
	用途地域	工業地域		
建物	所有形態	区分所有権の共有(共有持分:1,000,000分の270,000)		
	用途	事務所・研究所	建築時期	平成1年7月
	延床面積	83,500.67 m ²		
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付12階建		
PM会社	株式会社ケイエスピーコミュニティ			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	48
			総賃貸可能面積	15,074.30 m ²
			総賃貸面積	14,468.63 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益	小計	493百万円	賃料合計(月額)	70百万円
貸室賃料・共益費		406百万円	稼働率	96.0%
その他の賃貸事業収入		87百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用	小計	269百万円	取得年月日	平成14年9月11日
外注委託費		62百万円	取得価格	6,556百万円
水道光熱費		83百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課		35百万円	価格時点	平成14年3月25日
修繕費		25百万円	鑑定評価額	6,670百万円
減価償却費		58百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出		4百万円	調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)		224百万円	期末評価価格	8,020百万円
<p>本物件は、かながわサイエンスパーク内の1棟の建物(建物の名称R&D棟、区分所有割合100万分の683,672)及びその敷地です。信託受託者は、本物件を他の共有者3名と共有しております。信託受託者の本物件に関する共有持分は100万分の27万です。また、信託受託者はその共有持分を本投資法人のために保有しております。</p> <p>(注)本物件は建築基準法第59条の2(総合設計制度)に基づいて、公開空地の設置を条件として容積率につき260%まで緩和措置を受けております。公開空地の所有者は、かかる公開空地を一般に開放し適正に維持・管理する義務を負います。</p>				
◇ 特記事項 ◇				
[他の共有者・区分所有者との取り決め]				
<ol style="list-style-type: none"> 所有権の譲渡に関しては、区分所有者間の協定書の定め及び管理規約により、他の区分所有者及び共有者(以下本項において「区分所有者等」といいます。)に優先交渉権があります。また、他の区分所有者等が取得を希望しない場合には、他の区分所有者等の書面による承諾を得たうえで第三者に譲渡できます。 区分所有者間の協定書の定めにより、所有権を担保等に提供するに際しては、他の区分所有者の承諾を要します。また、区分所有者は、本物件の管理規約により、区分所有権を担保等に提供する場合、他の区分所有者に書面をもって通知しなければなりません。 修繕その他区分所有者の共同の利益に係る管理に関する事項等については、全区分所有者及び共有者により構成され、管理者である株式会社ケイエスピーコミュニティを議長とする管理運営協議会において承認を得る必要があります。 				
[不動産に関する行政法規]				
<p>本物件を有償で譲渡するときは、公有地の拡大の推進に関する法律(昭和47年法律第66号、その後の改正を含みます。以下「公拡法」といいます。)第4条の規定により、あらかじめ神奈川県知事に対して、譲渡予定価格等について届出を行い、届出後3週間を経過するか又は知事から買取りを希望しない旨の通知があるまでは売買契約を締結することはできません。また、上記期間内に地方公共団体等から買取りの協議を行う旨の通知があった場合には、通知の日から3週間を協議期間として、売買契約を締結することはできないこととされています。なお、信託設定及び信託受益権譲渡においては、公拡法に基づく届出は不要です。</p>				
[近隣との関係]				
<p>環境保全等に関して、周辺住民との間で「かながわサイエンスパーク環境保全等に関する協定書」及び「KSP環境保全等住民</p>				

懇談会規約」を締結しており、環境保全のため原則として行えない実験、入居テナントに対する研究廃棄物処理についての規制等を定めております。

[隣接地との関係]

1. 本物件の隣接地との境界は全て確定しておりますが、一部の境界標について確認できないものがあります。
2. 対象地南東側で接する市道部分については、公図上「1番 141」の地番表示がありますが、登記簿上当該地番は存在せず、公図と登記簿が不一致の状態になっております。

[有害物質等]

1. 清水建設株式会社にて実施された建物状況調査に基づく平成14年7月1日付エンジニアリングレポートによれば、本物件の所在地には、かつて工作機械、エンジン等の製造工場がありました。本物件に係る開発時に環境アセスメントが実施されており、当該アセスメントに基づく調査報告書によれば、基準を超過する有害物質は検出されておられません。当該アセスメントは、現行の「土壤環境基準」及び「神奈川県条例」並びに「川崎市条例」と比較した場合、調査の基準を十分に満たすものではありませんが、調査結果の数値から重金属類による土壤汚染の懸念は小さいものと推察されます。なお、将来において施設の建替えや用途変更等を実施する場合には、「川崎市公害防止条例の保全に関する条例」に基づき、土壤を調査し市長に報告しなければならないこととされています。
2. 前記エンジニアリングレポートによれば、本物件の敷地内に設置されている地域熱供給のボイラー煙道には、アスベストを含む材料が使用されている可能性があります。アスベストが含まれている場合であっても、現状のまま使用して問題はありませんが、保守点検や改修工事等の際には粉塵を抑制しながら作業することが要求されます。
3. 本物件は、技術研究・開発のための施設であり、様々な業種の企業に施設を賃貸することを予定しております。テナントの入居前に、前記管理運営協議会により設置された学識経験者から構成される環境保全委員会において、当該テナントの使用設備及び使用薬品等について審査を実施する等、環境保全に万全を期すよう務めますが、テナントが使用する化学物質・有害物質が環境上の問題を起す懸念が全くないとはいえません。

[賃貸借の概況]

1. 本物件の「総賃貸可能面積」及び「総賃貸面積」は実際の賃貸借可能面積及び総賃貸面積に本投資法人の保有割合（共有持分27%）を乗じた数字を示しています。また「賃貸事業収入」は本投資法人の保有部分（共有持分27%、共益費については全区分所有に係る共用部分のうちの保有部分である18.4591%）に係る金額を記載しています。
2. 本物件の建物賃借人であるテナント3社より平成19年5月24日、平成19年6月25日及び平成19年9月30日（契約書上の賃貸面積64.01㎡、21.09㎡及び41.82㎡）をもってそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。
3. 平成19年4月27日において、空室部分21.09㎡について賃貸借契約を締結しており、かかる契約に基づき平成19年5月1日に入居済みです。

[かながわサイエンスパークの概要]

(1) 概要

かながわサイエンスパークは、「研究開発型企業が生まれ、育ち、集い＝交流する」をテーマとした都市型サイエンスパークです。都心から15km圏内という恵まれた立地条件、各種企業、大学研究所が集積する地域特性を活かして、研究開発型企業の実験室、研究室、研究支援、交流施設等が集積し、産・学・公の連携により研究開発活動を支援しています。また、敷地内の一部は公開空地として緑地・公園等が整備されており、豊かな緑の都市空間と共に、各種複合的施設、企業群が有機的に結合することにより、ハイコンプレックスシティを形成しています。

(2) 施設

① R&D棟（R&Dビジネスパーク・ビル）

本投資法人が取得した信託受益権の対象となるオフィスビルです。わが国最初の研究開発型マルチテナントビルで、上から見ると中央に吹き抜けアトリウムを持つX型をしており、研究開発型企業が多数入居しています。

② イノベーションセンター・ビル西棟

郵便局、銀行ATM、書店、コンビニ、飲食店が集積する総合エントランスホール、国際会議・レセプション対応ホール、各種セミナー・会議のための貸会議室、館内社員食堂、ベンチャー企業のための小区画オフィス等があります。

③ イノベーションセンター・ビル東棟

開放型試験研究施設（ラボ）、研究開発型企業育成支援施設（スタートアップルーム）が整備されています。なお、上記①乃至③の3棟の延床面積の合計は144,460.40㎡（登記簿上）となります。

上記イノベーションセンター・ビル西棟及び東棟も本物件と同じく区分所有建物です。イノベーションセンター・ビル西棟及び東棟並びに本物件の全体の共用部分は、イノベーションセンター・ビル西棟及び東棟並びに本物件の全区分所有者の共有となっています。

(3) 区分所有者等

かながわサイエンスパーク R & D棟の区分所有者等は以下のとおりとなっています。

区分所有者等	R & D棟持分	全体土地及び 全体共用部分持分
日本生命保険相互会社	33.0%	22.5612%
明治安田生命保険相互会社	33.0%	22.5612%
株式会社ケイエスピー (注1)	7.0%	19.3100%
飛島建設株式会社	—	2.0392%
株式会社オフィスネットワーク	—	15.0693%
プレミア投資法人 (注2)	27.0%	18.4591%
合 計	100.0%	100.0000%

(注1) 株式会社ケイエスピーは、神奈川県、川崎市及び民間企業等の出資により、かながわサイエンスパークについて下記の事業を行うことを目的として設立された第三セクターの会社です。

事業内容

- ① 創業支援・起業家育成等ビジネスインキュベーター (ベンチャー) 事業等
- ② 科学技術イベントの開催等情報交流企画事業等
- ③ 館内企業で構成するK S P交流会等の各種異業種交流グループや学会等の事務局を担当することによるネットワーク事業等
- ④ 大小様々な研究開発型企業及び研究開発型ベンチャー企業の需要に対応した、研究開発活動を行うことが可能なスペースの提供をする施設サービス事業等

(注2) ここでは信託受益者である本投資法人を記載しています。

< 物件 C 3 NARA BUILDING II >

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 横浜市港北区新横浜二丁目 2 番 8 号 <地番> 横浜市港北区新横浜二丁目 2 番 8			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	700.59 m ²	容積率/建ぺい率	800%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	事務所
	延床面積	5,356.99 m ²	建築時期	平成 4 年 3 月
	構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 11 階建		
PM会社	三幸エステート株式会社			
信託受託者	三菱UFJ信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成 19 年 4 月 30 日現在) ◇	
運用期間	平成 18 年 11 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 30 日 (181 日)		テナント総数	13
			総賃貸可能面積	4,049.99 m ²
			総賃貸面積	3,737.15 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益	小計	103 百万円	賃料合計 (月額)	13 百万円
貸室賃料・共益費		87 百万円	稼働率	92.3%
その他の賃貸事業収入		15 百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用	小計	52 百万円	取得年月日	平成 15 年 2 月 26 日
外注委託費		8 百万円	取得価格	1,580 百万円
水道光熱費		6 百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課		8 百万円	価格時点	平成 14 年 12 月 16 日
修繕費		0 百万円	鑑定評価額	1,620 百万円
減価償却費		26 百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出		1 百万円	調査の基準となる時点	平成 19 年 4 月 30 日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)		50 百万円	期末評価価格	2,260 百万円
◇ 特記事項 ◇				
<p>[賃貸借の概況] 本物件の建物賃借人であるテナント 1 社より平成 19 年 7 月 15 日 (契約書上の賃貸面積 403.37 m²) をもって賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。</p>				

＜物件D1 パークアクシス四谷ステージ＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都新宿区四谷四丁目 15 <地番> 東京都新宿区四谷四丁目 15 番 9、46			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域・第一種住居地域
	面積	1,255.28 m ²		
	容積率/ 建ぺい率	西側道路より20m内(約1,165.64 m ²) 600%/80%、 西側道路より20m外(約84.5 m ²) 400%/80%、 西側道路より20m外でかつ北端部(約5.14 m ²) 300%/60%		
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	8,158.30 m ²	建築時期	平成13年11月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付16階建		
	戸数	総戸数127戸	(タイプ) ワンルーム 1LDK 2LDK 3LDK以上	(31.32 m ² ～51.62 m ²) …………… 51戸 (34.82 m ² ～65.18 m ²) …………… 31戸 (68.68 m ² ～80.90 m ²) …………… 40戸 (72.45 m ²) …………… 5戸
PM会社	三井不動産住宅リース株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	125
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	171百万円		総賃貸可能面積	6,732.18 m ²
貸室賃料・共益費	155百万円		総賃貸面積	6,624.91 m ²
その他の賃貸事業収入	16百万円		賃料合計(月額)	26百万円
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	75百万円		稼働率	98.4%
外注委託費	22百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
水道光熱費	1百万円		取得年月日	平成14年9月11日
公租公課	5百万円		取得価格	5,208百万円
修繕費	5百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
減価償却費	36百万円		価格時点	平成14年3月25日
その他支出	4百万円		鑑定評価額	5,220百万円
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	96百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
			調査の基準となる時点	平成19年4月30日
			期末評価価格	5,510百万円
◇ 特記事項 ◇				
[近隣との関係] 四谷四丁目町会が祭る田安・鎮守稲荷が本物件の敷地北東側に設置されており、信託受託者は無償にて同町会の占有・使用を認める義務を承継しております。				
[隣接地との関係] 本物件の当初委託者と南側隣接地所有者との間で、本物件の敷地内における擁壁構築について、以下の内容の覚書を取り交わしており、その内容は信託受託者に承継されております。 1. 本擁壁は隣接地の地盤保持のために本物件の建物における躯体コンクリートの一部として、当初委託者により構築されたものであること。 2. 本擁壁は敷地境界線を境に、当初委託者と隣接地所有者各々が所有し、維持管理は双方が所有する範囲で責任を持って行うものとする。こと。 3. 隣接地所有者は、本擁壁を撤去する際は事前に当初委託者に届け出たうえ、隣接地所有者の責任においてこれを行い、本物件を損傷させてはならないこと。				
[その他] 本物件の土地面積には、私道(117.55 m ²)が含まれております。				
[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし三井不動産住宅リース株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、三井不動産住宅リース株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。 2. 本物件の建物転借人6戸(契約書上の賃貸面積371.56 m ²)よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。 3. 平成19年4月24日において、空室部分34.82 m ² について賃貸借契約を締結しており、かかる契約に基づき平成19年5月1日に入居済みです。				

＜物件D2 パークアクセス明治神宮前＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都渋谷区神宮前一丁目10番11号 <地番> 東京都渋谷区神宮前一丁目10番15			
土地	所有形態	所有権	用途地域	第一種住居地域
	面積	771.73 m ²	容積率/建ぺい率	300%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	店舗・共同住宅
	延床面積	1,913.18 m ²	建築時期	平成14年3月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付7階建		
	戸数	総戸数 住居26戸 店舗3区画	(タイプ) ワンルーム (32.69 m ² ～46.37 m ²) …… 7戸 1LDK (42.93 m ² ～64.15 m ²) …… 13戸 2LDK (32.69 m ² ～79.28 m ²) …… 6戸 店舗 (92.78 m ² ～127.69 m ²) …… 3区画	
PM会社	三井不動産住宅リース株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	29
			総賃貸可能面積	1,706.94 m ²
			総賃貸面積	1,706.94 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	68百万円		賃料合計(月額)	10百万円
貸室賃料・共益費	64百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	4百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	20百万円		取得年月日	平成14年9月11日
外注委託費	5百万円		取得価格	2,604百万円
水道光熱費	1百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	1百万円		価格時点	平成14年3月25日
修繕費	1百万円		鑑定評価額	2,600百万円
減価償却費	8百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	1百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	48百万円		期末評価価格	2,430百万円
◇ 特記事項 ◇				
[隣接地との関係] 1. 東側隣接地より、樹木の一部が本物件に越境しております。この件に関して覚書等は締結されておられません。 2. 西側隣接地の土地所有者と、境界線付近の形状に関して、現状の確認及び将来敷地境界線付近において工事等を実施する場合には協議の上これを行うこと等を内容とする確認書を取り交わしております。				
[賃貸借の概況] 本物件は、信託受託者を賃貸人とし三井不動産住宅リース株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、三井不動産住宅リース株式会社と転賃貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。				

＜物件D3 サンパレス南麻布＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区南麻布一丁目17番5号 <地番> 東京都港区南麻布一丁目1番32 他4筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	準工業地域
	面積	677.02 m ²	容積率/建ぺい率	400%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	2,227.37 m ²	建築時期	平成1年11月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付6階建		
	戸数	総戸数13戸	(タイプ) 2LDK (97.53 m ² ~114.77 m ²) …… 6戸 3LDK (123.54 m ² ~156.31 m ²) …… 7戸	
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	12
			総賃貸可能面積	1,577.42 m ²
			総賃貸面積	1,479.89 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	39百万円	賃料合計(月額)	5百万円	
貸室賃料・共益費	37百万円	稼働率	93.8%	
その他の賃貸事業収入	1百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇		
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	20百万円	取得年月日	平成14年9月10日	
外注委託費	5百万円	取得価格	1,150百万円	
水道光熱費	1百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇		
公租公課	2百万円	価格時点	平成14年3月25日	
修繕費	1百万円	鑑定評価額	1,150百万円	
減価償却費	8百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇		
その他支出	0百万円	調査の基準となる時点	平成19年4月30日	
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	18百万円	期末評価価格	1,010百万円	
◇ 特記事項 ◇				
<p>[越境物の状況] 隣接地より、建物の付属物の一部が本物件に越境しております。この件に関して当該隣接地所有者との間で、隣接地の建物の付属物を将来交換する場合、又はそれが使用不能となった場合、越境物を撤去し、本件境界を越えることなく設置することを約した覚書を締結しております。</p> <p>[賃貸借の概況] 本物件は、信託受託者を賃貸人としアール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。</p>				

＜物件D4 キャビンアリーナ赤坂＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区赤坂二丁目12番23号 <地番> 東京都港区赤坂二丁目1233番1			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	353.37㎡	容積率/建ぺい率	600%/80% (注)
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	1,793.32㎡	建築時期	平成14年11月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根10階建		
	戸数	総戸数32戸	(タイプ) ワンルーム (35.78㎡) ……………14戸 1LDK (42.67㎡～75.18㎡) ……………18戸	
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	32
			総賃貸可能面積	1,378.02㎡
			総賃貸面積	1,378.02㎡
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	46百万円		賃料合計(月額)	7百万円
貸室賃料・共益費	43百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	3百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	18百万円		取得年月日	平成15年4月4日
外注委託費	6百万円		取得価格	1,330百万円
水道光熱費	0百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	1百万円		価格時点	平成14年12月16日
修繕費	0百万円		鑑定評価額	1,360百万円
減価償却費	7百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	0百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益=(A)-(B)	28百万円		期末評価価格	1,620百万円
(注) 本物件の容積率については、建築基準法により420.60%が上限となっております。				
◇ 特記事項 ◇				
[越境物の状況] 隣接地より、建物空調設備の一部が本物件に越境しております。この件に関して覚書等は締結されておりません。				
[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃貸人としアール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。 2. 本物件の建物転借人3戸(契約書上の賃貸面積148.91㎡)よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われております。 3. 平成19年4月23日において、上記1.の空室予定部分42.67㎡について賃貸借契約を締結しており、かかる契約に基づき平成19年5月3日に入居済みです。				

＜物件D5 キャビンアリーナ南青山＞

◇ 特定資産の概要 ◇					
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権				
所在地	(住居表示) 東京都港区南青山七丁目 10 番 17 号 <地番> 東京都港区南青山七丁目 211 番 他 2 筆				
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域	
	面積	210.52 m ²	容積率/建ぺい率	600%/80%	
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅	
	延床面積	1,399.33 m ²	建築時期	平成 15 年 2 月	
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根 14 階建			
	戸数	総戸数 37 戸	(タイプ) 1DK (25.35 m ² ~36.44 m ²) 36 戸 1LDK (73.88 m ²) 1 戸		
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社				
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社				
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成 19 年 4 月 30 日現在) ◇		
運用期間	平成 18 年 11 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 30 日 (181 日)		テナント総数	36	
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	40 百万円	貸室賃料・共益費	37 百万円	総賃貸可能面積	1,187.12 m ²
その他の賃貸事業収入	2 百万円	外注委託費	5 百万円	総賃貸面積	1,156.14 m ²
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	16 百万円	水道光熱費	0 百万円	賃料合計 (月額)	6 百万円
公租公課	0 百万円	修繕費	1 百万円	稼働率	97.4%
減価償却費	8 百万円	その他支出	1 百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	23 百万円			取得年月日	平成 15 年 9 月 1 日
				取得価格	1,070 百万円
				◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
				価格時点	平成 15 年 4 月 16 日
				鑑定評価額	1,080 百万円
				◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
				調査の基準となる時点	平成 19 年 4 月 30 日
				期末評価価格	1,270 百万円
◇ 特記事項 ◇					
<p>[賃貸借の概況]</p> <p>1. 本物件は、信託受託者を賃貸人としアール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント (転借人) の総数としております。</p> <p>2. 本物件の建物転借人 3 戸 (契約書上の賃貸面積 87.14 m²) よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。</p>					

＜物件D 6 ビュロー紀尾井町＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都千代田区平河町二丁目4番4号 <地番> 東京都千代田区平河町二丁目6番21 他2筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	306.73 m ²	容積率/建ぺい率	600%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	2,008.55 m ²	建築時期	平成14年11月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根 11階建		
	戸数	総戸数 50戸	(タイプ) 1 K (26.26 m ² ~36.56 m ²) 31戸 1 LDK (35.24 m ² ~45.37 m ²) 19戸	
PM会社	該当なし			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ~平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	1
			総賃貸可能面積	1,728.98 m ²
			総賃貸面積	1,728.98 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	62百万円		賃料合計(月額)	10百万円
貸室賃料・共益費	62百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	-百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	14百万円		取得年月日	平成15年7月1日
外注委託費	-百万円		取得価格	1,840百万円
水道光熱費	-百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	1百万円		価格時点	平成15年6月1日
修繕費	-百万円		鑑定評価額	1,860百万円
減価償却費	11百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	1百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	48百万円		期末評価価格	1,830百万円
◇ 特記事項 ◇				
<p>[物件の権利形態等] 本物件敷地の一部(5.68 m²)について地下鉄道敷設(東京メトロ有楽町線)を目的とした地上権設定登記がなされています。</p> <p>[不動産に関する行政法規] 本物件の土地の一部には道路計画(名称:補助55号線、計画決定:昭和21年4月25日、計画幅員:15m(拡幅))が計画決定されており、該部分には都市計画法第53条及び第54条並びに東京都の定める基準に基づき、①建築物を建築する場合には原則として東京都知事の許可が必要になり、②上記①に該当する建築物は階数が3以下で高さが10m以下、かつ地階を有しないもので主要構造部分の木造、鉄筋造、コンクリートブロック造その他これに類する構造であり、かつ容易に移転・除去することができるものであるときに限り許可されるという建築制限に服します。</p> <p>[賃貸借の概況] 本物件は、信託受託者を賃貸人と株式会社スペースデザインを賃借人として以下の賃貸借契約を締結しております。また、賃借人は本物件を家具・サービス付のマンション・アパートメント(サービス・アパートメント)として運営・転貸しております。</p> <p>①契約形態 定期建物賃貸借契約 ②契約期間 平成15年7月1日から10年間 ③諸費用の負担 主な費用の負担区分は次のとおり</p> <p>賃貸人(信託受託者)の負担 ・土地・建物に係る公租公課 ・損害保険料 ・修繕費(建物躯体・基本設備の経年劣化による修繕・更新費用)</p> <p>賃借人の負担 ・管理費(建物基本設備の保守・点検・消耗品交換費用等を含みます。) ・水道光熱費 ・転借人への貸与に伴う諸費用</p>				

＜物件D7 ホーマットウッドビル＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区西麻布四丁目 12 番 19 号 <地番> 東京都港区西麻布四丁目 151 番 3 他 1 筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	第一種中高層住居専用地域
	面積	2,983.96 m ²	容積率/建ぺい率	300%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	8,269.98 m ²	建築時期	昭和 63 年 8 月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 7 階建		
	戸数	総戸数 28 戸	(タイプ別) 2 LDK (124.21 m ² ~291.52 m ²) 5 戸 3 LDK (141.83 m ² ~247.93 m ²) 16 戸 4 LDK (177.74 m ² ~284.80 m ²) 6 戸 5 LDK (449.48 m ²) 1 戸	
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成 19 年 4 月 30 日現在) ◇	
運用期間	平成 18 年 11 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 30 日 (181 日)		テナント総数	28
			総賃貸可能面積	5,793.93 m ²
			総賃貸面積	5,793.93 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	166 百万円		賃料合計 (月額)	27 百万円
貸室賃料・共益費	164 百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	1 百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	66 百万円		取得年月日	平成 15 年 11 月 18 日
外注委託費	14 百万円		取得価格	5,090 百万円
水道光熱費	1 百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	8 百万円		価格時点	平成 15 年 6 月 2 日
修繕費	3 百万円		鑑定評価額	5,150 百万円
減価償却費	34 百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	4 百万円		調査の基準となる時点	平成 19 年 4 月 30 日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	100 百万円		期末評価価格	5,150 百万円
◇ 特記事項 ◇				
<p>[不動産に関する行政法規] 本物件の西側に隣接する「提供公園」の緑地の維持等について、当初委託者と東京都港区との間で当該公園の清掃、灌水、剪定等の維持作業は当初委託者の負担で行う旨の協定書が締結されており、その内容は信託受託者に承継されます。</p> <p>[その他] 本物件の開発時において、昭和 61 年 1 月 31 日付で建築基準法による確認通知書（工作物）により擁壁の確認がなされていますが、建築基準法による検査済証は発行されておりません。株式会社竹中工務店にて実施された建物状況調査に基づくエンジニアリングレポートによれば設計とおりの施工が成され安全上問題ないものと推察されると記載されています。</p> <p>[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃貸人としアール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント（転借人）の総数としております。 2. 本物件の建物転借人 1 戸（契約書上の賃貸面積 284.80 m²）より賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。</p>				

＜物件D8 六本木グリーンテラス＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区六本木三丁目3番23号 <地番> 東京都港区六本木三丁目106番1 他1筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	第二種住居地域
	面積	2,276.48 m ²	容積率/建ぺい率	300%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	8,332.22 m ²	建築時期	平成14年10月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付7階建		
	戸数	総戸数33戸	(タイプ) 2BR (注) (113.55 m ² ~140.84 m ²) 12戸 3BR (162.77 m ² ~191.73 m ²) 13戸 4BR (216.62 m ² ~295.48 m ²) 8戸	
PM会社	三井不動産住宅リース株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	30
			総賃貸可能面積	5,748.89 m ²
			総賃貸面積	5,322.99 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	167百万円		賃料合計(月額)	26百万円
貸室賃料・共益費	164百万円		稼働率	92.6%
その他の賃貸事業収入	3百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	64百万円		取得年月日	平成15年11月18日
外注委託費	15百万円		取得価格	4,678百万円
水道光熱費	1百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	7百万円		価格時点	平成15年6月2日
修繕費	5百万円		鑑定評価額	5,070百万円
減価償却費	30百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	4百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	103百万円		期末評価価格	5,570百万円
<p>(注) ここにある「BR」とは、「ベッドルーム」の略であり、リビングルーム以外で寝室として利用可能な居室の数をもって表示されるものです。以下同じとします。</p> <p align="center">◇ 特記事項 ◇</p> <p>[不動産に関する行政法規] 本物件の敷地の一部(地番106-2, 面積204.93 m²)は隣接する敷地(地番105-3)と合わせて位置指定道路の認定を受けております。当該位置指定道路の管理について当初委託者と当該隣接地所有者との間で以下の内容の覚書が締結されており、その内容は信託受託者に承継されます。 ①本物件所有者は、本件建物の入居者に対して位置指定道路を利用しないように指導する。 ②当該位置指定道路の維持管理は共同で行い、費用負担は折半とする。</p> <p>[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし三井不動産住宅リース株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、三井不動産住宅リース株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。 2. 本物件の建物転借人3戸(契約書上の賃貸面積485.02 m²)よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。</p>				

< 物件D 9 ビーサイト芝公園 >

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区芝一丁目 10 番 8 号 <地番> 東京都港区芝一丁目 312 番 1			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	344.59 m ²	容積率/建ぺい率	700%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	2,548.44 m ²	建築時期	平成 15 年 2 月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根 12 階建		
	戸数	総戸数 88 戸	(タイプ) ワンルーム	(22.98 m ² ~28.54 m ²) …………… 88 戸
PM会社	該当なし			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成 19 年 4 月 30 日現在) ◇	
運用期間	平成 18 年 11 月 1 日 ~平成 19 年 4 月 30 日 (181 日)		テナント総数	1
			総賃貸可能面積	2,312.75 m ²
			総賃貸面積	2,312.75 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	74 百万円	賃料合計 (月額)	12 百万円	
貸室賃料・共益費	74 百万円	稼働率	100.0%	
その他の賃貸事業収入	－百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇		
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	18 百万円	取得年月日	平成 15 年 11 月 18 日	
外注委託費	－百万円	取得価格	2,181 百万円	
水道光熱費	－百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇		
公租公課	1 百万円	価格時点	平成 15 年 6 月 1 日	
修繕費	0 百万円	鑑定評価額	2,190 百万円	
減価償却費	15 百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇		
その他支出	1 百万円	調査の基準となる時点	平成 19 年 4 月 30 日	
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	55 百万円	期末評価価格	2,190 百万円	
◇ 特記事項 ◇				
<p>[賃貸借の概況]</p> <p>本物件は、信託受託者を賃貸人とし株式会社スペースデザインを賃借人として以下の賃貸借契約を締結しております。また、賃借人は本物件を家具・サービス付のマンション・アパートメント (サービス・アパートメント) として運営・転貸しております。</p> <p>①契約形態 定期建物賃貸借契約 ②契約期間 平成 15 年 7 月 24 日から平成 20 年 7 月末日 ③諸費用の負担 主な費用の負担区分は次のとおり</p> <p>賃貸人 (信託受託者) の負担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土地・建物に係る公租公課 ・ 損害保険料 ・ 修繕費 (建物躯体・基本設備の経年劣化による修繕・更新費用) <p>賃借人の負担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理費 (建物基本設備の保守・点検・消耗品交換費用等を含みます。) ・ 水道光熱費 ・ 転借人への貸与に伴う諸費用 				

＜物件D10 プレミアステージ日本橋茅場町＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都中央区日本橋茅場町三丁目4番1 <地番> 東京都中央区日本橋茅場町三丁目12番6			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	479.93 m ²	容積率/建ぺい率	600%/80% (注)
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	4,540.70 m ²	建築時期	平成16年2月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根 14階建		
	戸数	総戸数 135戸	(タイプ)	
		1 K	(21.60 m ² ~29.43 m ²) 88戸
		1 DK	(28.09 m ² ~34.19 m ²) 45戸
		1 LDK	(40.44 m ² ~48.95 m ²) 2戸
PM会社	株式会社長谷工ライブネット			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ~平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	130
			総賃貸可能面積	3,455.68 m ²
			総賃貸面積	3,317.30 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	97百万円		賃料合計(月額)	15百万円
貸室賃料・共益費	89百万円		稼働率	96.0%
その他の賃貸事業収入	8百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	40百万円		取得年月日	平成16年3月26日
外注委託費	10百万円		取得価格	2,430百万円
水道光熱費	1百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	2百万円		価格時点	平成16年2月26日
修繕費	1百万円		鑑定評価額	2,590百万円
減価償却費	21百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	3百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	57百万円		期末評価価格	2,930百万円
(注) 本物件は、「街並み誘導型地区計画(新川・茅場町地区)」に基づいて、容積率について840%まで緩和措置を受けております。				
◇ 特記事項 ◇				
[賃貸借の概況]				
1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし株式会社長谷工ライブネットを賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、株式会社長谷工ライブネットと転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。				
2. 本物件の建物転借人6戸(契約書上の賃貸面積154.69 m ²)よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われていません。				

＜物件D11 ラング・タワー京橋＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都中央区京橋二丁目6番5号 <地番> 東京都中央区京橋二丁目6番15 他3筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	257.46㎡	容積率/建ぺい率	700%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	店舗・共同住宅
	延床面積	1,714.42㎡	建築時期	平成15年2月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付11階建		
	戸数	総戸数 (タイプ) 住居52戸 ワンルーム (18.54㎡～22.51㎡) ……52戸 店舗2区画 店舗 (31.75㎡～122.21㎡) ……2区画		
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	51
			総賃貸可能面積	1,216.10㎡
			総賃貸面積	1,155.46㎡
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	37百万円	賃料合計(月額)	5百万円	
貸室賃料・共益費	34百万円	稼働率	95.0%	
その他の賃貸事業収入	2百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇		
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	15百万円	取得年月日	平成15年12月22日	
外注委託費	4百万円	取得価格	927百万円	
水道光熱費	0百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇		
公租公課	1百万円	価格時点	平成15年12月17日	
修繕費	1百万円	鑑定評価額	1,010百万円	
減価償却費	7百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇		
その他支出	0百万円	調査の基準となる時点	平成19年4月30日	
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	22百万円	期末評価価格	1,120百万円	
◇ 特記事項 ◇				
<p>[私道負担] 本物件の土地面積には、私道(60.92㎡)が含まれております。</p> <p>[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃貸人としアール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。 2. 本物件の建物転借人1戸(契約書上の賃貸面積18.54㎡)より賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。 3. 平成19年4月25日において空室部分18.54㎡について賃貸借契約を締結しており、かかる契約に基づき平成19年5月15日に入居済みです。</p>				

＜物件D12 プレミアステージ三田慶大前＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区芝五丁目 14 番 10 号 <地番> 東京都港区芝五丁目 110 番 1 他 1 筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	286.67 m ²	容積率/建ぺい率	600%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	店舗・共同住宅
	延床面積	1,748.20 m ²	建築時期	平成 16 年 11 月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 10 階建		
	戸数	総戸数 住居 48 戸 店舗 2 区画	(タイプ) ワンルーム 店舗	(25.24 m ² ～ 29.87 m ²) …… 48 戸 (143.84 m ² ～205.01 m ²) …… 2 区画
PM会社	株式会社社長谷工ライブネット			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成 19 年 4 月 30 日現在) ◇	
運用期間	平成 18 年 11 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 30 日 (181 日)		テナント総数	47
			総賃貸可能面積	1,597.73 m ²
			総賃貸面積	1,517.37 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	58 百万円		賃料合計 (月額)	8 百万円
貸室賃料・共益費	53 百万円		稼働率	95.0%
その他の賃貸事業収入	4 百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	19 百万円		取得年月日	平成 16 年 11 月 30 日
外注委託費	6 百万円		取得価格	1,580 百万円
水道光熱費	0 百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	1 百万円		価格時点	平成 16 年 11 月 11 日
修繕費	0 百万円		鑑定評価額	1,750 百万円
減価償却費	8 百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	2 百万円		調査の基準となる時点	平成 19 年 4 月 30 日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	38 百万円		期末評価価格	1,910 百万円
◇ 特記事項 ◇				
<p>[賃貸借の概況]</p> <p>本物件は、信託受託者を賃貸人とし株式会社社長谷工ライブネットを賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、株式会社社長谷工ライブネットと転貸借契約を締結しているエンドテナント（転借人）の総数としております。</p>				

＜物件D13 プレミアロッソ＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都渋谷区富ヶ谷二丁目2番6号 <地番> 東京都渋谷区富ヶ谷二丁目1389番7 他1筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	第二種住居地域 近隣商業地域
	面積	495.80 m ²	容積率/建ぺい率	(注)
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	2,487.72 m ²	建築時期	平成16年11月
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根13階建		
	戸数	総戸数44戸	(タイプ) ワンルーム (25.01 m ²) 8戸 1DK (33.21 m ²) 8戸 1LDK (42.14 m ² ~45.01 m ²) 12戸 1LDK+S (55.35 m ²) 4戸 2LDK (56.19 m ²) 12戸	
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	41
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	59百万円		総賃貸可能面積	1,878.60 m ²
貸室賃料・共益費	50百万円		総賃貸面積	1,724.08 m ²
その他の賃貸事業収入	9百万円		賃料合計(月額)	8百万円
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	21百万円		稼働率	91.8%
外注委託費	7百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
水道光熱費	0百万円		取得年月日	平成17年1月14日
公租公課	0百万円		取得価格	1,662百万円
修繕費	1百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
減価償却費	10百万円		価格時点	平成16年11月30日
その他支出	1百万円		鑑定評価額	1,700百万円
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	37百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
			調査の基準となる時点	平成19年4月30日
			期末評価価格	1,860百万円
(注) 容積率/建ぺい率 南東側道路より20m内400%/80%、南東側道路より20m外400%/60%				
◇ 特記事項 ◇				
[近隣地との関係] 隣接地との境界について一部、書面による境界確定が行われておりません。				
[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。 2. 本物件の建物転借人2戸(契約書上の賃貸面積88.56 m ²)よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。				

＜物件D14 プレミアブラン代々木公園＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都渋谷区富ヶ谷一丁目 46 番 7 号 <地番> 東京都渋谷区富ヶ谷一丁目 1527 番 10 他 2 筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	近隣商業地域
	面積	598.32 m ²	容積率/建ぺい率	400%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	3,086.04 m ²	建築時期	平成 17 年 6 月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 11 階建		
	戸数	総戸数 60 戸	(タイプ) ワンルーム (30.17 m ² ~37.67 m ²) 28 戸 1 LDK (37.55 m ² ~46.11 m ²) 28 戸 2 LDK (64.31 m ² ~65.88 m ²) 4 戸	
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成 19 年 4 月 30 日現在) ◇	
運用期間	平成 18 年 11 月 1 日 ~平成 19 年 4 月 30 日 (181 日)		テナント総数	48
			総賃貸可能面積	2,336.95 m ²
			総賃貸面積	1,885.17 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	69 百万円		賃料合計 (月額)	9 百万円
貸室賃料・共益費	64 百万円		稼働率	80.7%
その他の賃貸事業収入	4 百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	30 百万円		取得年月日	平成 17 年 7 月 15 日
外注委託費	6 百万円		取得価格	2,330 百万円
水道光熱費	1 百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	0 百万円		価格時点	平成 17 年 7 月 1 日
修繕費	3 百万円		鑑定評価額	2,365 百万円
減価償却費	16 百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	0 百万円		調査の基準となる時点	平成 19 年 4 月 30 日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	39 百万円		期末評価価格	2,510 百万円
◇ 特記事項 ◇				
<p>[賃貸借の概況]</p> <p>1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。</p> <p>2. 本物件の建物転借人 3 戸(契約書上の賃貸面積 108.22 m²)よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われております。</p>				

＜物件D15 プレミアステージ内神田＞

◇ 特定資産の概要 ◇					
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権				
所在地	(住居表示) 東京都千代田区内神田二丁目 10 番 7 号 <地番> 東京都千代田区内神田二丁目 14 番 1				
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域	
	面積	524.33 ㎡	容積率/建ぺい率	600%/80% (注)	
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅・店舗	
	延床面積	2,458.84 ㎡	建築時期	平成 17 年 8 月	
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根 10 階建			
	戸数	総戸数 住居：43 戸 店舗：2 区画	(タイプ) ワンルーム 1 LDK 店舗 2 区画	(22.02 ㎡～ 40.74 ㎡) …… 31 戸 (36.72 ㎡～ 54.23 ㎡) …… 12 戸 (298.14 ㎡～301.53 ㎡) …… 2 区画	
PM会社	株式会社長谷工ライブネット				
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社				
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成 19 年 4 月 30 日現在) ◇		
運用期間	平成 18 年 11 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 30 日 (181 日)		テナント総数	40	
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	66 百万円	貸室賃料・共益費	62 百万円	総賃貸可能面積 2,040.19 ㎡	
その他の賃貸事業収入	4 百万円	賃料合計 (月額)	9 百万円	総賃貸面積 1,805.71 ㎡	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	22 百万円	稼働率	88.5%	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
外注委託費	5 百万円	取得年月日	平成 17 年 9 月 20 日	取得価格	1,723 百万円
水道光熱費	3 百万円	取得価格	1,723 百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	1 百万円	価格時点	平成 17 年 9 月 1 日	鑑定評価額	2,110 百万円
修繕費	0 百万円	鑑定評価額	2,110 百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
減価償却費	10 百万円	調査の基準となる時点	平成 19 年 4 月 30 日	期末評価価格	2,220 百万円
その他支出	1 百万円	期末評価価格	2,220 百万円		
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	44 百万円				
(注) 本物件の容積率については、建築基準法により、480%が上限となっております。					
◇ 特記事項 ◇					
[越境物の状況] 南側隣接地より、屋根、庇、雨樋、雨戸の一部が本物件に越境しています。この件に関して、当該隣接地所有者より、建物の建替を行う際には越境を解消することを約した覚書を取得しております。					
[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし、株式会社長谷工ライブネットを賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、株式会社長谷工ライブネットと転貸借契約を締結しているエンドテナント (転借人) の総数としております。 2. 本物件の建物転借人 5 戸 (契約書上の賃貸面積 157.10 ㎡) よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われていません。					

＜物件D16 プレミアステージ市ヶ谷河田町＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都新宿区住吉町9番4 <地番> 東京都新宿区住吉町18番11 他1筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	近隣商業地域・ 第二種住居地域
	面積	627.13 m ²	容積率/建ぺい率	(注)
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅・店舗
	延床面積	1,779.32 m ²	建築時期	平成17年7月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根8階建		
	戸数	総戸数 住居：36戸 店舗：1区画	(タイプ) ワンルーム 1LDK 2LDK 店舗	(26.28 m ² ～34.50 m ²) …… 21戸 (33.48 m ² ～47.76 m ²) …… 5戸 (50.89 m ² ～57.94 m ²) …… 10戸 (316.95 m ²) …… 1区画
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	37
			総賃貸可能面積	1,655.66 m ²
			総賃貸面積	1,655.66 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	48百万円	賃料合計(月額)	7百万円	
貸室賃料・共益費	46百万円	稼働率	100.0%	
その他の賃貸事業収入	2百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇		
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	17百万円	取得年月日	平成17年7月21日	
外注委託費	4百万円	取得価格	1,460百万円	
水道光熱費	0百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇		
公租公課	1百万円	価格時点	平成17年7月1日	
修繕費	0百万円	鑑定評価額	1,540百万円	
減価償却費	10百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇		
その他支出	1百万円	調査の基準となる時点	平成19年4月30日	
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	30百万円	期末評価価格	1,640百万円	
<p>(注) 容積率/建ぺい率 南西側道路より20m内400%/80%、南西側道路より20m外300%/60% 但し、本物件の容積率については、建築基準法により、南西側道路より20m内441%、南西側道路より20m外294%が上限となっています。</p>				
◇ 特記事項 ◇				
<p>[越境物の状況] 1. 北東側隣接地より石積擁壁の一部が越境しています。この件に関して、当該隣接地所有者より擁壁の作り替えを行う際には越境を解消することを約した確認書を取得しています。 2. 東側隣接地より、コンクリート構造物の一部が越境しています。この件に関して、当該隣接地所有者より、建物の建替を行う際には越境を解消することを約した確認書を取得しています。</p>				
<p>[近隣地との関係] 本件信託建物に付属するコンクリート擁壁の新設に際して、隣接地所有者が所有していた既存コンクリート擁壁を埋蔵するに当たり、当該隣接地所有者より、当該埋設に同意し、将来的に当該擁壁が地中障害となった場合、自己の負担で撤去することを約した覚書を取得しています。</p>				
<p>[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としています。 2. 本物件の建物転借人2戸(契約書上の賃貸面積58.18 m²)よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。</p>				

＜物件D17 Walk赤坂＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区赤坂六丁目12番4号 <地番> 東京都港区赤坂六丁目1203番1 他1筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	第二種住居地域
	面積	595.52 m ²	容積率/建ぺい率	400%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	2,357.60 m ²	建築時期	平成16年11月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付9階建		
	戸数	総戸数19戸	(タイプ) 1BR (49.10 m ² ~136.50 m ²) 11戸 2BR (102.20 m ² ~114.00 m ²) 7戸 3BR (199.80 m ²) 1戸	
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	19
			総賃貸可能面積	1,736.70 m ²
			総賃貸面積	1,736.70 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	67百万円		賃料合計(月額)	10百万円
貸室賃料・共益費	61百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	6百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	27百万円		取得年月日	平成17年6月1日
外注委託費	6百万円		取得価格	2,043百万円
水道光熱費	0百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	1百万円		価格時点	平成16年10月29日
修繕費	0百万円		鑑定評価額	2,080百万円
減価償却費	16百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	1百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	40百万円		期末評価価格	2,190百万円
◇ 特記事項 ◇				
<p>[賃貸借の概況]</p> <p>本物件は、信託受託者を賃貸人とし、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。</p>				

＜物件D18 プレミアステージ芝公園＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区芝公園二丁目2番1号 <地番> 東京都港区芝公園二丁目12番2 他4筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	317.61 m ²	容積率/建ぺい率	600%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	2,129.78 m ²	建築時期	平成18年9月
	構造	鉄骨造陸屋根 12階建		
	戸数	総戸数 44戸	(タイプ) ワンルーム	(37.49 m ² ~41.31 m ²) …………… 44戸
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	36
			総賃貸可能面積	1,759.89 m ²
			総賃貸面積	1,436.79 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	32 百万円	賃料合計 (月額)	6 百万円	
貸室賃料・共益費	22 百万円	稼働率	81.6%	
その他の賃貸事業収入	9 百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇		
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	27 百万円	取得年月日	平成18年10月13日	
外注委託費	15 百万円	取得価格	1,585 百万円	
水道光熱費	0 百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇		
公租公課	1 百万円	価格時点	平成18年10月1日	
修繕費	0 百万円	鑑定評価額	1,620 百万円	
減価償却費	8 百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇		
その他支出	3 百万円	調査の基準となる時点	平成19年4月30日	
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	4 百万円	期末評価価格	1,620 百万円	
◇ 特記事項 ◇				
[物件の権利形態等] 本物件敷地の一部 (97.65 m ²) について地下鉄道路施設 (都営地下鉄大江戸線) を目的とした地上権が設定され、登記がなされています。				
[不動産に関する行政法規] 本物件北側前面道路である大門通りは、都市計画道路 (名称: 補助4号線、計画決定: 昭和21年4月25日、計画幅員: 20m) として計画決定されており、本物件は北側道路境界線から約0.3mの部分が都市計画道路区域となります。当該区域には都市計画法第53条及び第54条並びに東京都の定める基準に基づき、①建築物を建築する場合には原則として東京都知事の許可が必要になり、②上記①に該当する建築物は階数が3以下で高さが10m以下、かつ、地階を有しないもので主要構造部分が木造、鉄筋造、コンクリートブロック造その他これに類する構造であり、かつ容易に移転又は除去することができるものであるとき、その他都市計画法第54条第1号又は第2号に該当する場合は許可されるという建築制限に服します。なお、建ぺい率については第8期までは耐火建築物であることによる緩和後の値を記載しておりましたが、当期からは緩和前の値を記載しております。				
[越境物の状況] 本物件東側隣接地より、ブロック塀の一部が本物件に越境しています。この件に関して、当該隣接地所有者との間で、将来越境を解消する際に必要な費用は解消しようとする側の負担にて行う旨の合意書を締結しています。				
[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃借人とし、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント (転借人) の総数としております。 2. 本物件の建物転借人1戸 (契約書上の賃貸面積 37.49 m ²) より賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。				

＜物件D19 MEW＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都港区海岸三丁目7番8号 <地番> 東京都港区海岸三丁目109番3			
土地	所有形態	所有権	用途地域	準工業地域
	面積	388.42 m ²	容積率/建ぺい率	400%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	1,826.50 m ²	建築時期	平成17年8月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根 12階建		
	戸数	総戸数 21戸	(タイプ) ワンルーム (54.62 m ²) …………… 2戸 1LDK (57.54 m ² ～75.19 m ²) …………… 6戸 2LDK (74.29 m ² ～105.16 m ²) …………… 13戸	
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	19
			総賃貸可能面積	1,551.65 m ²
			総賃貸面積	1,436.57 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	40百万円	賃料合計(月額)	6百万円	
貸室賃料・共益費	35百万円	稼働率	92.6%	
その他の賃貸事業収入	4百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇		
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	21百万円	取得年月日	平成18年7月31日	
外注委託費	4百万円	取得価格	1,556百万円	
水道光熱費	0百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇		
公租公課	0百万円	価格時点	平成18年7月1日	
修繕費	2百万円	鑑定評価額	1,520百万円	
減価償却費	12百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇		
その他支出	1百万円	調査の基準となる時点	平成19年4月30日	
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	18百万円	期末評価価格	1,540百万円	
◇ 特記事項 ◇				
<p>[越境物の状況] 北東側隣接地より、建物の壁の一部及びケーブルが本物件に越境している可能性があります。この件に関して、覚書等は締結されておりません。</p> <p>[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。 2. 本物件の建物転借人2戸(契約上の面積151.07 m²)よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。</p>				

＜物件E 1 ビーサイト大崎＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都品川区大崎五丁目 5 番 15 号 <地番> 東京都品川区大崎五丁目 17 番 1			
土地	所有形態	所有権	用途地域	準工業地域
	面積	474.67 m ²	容積率/建ぺい率	300%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	1,462.62 m ²	建築時期	平成 14 年 12 月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根 9 階建		
	戸数	総戸数 64 戸	(タイプ) ワンルーム	(20.60 m ² ~20.67 m ²) …………… 64 戸
PM会社	該当なし			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成 19 年 4 月 30 日現在) ◇	
運用期間	平成 18 年 11 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 30 日 (181 日)		テナント総数	1
			総賃貸可能面積	1,319.52 m ²
			総賃貸面積	1,319.52 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	39 百万円		賃料合計 (月額)	6 百万円
貸室賃料・共益費	39 百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	0 百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	10 百万円		取得年月日	平成 15 年 11 月 18 日
外注委託費	- 百万円		取得価格	1,072 百万円
水道光熱費	- 百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	1 百万円		価格時点	平成 15 年 6 月 1 日
修繕費	- 百万円		鑑定評価額	1,070 百万円
減価償却費	8 百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	0 百万円		調査の基準となる時点	平成 19 年 4 月 30 日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	28 百万円		期末評価価格	1,110 百万円
◇ 特記事項 ◇				
<p>[賃貸借の概況]</p> <p>本物件は、信託受託者を賃貸人とし株式会社スペースデザインを賃借人として以下の賃貸借契約を締結しております。また、賃借人は本物件を家具・サービス付のサービス・アパートメントとして運営・転貸しております。</p> <p>①契約形態 定期建物賃貸借契約 ②契約期間 平成 15 年 7 月 24 日から平成 20 年 7 月末日 ③諸費用の負担 主な費用の負担区分は次のとおり</p> <p>賃貸人 (信託受託者) の負担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土地・建物に係る公租公課 ・ 損害保険料 ・ 修繕費 (建物躯体・基本設備の経年劣化による修繕・更新費用) <p>賃借人の負担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理費 (建物基本設備の保守・点検・消耗品交換費用等を含みます。) ・ 水道光熱費 ・ 転借人への貸与に伴う諸費用 				

＜物件E2 プレミアガーデン本郷＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都文京区向丘一丁目14番2号 <地番> 東京都文京区向丘一丁目154番 他5筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	第一種住居地域
	面積	1,928.44 m ²	容積率/建ぺい率	300%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	1,583.61 m ²	建築時期	平成14年3月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建		
	戸数	総戸数14戸	(タイプ) 2LDK (98.36 m ²) 3LDK (106.51 m ² ~129.00 m ²) 4LDK (136.41 m ²)	2戸 11戸 1戸
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	14
			総賃貸可能面積	1,573.87 m ²
			総賃貸面積	1,573.87 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	35百万円		賃料合計(月額)	5百万円
貸室賃料・共益費	32百万円		稼働率	100.0%
その他の賃貸事業収入	3百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	12百万円		取得年月日	平成16年4月1日
外注委託費	4百万円		取得価格	975百万円
水道光熱費	0百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	1百万円		価格時点	平成16年2月16日
修繕費	1百万円		鑑定評価額	1,000百万円
減価償却費	3百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	0百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	23百万円		期末評価価格	1,120百万円
◇ 特記事項 ◇				
[隣接地との関係] 隣接地との境界につき、一部書面による境界確定が行われておりません。				
[越境物の状況] 南西側隣接地上の建物の壁等が対象地に越境しております。この件に関して、当該隣接地所有者と、建物の改築又は再建築をする際、越境部分を自己の責任と負担において撤去すること、及び第三者に譲渡した場合でもかかる事項を承継させることを約した確認書を締結しております。				
[賃貸借の概況] 1. 本物件は、信託受託者を賃貸人としアール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。 2. 本物件の建物転借人1戸(契約書上の賃貸面積120.44 m ²)より賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。				

＜物件E3 プレミアグランデ馬込＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都大田区中馬込一丁目18番18号 <地番> 東京都大田区中馬込一丁目2番2 他2筆			
土地	所有形態	所有権	用途地域	第一種中高層住居専用地域
	面積	1,232.19 m ²	容積率/建ぺい率	200%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	2,446.34 m ²	建築時期	平成17年2月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根6階建		
	戸数	総戸数33戸	(タイプ) 2LDK (60.89 m ²) 5戸 3LDK (70.86 m ² ~75.20 m ²) 16戸 3LDK+S (70.86 m ² ~78.12 m ²) 12戸	
PM会社	株式会社長谷工ライブネット			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ～平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	30
			総賃貸可能面積	2,378.13 m ²
			総賃貸面積	2,157.21 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	44百万円	賃料合計(月額)	6百万円	
貸室賃料・共益費	39百万円	稼働率	90.7%	
その他の賃貸事業収入	4百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇		
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	19百万円	取得年月日	平成17年6月1日	
外注委託費	4百万円	取得価格	1,560百万円	
水道光熱費	0百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇		
公租公課	0百万円	価格時点	平成17年1月17日	
修繕費	1百万円	鑑定評価額	1,560百万円	
減価償却費	11百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇		
その他支出	1百万円	調査の基準となる時点	平成19年4月30日	
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	24百万円	期末評価価格	1,400百万円	
◇ 特記事項 ◇				
[越境物の状況]				
1. 東側隣接地より、建物の工作物(ベランダ及び庇)の一部が本物件に越境しています。この件に関して、当該隣接地所有者より、建物の建替及び改築等を行う際には越境を解消することを約した確認書を取得しています。				
2. 東側隣接地より、ブロック塀の一部が本物件に越境しています。この件に関して、当該隣接地所有者より、将来越境を解消する際には工事及び費用は本物件土地所有者の負担にて行い、当該隣接地所有者はこれに協力することを約した確認書を取得しています。				
3. 南側隣接地よりモルタルタタキの一部が本物件に越境しています。この件に関して、隣接地所有者より、当該越境を本物件土地所有者の費用負担にて解消することを承諾する旨の承諾書を取得しています。				
[賃貸借の概況]				
1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし、株式会社長谷工ライブネットを賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、株式会社長谷工ライブネットと転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。				
2. 本物件の建物転借人3戸(契約書上の賃貸面積209.87 m ²)よりそれぞれ賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われていません。				

＜物件E4 プレミアノツツェ祐天寺＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都世田谷区下馬一丁目6番6号 <地番> 東京都世田谷区下馬一丁目110番4			
土地	所有形態	所有権	用途地域	第一種中高層住居専用地域
	面積	895.62㎡	容積率/建ぺい率	200%/60%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	1,904.50㎡	建築時期	平成18年3月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建		
	戸数	総戸数32戸	(タイプ) 1LDK (38.07㎡~52.65㎡) 12戸 1LDK+S (59.40㎡) 4戸 2LDK (56.43㎡~61.99㎡) 15戸 3LDK (70.11㎡) 1戸	
PM会社	アール・エー・アセット・マネジメント株式会社			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成18年11月1日 ~平成19年4月30日 (181日)		テナント総数	29
			総賃貸可能面積	1,734.04㎡
			総賃貸面積	1,560.00㎡
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	38百万円	賃料合計(月額)	6百万円	
貸室賃料・共益費	37百万円	稼働率	90.0%	
その他の賃貸事業収入	1百万円	◇ 取得年月日及び取得価格 ◇		
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	21百万円	取得年月日	平成18年3月28日	
外注委託費	7百万円	取得価格	1,525百万円	
水道光熱費	0百万円	◇ 取得時の鑑定評価額 ◇		
公租公課	-1百万円	価格時点	平成18年3月20日	
修繕費	0百万円	鑑定評価額	1,530百万円	
減価償却費	10百万円	◇ 不動産価格調査の概要 ◇		
その他支出	1百万円	調査の基準となる時点	平成19年4月30日	
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	17百万円	期末評価価格	1,550百万円	
◇ 特記事項 ◇				
<p>[賃貸借の概況]</p> <p>1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、アール・エー・アセット・マネジメント株式会社と転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としています。</p> <p>2. 本物件の建物転借人1戸(契約書上の賃貸面積45.92㎡)より賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。</p>				

＜物件E 5 アクロス湯島＞

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都文京区湯島三丁目 16 番 11 号 <地番> 東京都文京区湯島三丁目 108 番 2			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	363.92 m ²	容積率/建ぺい率	600%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	2,527.46 m ²	建築時期	平成 18 年 3 月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根 14 階建		
	戸数	総戸数 70 戸	(タイプ) ワンルーム	(22.49 m ²) 34 戸 (33.51 m ²) 12 戸 (37.45 m ²) 24 戸
PM会社	株式会社アクロス			
信託受託者	三菱UFJ信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成 19 年 4 月 30 日現在) ◇	
運用期間	平成 18 年 11 月 1 日 ～平成 19 年 4 月 30 日 (181 日)		テナント総数	68
			総賃貸可能面積	2,065.58 m ²
			総賃貸面積	1,994.62 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	57 百万円		賃料合計 (月額)	9 百万円
貸室賃料・共益費	54 百万円		稼働率	96.6%
その他の賃貸事業収入	2 百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	24 百万円		取得年月日	平成 18 年 9 月 1 日
外注委託費	6 百万円		取得価格	1,803 百万円
水道光熱費	0 百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	－百万円		価格時点	平成 18 年 8 月 1 日
修繕費	0 百万円		鑑定評価額	1,820 百万円
減価償却費	14 百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	1 百万円		調査の基準となる時点	平成 19 年 4 月 30 日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	33 百万円		期末評価価格	1,840 百万円
◇ 特記事項 ◇				
<p>[越境物の状況]</p> <p>北側隣接地より、建物のコンクリート基礎及び設備配管の一部が本物件に越境しています。この件に関して、当該隣接地所有者より将来、建物の建替工事及び大規模改修工事の際は、越境を解消し、自己の敷地内に設置することを約した確認書を取得しています。</p> <p>[賃貸借の概況]</p> <p>1. 本物件は、信託受託者を賃貸人とし、株式会社アクロスを賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、株式会社アクロスと転貸借契約を締結しているエンドテナント（転借人）の総数としております。</p> <p>2. 本物件の建物転借人 1 戸（契約書上の賃貸面積 33.51 m²）より賃貸借契約の解除を行う旨の申し出が行われています。</p>				

< 物件 E 6 プレミアステージ駒込 >

◇ 特定資産の概要 ◇				
特定資産の種類	不動産を信託する信託の受益権			
所在地	(住居表示) 東京都豊島区駒込一丁目3番11号 <地番> 東京都豊島区駒込一丁目3番11			
土地	所有形態	所有権	用途地域	商業地域
	面積	393.62 m ²	容積率/建ぺい率	600%/80%
建物	所有形態	所有権	用途	共同住宅
	延床面積	2,400.76 m ²	建築時期	平成19年1月
	構造	鉄筋コンクリート造陸屋根 14階建		
	戸数	総戸数 75戸	(タイプ) 1 K (23.80~30.25 m ²) 48戸 1 DK (29.75~35.70 m ²) 25戸 1 LDK (32.55~38.50 m ²) 2戸	
PM会社	株式会社明豊プロパティーズ			
信託受託者	中央三井信託銀行株式会社			
◇ 損益状況 ◇			◇ 賃貸借の概況 (平成19年4月30日現在) ◇	
運用期間	平成19年2月9日 ~平成19年4月30日 (81日)		テナント総数	61
			総賃貸可能面積	2,249.25 m ²
			総賃貸面積	1,826.80 m ²
(A) 不動産賃貸事業収益 小計	26百万円		賃料合計(月額)	7百万円
貸室賃料・共益費	11百万円		稼働率	81.2%
その他の賃貸事業収入	14百万円		◇ 取得年月日及び取得価格 ◇	
(B) 不動産賃貸事業費用 小計	28百万円		取得年月日	平成19年2月9日
外注委託費	16百万円		取得価格	1,830百万円
水道光熱費	0百万円		◇ 取得時の鑑定評価額 ◇	
公租公課	0百万円		価格時点	平成19年2月1日
修繕費	-1百万円		鑑定評価額	1,830百万円
減価償却費	7百万円		◇ 不動産価格調査の概要 ◇	
その他支出	4百万円		調査の基準となる時点	平成19年4月30日
(C) 不動産賃貸事業損益 = (A) - (B)	△2百万円		期末評価価格	1,830百万円
◇ 特記事項 ◇				
<p>[賃貸借の概況] 本物件は、信託受託者を賃貸人とし、株式会社明豊プロパティーズを賃借人とするマスターリース契約を締結しております。テナント総数は、株式会社明豊プロパティーズと転貸借契約を締結しているエンドテナント(転借人)の総数としております。</p> <p>[越境物の状況] 北西側隣接地より、建物の構造物(出窓)の一部が本物件に越境しております。この件に関して当該隣接地所有者との間で、建物の構造物を将来再建築する際には越境を解消することを約した覚書を締結しております。</p>				

(3) 運用資産の資本的支出

①資本的支出の予定

本投資法人の保有不動産に関し、平成19年4月30日現在計画されている改修等に伴う資本的支出の予定額のうち、主要なものは以下のとおりです。

不動産等の名称	所在地	目的	予定期間	工事予定金額(千円)		
				総額	当期支払額	既払総額
日総第3ビル	神奈川県横浜市西区	空調設備工事	自平成18年10月 至平成19年6月	145,000	57,481	—

②期中の資本的支出

本投資法人の保有不動産において、今期中に行った資本的支出に該当する主要な工事の概要は以下のとおりです。当期の資本的支出は110,951千円であり、当期費用に区分された修繕費84,383千円と合わせ、195,334千円の工事を実施しております。

不動産等の名称	所在地	目的	期間	支出金額(千円)
日総第3ビル	神奈川県横浜市西区	空調設備工事	自平成18年10月 至平成18年12月	57,481
ランディック新橋ビル	東京都港区	空調設備工事	自平成19年3月 至平成19年4月	18,551
その他の工事				34,918
合計				110,951

③長期修繕計画のために積立てた金銭

本投資法人は、物件毎に策定している長期修繕計画に基づき、減価償却費等の余剰キャッシュ・フローの中から大規模修繕等の支払に充当することを目的とした修繕積立金を以下のとおり積み立てております。

(単位：千円)

項目	営業期間	当期	前期
		自平成18年11月1日 至平成19年4月30日	自平成18年5月1日 至平成18年10月31日
前期末積立金残高		204,158	202,958
当期積立額		450	1,200
当期積立金取崩額		—	—
次期繰越額		204,608	204,158

(4) エンジニアリングレポートにおける数値

建物劣化診断調査、短期・長期修繕計画の策定、建築基準法の法令遵守状況調査、建物有害物質含有調査、土壌環境調査等の建物状況評価は投資対象不動産毎に調査業者に委託し報告を受けております。但し、報告内容については、調査業者の意見に過ぎず内容の正確性については保証されておりません。

①エンジニアリングレポートの担当調査委託業者、報告書日付及び長期修繕の費用見積合計は以下のとおりです。

物件名	委託調査業者	報告書日付	長期修繕の 費用見積合計 (千円) (注1)	平均値 (1年当たり) (千円)	
A 1	ランディック新橋ビル	清水建設株式会社	平成14年 7月 1日	594,016	39,601
A 2	ランディック第2新橋ビル	清水建設株式会社	平成14年 7月 1日	546,511	36,434
A 3	フジビル37	株式会社竹中工務店	平成14年 7月 1日	120,410	10,034
A 4	KN渋谷3	株式会社竹中工務店	平成14年 7月 1日	313,170	26,098
A 5	高田馬場センタービル	株式会社竹中工務店	平成14年 7月 1日	281,660	23,472
A 6	六番町ビル	株式会社竹中工務店	平成16年 2月 25日	500,030	41,669
A 7	櫻岳ビル	株式会社竹中工務店	平成16年12月22日	98,280	8,190
B 1	I P B御茶ノ水ビル	清水建設株式会社	平成14年 7月 1日	83,836	5,589
C 1	日総第3ビル	株式会社竹中工務店	平成14年 7月 1日	232,240	19,353
C 2	かながわサイエンスパーク R&D棟	清水建設株式会社	平成14年 7月 1日	4,128,173 (注2)	344,014 (注2)
C 3	NARA BUILDING II	鹿島建設株式会社	平成15年 2月 3日	201,400	14,386
D 1	パークアクシス四谷ステージ	株式会社竹中工務店	平成14年 7月 1日	100,620	8,385
D 2	パークアクシス明治神宮前	株式会社竹中工務店	平成14年 7月 1日	31,930	2,661
D 3	サンパレス南麻布	株式会社竹中工務店	平成14年 7月 1日	75,670	6,306
D 4	キャビンアリーナ赤坂	株式会社竹中工務店	平成14年12月27日	25,630	2,136
D 5	キャビンアリーナ南青山	株式会社竹中工務店	平成15年 4月 30日	36,900	3,075
D 6	ビュロー紀尾井町	株式会社竹中工務店	平成15年 6月 6日	46,310	3,859
D 7	ホームウッドビル	株式会社竹中工務店	平成15年 6月 6日	392,950	32,746
D 8	六本木グリーンテラス	株式会社竹中工務店	平成15年 7月 4日	68,040	5,670
D 9	ビーサイト芝公園	株式会社竹中工務店	平成15年 6月 6日	34,350	2,863
D 10	プレミアステージ日本橋茅場町	株式会社竹中工務店	平成16年 3月 22日	115,340	9,612
D 11	ラング・タワー京橋	株式会社竹中工務店	平成15年12月17日	41,300	3,442
D 12	プレミアステージ三田慶大前	株式会社竹中工務店	平成16年11月25日	13,430	1,119
D 13	プレミアロッソ	株式会社竹中工務店	平成16年12月22日	50,230	4,186
D 14	プレミアブラン代々木公園	株式会社竹中工務店	平成17年 7月 12日	142,690	11,891
D 15	プレミアステージ内神田	株式会社竹中工務店	平成17年 9月 5日	32,430	2,703
D 16	プレミアステージ市ヶ谷河田町	株式会社竹中工務店	平成17年 7月 21日	24,640	2,053
D 17	Walk赤坂	株式会社竹中工務店	平成16年12月 8日	17,420	1,452
D 18	プレミアステージ芝公園	株式会社竹中工務店	平成18年 9月 29日	31,600	2,633
D 19	MEW	株式会社竹中工務店	平成18年 7月 25日	29,440	2,453
E 1	ビーサイト大崎	株式会社竹中工務店	平成15年 6月 6日	40,090	3,341
E 2	プレミアガーデン本郷	株式会社竹中工務店	平成16年 2月 17日	28,630	2,386
E 3	プレミアグランデ馬込	株式会社竹中工務店	平成17年 2月 23日	43,590	3,633
E 4	プレミアノツェ祐天寺	株式会社竹中工務店	平成18年 3月 24日	22,480	1,873
E 5	アクロス湯島	株式会社竹中工務店	平成18年 8月 10日	48,990	4,082
E 6	プレミアステージ駒込	株式会社竹中工務店	平成19年 2月 5日	53,020	4,418

(注1) 「ランディック新橋ビル」「ランディック第2新橋ビル」及び「I P B御茶ノ水ビル」については報告書の日付から15年間に必要と思われる修繕費・更新費を、「フジビル37」「KN渋谷3」「高田馬場センタービル」「櫻岳ビル」「日総第3ビル」「かながわサイエンスパークR&D棟」「六番町ビル」「パークアクシス四谷ステージ」「パークアクシス明治神宮前」「サンパレス南麻布」「キャビンアリーナ赤坂」「キャビンアリーナ南青山」「ビュロー紀尾井町」「ホームウッドビル」「六本木グリーンテラス」「ビーサイト芝公園」「プレミアステージ日本橋茅場町」「ラング・タワー京橋」「プレミアステージ三田慶大前」「プレミアロッソ」「プレミアブラン代々木公園」「プレミアステージ内神田」「プレミアステージ市ヶ谷河田町」「Walk赤坂」「ビーサイト大崎」「プレミアガーデン本郷」「プレミアグランデ馬込」「プレミアノツェ祐天寺」「プレミアステージ芝公園」「MEW」「アクロス湯島」及び「プレミアステージ駒込」については報告書の日付から12年間に必要と思われる修繕費・更新費を、「NARA BUILDING II」については報告書の日付から14年間に必要な修繕費・更新費を算出しております。

(注2) かながわサイエンスパーク (KSP) の東棟と西棟に係る区分所有部分以外 (すなわち、KSPのR&D棟とその全体のうちの共用部分) に関し、報告書の日付から12年間の修繕費・更新費を算出しています。本投資法人は、R&D棟の共有持分及びKSP全体の共有持分に係る共有持分割合に応じて費用負担します。

②地震リスク調査報告書の概要

本投資法人が投資する信託不動産については、株式会社竹中工務店により地震リスク調査報告書を取得しております。但し、本地震リスク調査報告書については、その内容を保証するものではなく、意見に過ぎません。

個別物件のPML値 (Probable Maximum Loss: 予想最大損失率) とは、建物に最大級の被害を与える地震として再現期間475年の地震 (PME) を設定し、その地震動の強さから評価した各建物の地震被害による損失率と定義されます。但し、PML値には、機器、家具、在庫品、水又は火災による被害、被災者に対する補償、休業による損失等は考慮されておられません。

ポートフォリオのPML評価では、複数の建物における被害の相関性を考慮して、ある震源位置で再現期間475年の地震が発生した場合に、ポートフォリオを構成する建物に同時に発生する被害額の総和から全体での損失率 (被害総額/全建物の再調達価格) を求め、その最大値をポートフォリオのPML値としております。なお、当期末現在、本投資法人が投資する以下の信託不動産については、当該報告書の結果を踏まえ、地震保険は付保してありません。

用途	物件名称		PML値	
オフィス	A 1	ランディック新橋ビル	10.6%	
	A 2	ランディック第2新橋ビル	12.8%	
	A 3	フジビル37	5.5%	
	A 4	KN渋谷3	10.6%	
	A 5	高田馬場センタービル	2.0%	
	A 6	六番町ビル	10.8%	
	A 7	櫻岳ビル	14.2%	
	B 1	IPB御茶ノ水ビル	8.7%	
	C 1	日総第3ビル	10.2%	
	C 2	かながわサイエンスパークR&D棟	10.4%	
	C 3	NARA BUILDING II	10.1%	
	レジデンス	D 1	パークアクシス四谷ステージ	7.4%
		D 2	パークアクシス明治神宮前	9.9%
D 3		サンパレス南麻布	5.3%	
D 4		キャビンアリーナ赤坂	10.1%	
D 5		キャビンアリーナ南青山	11.2%	
D 6		ビュロー紀尾井町	11.6%	
D 7		ホームウッドビル	7.4%	
D 8		六本木グリーンテラス	10.3%	
D 9		ビーサイト芝公園	11.5%	
D 10		プレミアステージ日本橋茅場町	11.7%	
D 11		ラング・タワー京橋	12.5%	
D 12		プレミアステージ三田慶大前	14.3%	
D 13		プレミアロッソ	14.0%	
D 14		プレミアブラン代々木公園	13.1%	
D 15		プレミアステージ内神田	13.8%	
D 16		プレミアステージ市ヶ谷河田町	13.1%	
D 17		Walk赤坂	13.9%	
D 18		プレミアステージ芝公園	16.1%	
D 19		MEW	13.9%	
E 1		ビーサイト大崎	12.1%	
E 2		プレミアガーデン本郷	12.1%	
E 3		プレミアグランデ馬込	15.7%	
E 4		プレミアノッツェ祐天寺	13.6%	
E 5		アクロス湯島	17.2%	
E 6		プレミアステージ駒込	18.0%	
ポートフォリオ全体			7.5%	

(注) 地震ポートフォリオ解析は、多数の建物を対象に地震PML (Probable Maximum Loss: 予想最大損失率) 等の評価を行うものです。ポートフォリオを構成するのは、本投資法人が投資する信託不動産 (合計36物件) です。

(5) テナント等の概要

①個別不動産に関する賃貸状況の概要

(平成19年4月30日現在)

用途	番号	物件名	総賃貸可能面積 (㎡) (注1)	総賃貸面積 (㎡) (注2)	テナントの総数	不動産賃貸 事業収益 (百万円) (注3)	対総不動産 賃貸事業収益 比率 (%)	
オフィス	A 1	ランディック新橋ビル	5,593.24	4,491.04	9	261	6.4	
	A 2	ランディック第2新橋ビル	6,973.52	6,973.52	9	276	6.8	
	A 3	フジビル37	1,905.52	1,905.52	6	91	2.3	
	A 4	KN渋谷3	5,824.31	5,824.31	2	249	6.1	
	A 5	高田馬場センタービル	6,302.81	6,302.81	8	249	6.2	
	A 6	六番町ビル	6,872.77	6,872.77	1	(注4)	(注4)	
	A 7	櫻岳ビル	2,082.94	2,082.94	5	69	1.7	
	B 1	I P B御茶ノ水ビル	2,178.65	2,178.65	6	65	1.6	
	C 1	日総第3ビル	5,487.17	5,487.17	7	199	4.9	
	C 2	かながわサイエンスパーク R&D棟 (注5)	15,074.30	14,468.63	48	493	12.2	
	C 3	NARA BUILDING II	4,049.99	3,737.15	13	103	2.5	
			小計	62,345.22	60,774.51	114	2,392	59.1
	用途	番号	物件名	総賃貸可能面積 (㎡) (注1)	総賃貸面積 (㎡) (注2)	入居者数/ 総戸数 (注11)	不動産賃貸 事業収益 (百万円) (注3)	対総不動産 賃貸事業収益 比率 (%)
レジデンス	D 1	パークアクシス四谷ステージ	6,732.18	6,624.91	125/127	171	4.2	
	D 2	パークアクシス明治神宮前 (注6)	1,706.94	1,706.94	29/29	68	1.7	
	D 3	サンパレス南麻布	1,577.42	1,479.89	12/13	39	1.0	
	D 4	キャビンアリーナ赤坂	1,378.02	1,378.02	32/32	46	1.2	
	D 5	キャビンアリーナ南青山	1,187.12	1,156.14	36/37	40	1.0	
	D 6	ビューロー紀尾井町	1,728.98	1,728.98	1/1	62	1.5	
	D 7	ホームマットウッドビル	5,793.93	5,793.93	28/28	166	4.1	
	D 8	六本木グリーンテラス	5,748.89	5,322.99	30/33	167	4.1	
	D 9	ビーサイト芝公園	2,312.75	2,312.75	1/1	74	1.8	
	D 10	プレミアステージ日本橋茅場町	3,455.68	3,317.30	130/135	97	2.4	
	D 11	ラング・タワー京橋 (注7)	1,216.10	1,155.46	51/54	37	0.9	
	D 12	プレミアステージ三田慶大前 (注8)	1,597.73	1,517.37	47/50	58	1.4	
	D 13	プレミアロッソ	1,878.60	1,724.08	41/44	59	1.5	
	D 14	プレミアブラン代々木公園	2,336.95	1,885.17	48/60	69	1.7	
	D 15	プレミアステージ内神田 (注9)	2,040.19	1,805.71	40/45	66	1.7	
	D 16	プレミアステージ市ヶ谷河田町 (注10)	1,655.66	1,655.66	37/37	48	1.2	
	D 17	Walk赤坂	1,736.70	1,736.70	19/19	67	1.7	
	D 18	プレミアステージ芝公園	1,759.89	1,436.79	36/44	32	0.8	
	D 19	MEW	1,551.65	1,436.57	19/21	40	1.0	
	E 1	ビーサイト大崎	1,319.52	1,319.52	1/1	39	1.0	
	E 2	プレミアガーデン本郷	1,573.87	1,573.87	14/14	35	0.9	
	E 3	プレミアグランデ馬込	2,378.13	2,157.21	30/33	44	1.1	
	E 4	プレミアノッツェ祐天寺	1,734.04	1,560.00	29/32	38	1.0	
	E 5	アクロス湯島	2,065.58	1,994.62	68/70	57	1.4	
	E 6	プレミアステージ駒込	2,249.25	1,826.80	61/75	26	0.6	
			小計	58,715.77	55,607.38	965/1,035	1,657	40.9
		合計	121,060.99	116,381.89	1,079	4,050	100.0	

- (注1) 「総賃貸可能面積」は、個々の不動産の本投資法人の保有部分における貸付が可能な事務所、店舗及び住宅の合計面積を意味します。
- (注2) 「総賃貸面積」は、総賃貸可能面積のうち、実際に賃貸借契約が締結され貸付が行われている面積（契約書に記載されている数値）の合計を意味します。
- (注3) 「不動産賃貸事業収益」は、各物件の当期の不動産賃貸事業収益を示しており、百万円未満を切り捨てております。
- (注4) 六番町ビルにつきましては、ひとつの主要テナントとの賃貸借契約による賃料収入が当物件の契約賃料合計の80%以上を占めており、かかる主要テナントから賃料収入を開示することにつき同意を得られていないため、やむを得ない事情により開示できない場合として「不動産賃貸事業収益」及び「対総不動産賃貸事業収益比率」について、記載しておりません。
- (注5) かながわサイエンスパーク R&D棟における「総賃貸可能面積」及び「総賃貸面積」は本投資法人の保有部分（共有持分27%）を示しております。また「不動産賃貸事業収益」は本投資法人の保有部分（共有持分27%、共益費については全区分所有に係る共用部分のうちの保有部分である18.4591%）としての金額を記載しております。
- (注6) パークアクシス明治神宮前の「総戸数」には、店舗3区画を含んでおります。
- (注7) ラング・タワー京橋の「総戸数」には、店舗2区画を含んでおります。
- (注8) プレミアステージ三田慶大前の「総戸数」には、店舗2区画を含んでおります。
- (注9) プレミアステージ内神田の「総戸数」には、店舗2区画を含んでおります。
- (注10) プレミアステージ市ヶ谷河田町の「総戸数」には、店舗1区画を含んでおります。
- (注11) マスターリース契約が締結されている物件は、転借人の数を入居者数としております。

②稼働率（注1）推移

（単位：％）

用途	番号	物件名	平成16年	平成17年			平成18年				平成19年			
			10月 末日	4月 末日	10月 末日	4月 末日	10月 末日	11月 末日	12月 末日	1月 末日	2月 末日	3月 末日	4月 末日	
オフィス	A1	ランディック新橋ビル	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	88.3
	A2	ランディック第2新橋ビル	100.0	100.0	100.0	95.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	A3	フジビル37	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	A4	KN渋谷3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	A5	高田馬場センタービル	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	A6	六番町ビル	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	A7	櫻岳ビル	—	—	100.0	85.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	B1	IPB 御茶ノ水ビル	100.0	100.0	88.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	C1	日総第3ビル	100.0	100.0	100.0	90.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	C2	かながわサイエンスパーク R&D棟(注2)	86.4	94.0	88.7	89.1	89.6	91.0	91.3	93.7	93.6	94.8	96.0	
	C3	NARA BUILDING II	100.0	100.0	100.0	100.0	91.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	92.3
			オフィス計	96.6	98.5	96.9	95.5	97.0	97.8	97.9	98.5	98.4	98.7	97.5
用途	番号	物件名	平成16年	平成17年			平成18年				平成19年			
			10月 末日	4月 末日	10月 末日	4月 末日	10月 末日	11月 末日	12月 末日	1月 末日	2月 末日	3月 末日	4月 末日	
レジデンス	D1	パークアクシス四谷ステージ	100.0	98.1	97.2	96.7	97.4	95.7	95.7	94.9	94.3	98.2	98.4	
	D2	パークアクシス明治神宮前	92.1	100.0	92.6	89.6	96.7	97.3	94.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	D3	サンパレス南麻布	84.7	92.0	92.2	100.0	100.0	100.0	100.0	92.0	100.0	100.0	93.8	
	D4	キャビンアリーナ赤坂	94.7	84.0	94.8	94.8	92.4	84.3	90.6	93.7	97.4	97.4	100.0	
	D5	キャビンアリーナ南青山	91.7	87.7	96.9	92.2	92.6	92.6	92.2	89.6	91.7	97.4	97.4	
	D6	ビュロー紀尾井町	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	D7	ホームマッドウッドビル	90.8	87.7	90.7	89.2	100.0	100.0	100.0	96.4	96.4	100.0	100.0	
	D8	六本木グリーンテラス	95.5	94.2	94.2	100.0	93.7	100.0	95.0	95.0	97.1	97.1	92.6	
	D9	ビーサイト芝公園	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	D10	プレミアステージ日本橋茅場町	90.6	96.1	96.4	96.1	97.5	96.2	96.9	93.9	95.1	94.3	96.0	
	D11	ラング・タワー京橋	98.5	92.0	91.6	98.5	98.3	93.0	94.8	94.8	93.2	98.3	95.0	
	D12	プレミアステージ三田慶大前	—	70.0	96.8	100.0	92.8	96.3	100.0	100.0	98.4	95.3	95.0	
	D13	プレミアロッソ	—	100.0	98.2	98.2	97.0	97.0	91.0	97.0	94.2	97.8	91.8	
	D14	プレミアブラン代々木公園	—	—	100.0	97.0	98.3	92.0	95.2	97.0	88.5	85.0	80.7	

D15	プレミアステージ内神田	—	—	36.2	72.2	100.0	97.8	98.7	100.0	93.5	93.6	88.5
D16	プレミアステージ市ヶ谷河田町	—	—	60.9	100.0	97.1	100.0	98.4	96.9	93.6	100.0	100.0
D17	Walk赤坂	—	—	100.0	96.6	100.0	94.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
D18	プレミアステージ芝公園	—	—	—	—	6.6	22.7	43.1	52.2	63.6	66.0	81.6
D19	MEW	—	—	—	—	94.6	94.6	94.6	89.8	85.0	96.3	92.6
E1	ピーサイト大崎	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
E2	プレミアガーデン本郷	85.7	91.8	93.1	100.0	86.9	86.9	93.1	93.1	93.1	93.1	100.0
E3	プレミアグランデ馬込	—	—	44.2	100.0	96.9	96.9	90.7	93.6	93.6	90.7	90.7
E4	プレミアノッツェ祐天寺	—	—	—	4.0	56.9	66.7	90.5	90.5	93.9	86.9	90.0
E5	アクロス湯島	—	—	—	—	97.8	98.9	95.3	96.0	94.9	93.7	96.6
E6	プレミアステージ駒込	—	—	—	—	—	—	—	—	35.2	67.7	81.2
	レジデンス計	94.7	93.6	89.6	92.7	93.0	93.6	94.5	94.5	92.2	94.5	94.7
	合計	95.9	96.6	93.7	94.2	95.1	95.8	96.3	96.6	95.4	96.7	96.1

(注1) 「稼働率」は、「総賃貸面積」÷「総賃貸可能面積」の式によります。なお、小数点第二位を四捨五入しております。本投資法人による取得以前の物件の稼働率情報につきましては、正確な数値の把握が困難であることから開示しておりません。

(注2) 「かながわサイエンスパークR&D棟」における「稼働率」の算出においては、本投資法人の保有割合にかかる「総賃貸可能面積」及び「総賃貸面積」に基づいた数値を記載しております。

(6) 主要な不動産の物件に関する情報

本投資法人の保有に係る不動産等資産のうち、当期の不動産賃貸事業収益の合計額の1割以上（総不動産賃貸事業収益の合計の10%以上）を占める物件は、以下のとおりです。

（平成19年4月30日現在）

<物件C2 かながわサイエンスパークR&D棟>

テナント総数	48	
本物件の不動産賃貸事業収益	493百万円	
総不動産賃貸事業収益の合計に占める割合	12.2%	
総賃貸可能面積	15,074.30 m ²	
総賃貸面積	14,468.63 m ²	
最近5年間の稼働率の推移（注）	平成19年4月30日	96.0%
	平成18年4月30日	89.1%
	平成17年4月30日	94.0%
	平成16年4月30日	88.8%
	平成15年4月30日	94.0%

(注) 信託受益権の対象となる部分の実績数値であり、他の区分所有者等にかかる持分の数値は含まれておりません。

(7) 主要テナントに関する情報

平成19年4月30日時点において、全賃貸面積の10%以上を占めるテナントは該当ありません。

(参考) 総賃貸面積における上位10位までのテナント

(平成19年4月30日現在)

テナントの名称	業種	物件名称	賃貸面積 (㎡) (注1)(注2)	面積比率 (%) (注3)
住友大阪セメント株式会社	セメントの製造・販売	六番町ビル	6,872.77	5.9
富士ゼロックス株式会社	ゼログラフィック製品及び 関連諸製品の製造及び販売	かながわサイエンス パークR&D棟	5,763.92	5.0
株式会社スペースデザイン	不動産業	ビュロー紀尾井町 ビーサイト芝公園 ビーサイト大崎	5,361.25	4.6
富士ゼロックス情報システム 株式会社	システムインテグレーション	KN渋谷3、かながわ サイエンスパークR &D棟	4,595.32	3.9
エバラ食品工業株式会社	調味料食品の製造販売	日総第3ビル	3,605.54	3.1
株式会社電通東日本	広告業務全般	ランディック第2新 橋ビル	2,436.76	2.1
エコラボ株式会社	業務用洗浄剤製造販売	高田馬場センタービル	1,678.74	1.4
日本ロレアル株式会社	化粧品販売	かながわサイエンス パークR&D棟	1,457.77	1.3
株式会社セック	リアルタイムソフトウェア 開発	KN渋谷3	1,387.76	1.2
日立トリプルウィン株式会社	総務、経理出納、人事給与等 の業務受託	ランディック第2新 橋ビル	1,326.49	1.1
合計				29.6

(注1) 「賃貸面積」には、事務所として賃貸借を行っている面積のみを記載し、倉庫や駐車場として賃貸している面積を含みません。

(注2) 「かながわサイエンスパークR&D棟」の賃貸面積は、各々の賃貸面積に、本投資法人の持分比率27%を乗じて得た数値を記載しております。

(注3) 「面積比率」とは、本投資法人の保有に係る投資対象不動産の総賃貸面積の合計に対する当該テナントへの賃貸面積の割合をいいます。「面積比率」は、小数点第二位を四捨五入しております。

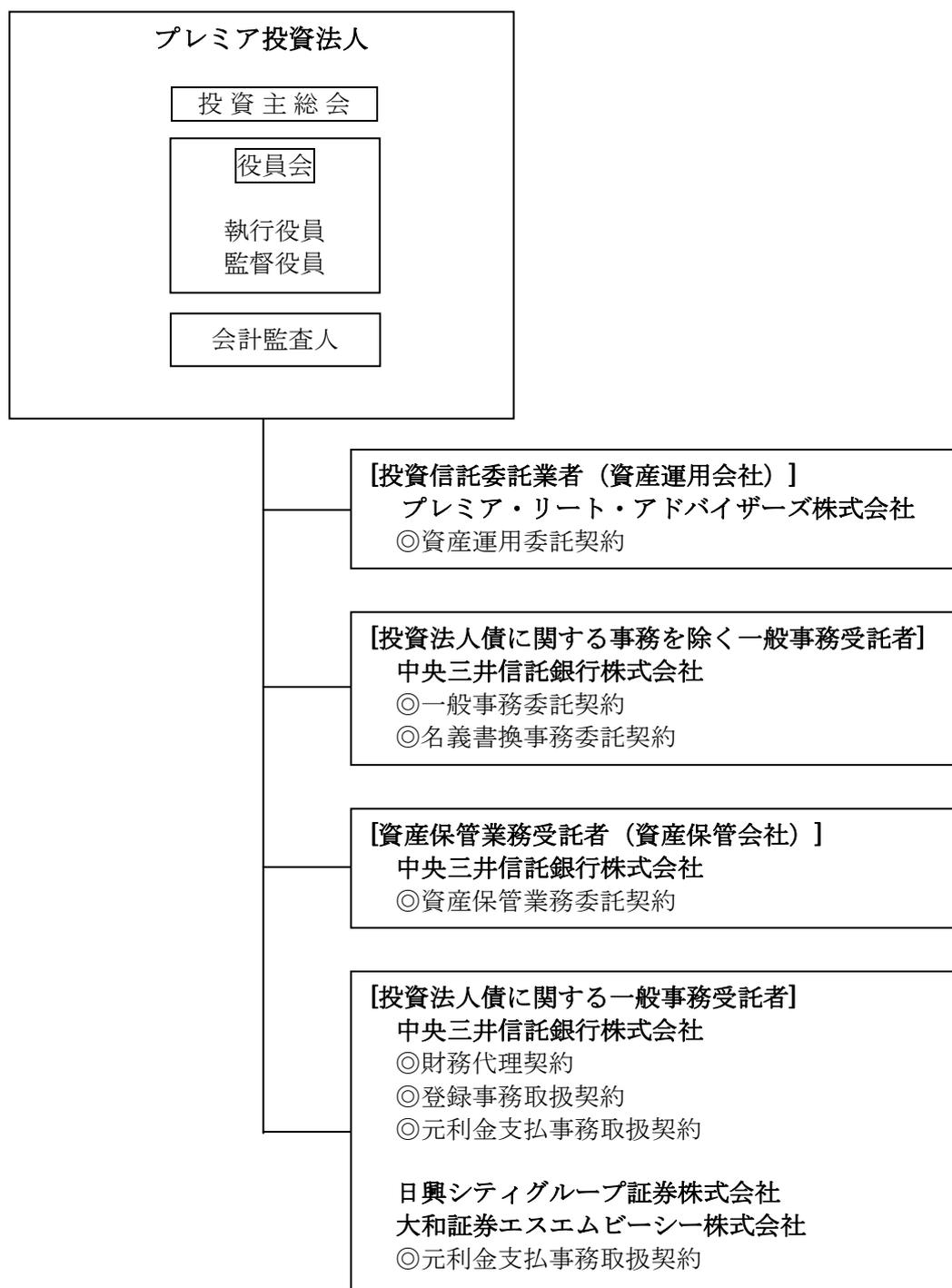
(注4) 上表では、信託受託者を賃貸人とし、PM会社を賃借人とするマスターリース契約を締結しているレジデンスについて、当該PM会社及びPM会社からの転借人に係る記載は除外しております。この場合のマスターリース契約とは、マスターリース会社(第三者に転貸することを目的とした建物全体の賃貸借契約を信託受託者との間で締結している賃借人)である当該PM会社が信託受託者から一括賃貸した上で第三者に転貸借を行い、信託受託者が転借人の支払う賃料と同額の賃料を受領する、いわゆる「パススルー方式」の賃貸借契約を意味します。この場合、当該PM会社は賃料収入に関して保証等を行うものではありません。なお、信託受託者がマスターリース契約を締結しているPM会社は以下のとおりです。

PM会社	マスターリース契約による 賃貸面積(㎡)	対レジデンス面積比 率(%) (注1)	対総賃貸可能 面積比率 (%) (注2)
アール・イー・アセット ・マネジメント株式会社	25,379.95	43.2	21.0
三井不動産住宅リース 株式会社	14,188.01	24.2	11.7
株式会社長谷工ライブ ネット	9,471.73	16.1	7.8
株式会社アクロス	2,065.58	3.5	1.7
株式会社明豊プロパテ ィーズ	2,249.25	3.8	1.9
合計	53,354.52	90.9	44.1

(注1) 「対レジデンス面積比率」とは、本投資法人の保有に係る投資対象不動産のうちレジデンスの総賃貸可能面積の合計に対する当該PM会社への賃貸面積の割合をいいます。「対レジデンス面積比率」は、小数点第二位を四捨五入しております。

(注2) 「対総賃貸可能面積比率」とは、本投資法人の保有に係る投資対象不動産の総賃貸可能面積の合計に対する当該PM会社への賃貸面積の割合をいいます。「対総賃貸可能面積比率」は、小数点第二位を四捨五入しております。

【投資法人の関係法人】（「1. 投資法人の関係法人」の参照資料）



委託先等の名称	業務内容
プレミア・リート・アドバイザーズ株式会社（資産運用会社である投資信託委託業者）	<p>資産運用委託契約に従い、資産運用会社として、本投資法人の規約に基づき、本投資法人の保有する資産の運用を行います。</p> <p>資産運用会社であるプレミア・リート・アドバイザーズ株式会社が、本投資法人の資産運用の一環として、本投資法人が投資を行う不動産、不動産の賃借権又は地上権及び不動産を信託する信託の受益権の取得の適否、資産に係る維持・管理の方針、資産の売却等を検討し実行します。</p>
中央三井信託銀行株式会社 （投資法人債に関する事務を除く一般事務受託者）	<p>一般事務委託契約に従い、本投資法人からの委託に基づき、本投資法人の経理に関する事務に関する一般事務受託者として、計算・会計帳簿の作成及び納税に関する事務を行います。さらに、本投資法人の総務に関する事務に関する一般事務受託者として、投資主総会の運営に関する一定の事務及び役員会の運営に関する事務を行います。</p>
中央三井信託銀行株式会社 （投資主名簿等管理人）	<p>名義書換事務委託契約に従い、本投資法人からの委託に基づき、投資主名簿等管理人として、本投資法人の投資口を表象する投資証券（以下「本投資証券」といいます。）の名義書換に関する事務、本投資証券の発行に関する事務、投資主に対して分配する金銭の支払いに関する事務、投資主の権利行使に関する請求その他の投資主からの申出の受付に関する事務を行います。</p>
中央三井信託銀行株式会社 （資産保管会社である資産保管業務受託者）	<p>資産保管業務委託契約に従い、本投資法人からの委託に基づき、資産保管会社として、本投資法人の取得する資産に係る権利を行使する際に必要となる当該資産に係る権利を証する書面（不動産の登記済権利証、信託受益権証書、契約書、有価証券その他の証書、書類）及びその他の書類の保管、預金口座の入出金の管理及び振替管理事務、投信法に基づく帳簿等の作成事務、輸送事務等を行います。</p>
中央三井信託銀行株式会社 （投資法人債に関する一般事務受託者である財務代理人）	<p>プレミア投資法人第1回無担保投資法人債（特定投資法人債間限定同順位特約付）財務代理契約証書及びプレミア投資法人第2回無担保投資法人債（特定投資法人債間限定同順位特約付）財務代理契約証書に従い、本投資法人からの委託に基づき、払込金の受領及び払込金の本投資法人への交付、投資法人債券の調整及び本投資法人が指定する者に対する当該投資法人債券の交付、応募者登録請求書への各投資法人債の金額、払込金額、投資法人債券を発行すべき場合の投資法人債券の記番号その他必要事項の附記及び登録機関への交付等を行います。</p>
中央三井信託銀行株式会社（第1回無担保投資法人債及び第2回無担保投資法人債） 日興シティグループ証券株式会社（第1回無担保投資法人債及び第2回無担保投資法人債） 大和証券エスエムビーシー株式会社（第2回無担保投資法人債） （投資法人債に関する一般事務受託者である元利金支払事務取扱者）	<p>プレミア投資法人第1回無担保投資法人債（特定投資法人債間限定同順位特約付）元利金支払事務取扱契約証書及びプレミア投資法人第2回無担保投資法人債（特定投資法人債間限定同順位特約付）元利金支払事務取扱契約証書に従い、本投資法人からの委託に基づき、本投資法人債の元利金支払事務を行います。</p>
中央三井信託銀行株式会社	<p>プレミア投資法人第1回無担保投資法人債（特定投資法人債間限定同順位特約付）登録事務取扱契約及びプレミア投資法人第2回無担保投資法人債（特定投資法人債間限定同順位特約付）登録事務取扱契約証書に従い、本投資法人からの委託に基づき、本投資法人債の登録事務を行います。</p>

【投資法人の運用並びに分配に関する基本方針】（「2. 運用方針及び運用状況」の参照資料）

（1）投資方針

①基本方針

本投資法人は、その規約第2条及び規約別紙「資産運用の対象及び方針」において、本投資法人による資産運用の基本方針を、首都圏に立地しオフィス又はレジデンスを主たる用途とする建物及びその敷地から構成される不動産並びにかかる不動産を裏付けとする有価証券及び信託の受益権その他の資産（運用資産）に対して投資を行い、中長期的な観点から、本投資法人に属する資産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行うこととしております。

本投資法人の上記規約上の資産運用に係る基本方針の下に、資産運用会社は本投資法人の資産運用に関し、資産運用ガイドラインをその社内規程として制定しております。かかる資産運用ガイドラインにおいて、本投資法人はその資産を、首都圏のうち、東京経済圏に立地するオフィス又はレジデンスを主たる用途とする建物及びその敷地から構成される不動産並びにかかる不動産を裏付けとする有価証券及び信託の受益権その他の資産に対して投資する旨定めております。

かかる資産運用ガイドラインは、資産運用会社において、現在の市場環境と経済情勢の下で、本投資法人の資産運用の基本方針に最も適合するとの判断の下に制定されているものであります。不動産業を営む株式会社ケン・コーポレーションと金融機関である中央三井信託銀行株式会社（三井トラストフィナンシャルグループ）において専門的な知識・経験を習得した人材が資産運用会社に出向・移籍し、本投資法人の資産運用の中心的存在としてその資産運用にあたることから、上記資産運用ガイドラインに基づき、これらの専門的な知識・経験を活かして不動産の収益性を高めることで投資主の利益の極大化を図ります。なお、将来において、市場環境その他に照らしてかかる資産運用ガイドライン上の運用方針が本投資法人の規約上の資産運用の基本方針に適合しないと判断される場合には、本投資法人の規約に最も適合するように、資産運用会社はかかる資産運用ガイドラインを変更することがあります。

②基本方針に基づくポートフォリオ運用基準

本投資法人は、不動産、不動産の賃借権又は地上権及び不動産、土地の賃借権又は地上権を信託する信託の受益権（以下「不動産信託受益権」といいます。）を主たる投資対象といたします。また、前記①のとおり、資産運用会社は、本投資法人の規約に基づいて、資産運用ガイドラインを社内規程として制定しており、以下はその概要を示したものです。なお、本書の日付現在、資産運用会社は主に不動産信託受益権に投資する予定であり、不動産そのものを保有しない方針であります。但し、当該資産の所有者の意向、権利移転に必要な諸費用等を総合的に勘案して不動産を直接に取得する場合もあります。

ア．保有期間

全ての運用資産について中長期保有を原則とし、当初から短期売却を目的とする資産取得を行わないものといたします。

イ．取得基準

（ア）取得基準

投資法人が投資を行う不動産、不動産の賃借権又は地上権及び不動産信託受益権の信託財産である不動産（以下あわせて「投資対象不動産」と総称します。）の取得に当たり、資産運用会社は、中長期的な不動産市況、当該投資対象不動産の取得価格と収益予想から想定される投資利回り、資産価値の増減及びその予測、立地エリアの将来性及び安定性、建物規模、建築及び設備仕様、耐震性能、権利関係、入居テナント、建物管理状況、環境・地質、不動産の劣化又は陳腐化に対する対応状況及び将来における資金的支出額の見込み並びに保険付保状況等を総合的に判断し、ポートフォリオの構成における重要性等を考慮のうえ選別すると共に、運用資産における戦略上の位置付けを明確に区分したポートフォリオの構築を図るものといたします。

（イ）用途

A. 投資対象不動産の主たる用途は、オフィス及びレジデンスとします（オフィスビルとレジデンスの複合型）。なお、主としてオフィスビル又はレジデンスとして利用されている不動産等であっても、その一部が商業施設又はその他の用途として利用されている場合があり、そのため、本投資法人によるオフィスビル又はレジデンスの取得に当たり、一部が商業施設及びその他の用途として利用されている物件を含むことがあります。

B. 本投資法人は、以下の表に記載の不動産の各用途における特性を考慮し、オフィスビルに比重を置きつつ、オフィスビル、レジデンス双方とも主な投資対象として用途の分散化を図り、経済・社会情勢の変動により本投資法人がその収益において受けるであろう影響を小さくし、もって中長期的に安定したキャッシュ・フローの創出を図ることを目的としておりま

す。

C. 本投資法人は、中長期的に、本投資法人のポートフォリオにおけるオフィスビルとレジデンスとの投資金額における比率を6対4とすることを目標としており、今後、かかる方針に基づいて、投資対象不動産を取得していく計画であります。但し、かかる計画どおりに投資対象不動産を順調に取得できるとの保証はありません。

用途	投資ポイント	
オフィスビル	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本国内の不動産にあつて、オフィスビルはその他の用途に供される不動産と比較して相対的に均質で豊富なストックがあり、このため市場規模及び流動性の点で相対的に優れていると考えられることから、本投資法人において主な投資対象と位置付けています。 ② オフィスビルに対するテナント（賃借人）からの需要は景気変動等の経済動向の影響により変動することがあり、その結果、オフィスビルに係る本投資法人の収益性に悪影響を与える可能性があります。一般的に他の用途の不動産と比較して相対的に高い収益性が見込めます。 ③ 大規模オフィスビルの取得については、将来の需給動向、立地特性等、十分な検討を行ったうえで慎重に対応いたします。 	
レジデンス	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本国内の不動産にあつて、外観・エントランス等の意匠、階高・外壁等の仕様、面積、間取り等の点で相対的に良質な賃貸用レジデンスを投資対象といたします。 ② 賃貸用レジデンスは、オフィスビル・分譲用レジデンス等他の用途に供される不動産と比較して相対的に供給量が少ないため、希少性が高く、高い市場競争力を有し、他の用途に供される不動産と比較して相対的に経済・社会情勢の変動の影響を受けにくく比較的安定的な収益が期待できます。賃貸用レジデンスの持つこのような特性により、キャッシュ・フローの安定化及び投資資産の分散化を図るとの目的から本投資法人において主な投資対象の一角と位置付けます。 ③ 資産運用会社は、本書の日付現在、レジデンスへの投資に当たり近時における都心回帰需要及びライフスタイルの変化により、東京経済圏における賃貸用レジデンスの市場は今後中長期的には拡大するとともに、多様化していくと考えておりますが、市場の変化その他の理由により、上記の特性が損なわれたと判断するときは、異なる投資判断を行うことがあります。 ④ 賃貸用レジデンスのテナントは、特に地域に対する志向性が強く、レジデンスのタイプにより異なった市場を形成していることから、タイプの特徴に応じた将来の需給動向等を以下のとおり分析・把握したうえで投資を行います。 	
分	ワイドタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ① 投資対象エリア…都心5区及びその周辺区 ② 主として外国人向け（欧米系企業・多国籍企業が東京経済圏に設置したオフィスへの海外からの派遣・赴任者向け）に、そのライフスタイル（生活習慣等）に即して限られた立地条件下において特別に企画されたレジデンスをいいます。 ③ 近時は、日本人富裕層のファミリーにも本タイプへのテナント需要が高まっています。かかるテナントは、上記の②の場合と同様に、他のタイプと比較してテナントの信用力が高く、賃料遅延等のリスクが小さいと考えられます。 ④ オフィスビル・日本人向けレジデンス等、他の用途に供される不動産に比較して供給量が少なく、希少性等から安定収益が期待できるとともに、マネジメントの巧拙により収益性に差が生じる可能性がある投資対象であると考えられます。
	ファミリータイプ	<ul style="list-style-type: none"> ① 投資対象エリア…東京23区及びその他周辺都市部 ② 平均的な所得層の日本人ファミリー（特に、子供を含めた3名以上で構成される家族）向けにそのライフスタイルに即して企画されたレジデンスをいいます。 ③ 一般に、街並みや住環境を重視する傾向があることから立地条件としては都心から離れていく傾向にあります。このタイプの物件は相対的に高い収益性を期待できる投資対象であると考えられます。
	DINKSタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ① 投資対象エリア…都心5区及びその周辺区 ② 子供のいない若年・共働き世帯向けにそのライフスタイルに即して企画されたレジデンスをいいます（DINKSとはDouble Income No Kidsの頭文字を取った略称で、夫婦共稼ぎで収入の源が二つあり（Double Income）、子供がいないこと（No Kids）をいいます。）。 ③ 都心への通勤の便が良好なエリアにテナント需要が集中する傾向にあり、そのようなエリアでは供給不足の状況と見られること、またDINKSは世帯としての所得水準が高いことから、このタイプの物件は希少価値があり相対的に高い収益性を期待できる投資対象であると考えられます。
	シングルタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ① 投資対象エリア…都心5区及びその周辺区 ② 単身生活者向けにそのライフスタイルに即して企画されたレジデンスをいいます。 ③ ライフスタイルの多様化に伴い、より広く、より優良なシングルタイプのレジデンスに対するマーケット動向は堅調であり、今後も安定した投資対象であると考えられます。 ④ 都心5区においても特に、港区、渋谷区、新宿区は、都心5区以外の地域と比べ平均賃料も高く、需要も安定的であることから、投資対象とすることによりキャッシュ・フローを増大させる可能性があると考えられます。
類		

（注）上記表中の「投資ポイント」は、資産運用会社における本書の日付現在の見解を記載したものであり、今後の経済動向及び不動産市場の動向により変更される可能性があるほか、将来的な用途別の重要度の動向及び利回り等を保証するものではありません。

D. なお、レジデンスについては優良な投資対象不動産の取得がオフィスビルに比べ容易でないことから、新築物件の安定的な供給源の確保のために大手デベロッパー、大手総合商社、大手金融機関、信頼性の高い不動産賃貸管理会社等との提携等を行うことで、良質な新築物件の取得を図り、新築物件への投資割合を高めめます。

(ウ) 地域

- A. 本投資法人は、上記のとおり、人口・産業集積度が高く経済の基盤が確立されている東京経済圏に特化した投資を行います（東京経済圏特化型）。
- B. 具体的には東京経済圏を都心5区、都心5区を除く東京23区及びその他の周辺都市部のカテゴリーに区分し、都心5区を中心としつつ、地域別のバランスにも配慮したうえで、オフィスビルとレジデンスとの用途の分散化を図ります。オフィスビルとレジデンスとの間の比重は前記のとおりです。前記の基本方針に基づき、オフィスビルとレジデンス各々の用途について、各々を100%とした場合に、以下のような地域的分散状況となることを目途として分散投資を行います。

用途 \ 地区	都心5区	東京23区 (都心5区を除きます。)	周辺都市部
オフィスビル	50%以上	0%～20%	0%～40%
レジデンス	50%以上	0%～40%	0%～20%

(注) 地区別の配分割合は、オフィスビルとレジデンス各々の用途別の内訳を指します。表の数値は幅を持って記載しているため、合計は必ずしも100%とはなりません。また、この比率を目指して投資を行います。投資対象不動産の取得の過程でこの表のとおりとならないことがあります。

(エ) 1物件当たりの資産規模

A. オフィスビル

原則として、賃貸可能面積約2,000㎡（約700坪）以上、かつ標準的な各階床面積が約300㎡（約90坪）以上の建物といたします。

B. レジデンス

原則として、用途タイプ分類に従い以下の規模を投資の目安といたします。

	1戸当たりの専有面積	戸数
ワイドタイプ	80㎡以上	10戸以上
ファミリータイプ	60㎡以上	20戸以上
DINKSタイプ	40㎡～100㎡	20戸以上
シングルタイプ	25㎡～40㎡	30戸以上

なお、オフィスビル、レジデンスのいずれも物件毎に立地エリアによる地域性と資産規模の適合性を上記基準に加味して考慮のうえ、適正規模を判断いたします。

(オ) デュー・デリジェンス（詳細調査）

運用資産の取得に際しては、経済的調査、物理的調査及び法的調査を行ったうえで、取得の可否を総合的に判断いたします。なお、経済的調査、物理的調査及び法的調査を実施する際には、以下の表に記載する項目について調査し、検討することを原則といたしますが、以下の表に記載する項目は、運用資産の用途によってその重要性が異なることがあり、必ずしも本投資法人による投資対象不動産の取得に当たり、以下の表に記載する全ての項目について調査を行うとは限りません。また、以下の表に記載する項目は物件取得の判断に当たっての調査検討事項であり、本投資法人が取得する運用資産が結果的に以下の項目の一部について基準を満たさないこともあります。

	項目	内容
経済的調査	テナント調査	① テナントの信用力、賃料収入状況等 ② テナントの業種、テナント数、利用目的等（レジデンスの場合は世帯状況を含みます。） ③ 過去の稼働率、賃料推移及び将来の見通し ④ 各テナントの占有割合、分布割合等
	市場調査	① 市場賃料、稼働率、競合物件・テナント需要動向等
	収益関係	① テナント誘致・処分性等の競争力調査 ② 賃貸契約水準、賃貸借契約体系及び更新の可能性 ③ 費用水準、費用関連の契約体系及び更新の可能性 ④ 適正賃料水準、適正費用水準の調査、将来予想される費用負担の可能性 ⑤ 修繕計画との比較における実際の資金積立状況
物理的調査	立地	① 街路の状況、鉄道等主要交通機関からの利便性、主要交通機関の乗降客数 ② 利便施設、経済施設、官公署、娯楽施設の配置、接近性及び周辺土地の利用状況並びに将来の動向<レジデンスに特有> ③ 日照、眺望、景観、騒音等の状況<レジデンスに特有> ④ 地域の知名度及び評判、規模等の状況
	建築及び設備・仕様	① <各用途共通> 意匠、主要構造、築年数、施工業者等 ② 内外装の部材の状況 <オフィスビル> 貸付床の形状、フリーアクセス床（OAフロア）、分割対応、天井高、電気容量、空調方式、床荷重、照度、防犯設備、給排水設備、昇降機設備、駐車場等その他共用設備の状況等 <レジデンス> 貸付床の形状、間取り、天井高、防犯設備、放送受信設備、給排水設備、昇降機設備、駐車場、駐輪場、集会室等その他共用設備の状況等
	耐震性能	① 新耐震基準（昭和56年に改正された建築基準法に基づく建物等の耐震基準を指します。以下同じとします。）又はそれと同水準以上の性能の確保 ② 地震PML（予想最大損失率）値10%未満を原則とし、20%以上の物件については耐震補強工事の実施等が条件
	建物管理関係	① 関係法規（消防法、都市計画法その他建築法規）の遵守状況等 ② 建物状況報告書における将来（10年程度）の修繕費見込み ③ 管理状況の良否、管理規約の有無・内容、管理会社の質と信用力
	環境・地質等	① アスベスト・フロン・PCB等の有害物質の使用・管理状況 ② 地質状況、土地利用履歴、土壌汚染状況等
法的調査	権利関係への対応	前所有者等の権利の確実性を検討し、特に共有・区分所有・借地物件等、本投資法人が所有権を有しないか又は単独では所有権を有しない等権利関係が複雑な物件について、以下の点を含めその権利関係について慎重に検討いたします。 ① 借地権に関する対抗要件具備の有無及び借地権に優先する他の権利の有無 ② 敷地権登記の有無、建物と敷地権の分離処分の制限及びその登記の有無、持分割合の状況 ③ 敷金保全措置、長期修繕計画に対する積立金の方針・措置 ④ 共有持分不分割特約及びその登記の有無、共有持分分割請求及び共有持分売却等に関する適切な措置並びに共有者間における債権債務関係 ⑤ 区分所有の区分性 ⑥ 本投資法人による取得前に設定された担保の設定状況や契約の内容とその承継の有無 ⑦ 借地権設定者、区分所有者及び共有者等と締結された規約・特約等の内容（特に優先譲渡条項の有無とその内容） ⑧ 借地権設定者、区分所有者及び共有者等の法人・個人の別等の属性 ⑨ 不動産を信託する信託の受益権については信託契約の内容
	境界調査	① 境界確定の状況、越境物の有無とその状況
	テナント属性	① テナントの使用目的及び契約形態 ② テナントとの紛争の有無

(カ) テナント選定基準

A. 入居が見込まれるテナントについては、以下の表に記載する属性区分別に信用情報等のチェックを行います。法人の調査については、入手した資料により信用状況が判明しない場合等必要に応じて外部の調査機関のデータベース等も活用いたします。信用等の調査の結果が良好と判断される場合、賃料水準、賃貸借契約期間、敷金金額、テナント業種、当該物件における他のテナントとのバランス、要求されるスペースの規模及び形状等を総合的に検討の

うえ賃貸借契約の締結の可否について判断いたします。

属性区分	チェック項目（内容）
法人	① 業種、業歴、決算内容（財務の健全性）等 ② 賃貸借の目的（使用目的、期間等） ③ 連帯保証人の有無とその属性
個人	① 勤務先とその内容、勤続年数等 ② 年収（年収に占める賃料総額の割合等） ③ 賃貸借の目的（使用目的、期間、入居人数等） ④ 連帯保証人の有無とその属性（本人との続柄等） ⑤ 年齢、性別、家族構成等

B. 既存テナント及び新規に契約を締結したテナントについては、原則として可能な限り長期的な関係を維持することを意図しております。但し、わが国の建物賃貸借契約の契約期間は、オフィスビルもレジデンスもともに2年間とするのが通例であり、また、一般的に、テナントが一定期間前の通知を行うことにより解約できると定めている場合が多く見られます。

(キ) 投資額

A. 資産運用及び不動産管理の効率化の観点から、投資対象不動産1物件当たりの最低投資額（購入金額のみとし、税金及び取得費用等は含みません。）は、原則として10億円以上といたします。

B. 一方、投資対象不動産1物件当たりの投資額の当該投資後における運用資産の合計額に対する割合の上限は、原則として25%とし、ポートフォリオ全体の構成を考慮し分散投資効果について検討を行ったうえで取得の可否について判断を下します。

ウ. 売却方針

(ア) 取得する投資対象不動産は中長期的な保有を基本方針とし、取得から短期間の間に売却を行うことは原則として行わない予定です。

(イ) しかしながら、中長期的には不動産市況、将来における収益予想、資産価値の増減及びその予測、立地エリアの将来性・安定性、不動産の劣化又は陳腐化に対する資本的支出額等の見込み等を考慮のうえ総合的に判断し、ポートフォリオの構成について戦略的区分を行い、売却を検討することがあります。また、各物件の売却方針は、基本的には年度運用計画において定めることとしますが、必要に応じて当該運用計画を見直す場合もあります。

A. 戦略的区分について

区分	戦略的な意義
コア・アセット	収益の中長期的な安定を目的に長期的な保有を基本方針とする資産
アクティブ・アセット	より流動性の高い投資対象不動産のうち中長期的な賃料収入に基づく収益（インカムゲイン）を中心としながらも、取得後のインカムゲインの増額を基盤とした資産価値の増額（バリューアップ）に基づき売却による収益（キャピタルゲイン）を含むトータルリターン（インカムゲイン＋キャピタルゲイン）の確保も主体的かつ能動的に図ることのある資産

a. 本投資法人がアクティブ・アセットに区分する投資対象不動産の目安は、投資対象不動産1物件当たりの投資金額がオフィスビルで40億円以下、レジデンスで20億円以下といたします。

b. アクティブ・アセットの組入比率の上限は、原則として20%を目処といたします。

B. 売却の検討を行う具体的な事象

a. 戦略的に売却を行うことが投資法人の収益に寄与する場合

例) 空室率の改善や賃料の増額又は費用の削減等による収益性の改善等により物件価値の向上を図ることができた場合。

b. 魅力的な購入価格を提示する投資家が現れた場合

例) 購入希望者の特殊事情等により鑑定評価額を10%以上上回る等、周辺地域における想定価値を超える魅力的な価格が提示される等強い購入意向が示された場合。

c. 戦略的な重要性が失われた場合

例1) 老朽化等により物件の収益性が低下し、追加的な資本支出によっても目標とする収益をあげる見込みがないと判断した場合。

例2) 同一地域においてより収益性の高い他の投資対象不動産を取得した場合、又は周辺地域の市場性が著しく衰退した等の事情によりポートフォリオの構成における重要性が失われたと判断した場合。

(ウ) 売却物件については、より高い価格での売却を実現できるよう、期限を定めた競争入札、競争力のある不動産仲介業者の活用、専任媒介業者の活用等を実施いたします。

エ. 開発案件への投資方針

本投資法人は、安定的な賃貸事業収入又はこれに類する収入が生じている若しくは生じる見込みがある投資対象不動産の取得を原則としており、本投資法人が自ら土地を取得して建物を建設することは予定していません。但し、第三者が建築中の物件については、竣工後のテナントの確保が十分可能と判断でき、完工・引渡しリスクが極小化されている場合等においては当該建物の竣工前であっても投資判断を行うことがあります。この際には当該投資対象不動産を取得するメリットと一定の期間について賃貸事業収入が生じないデメリットその他当該投資対象不動産の取得により本投資法人が負担するリスクを比較検討して投資判断を行うことといたします。

オ. 付保方針

地震保険の付保に関しては、ポートフォリオ全体のPMLを基準に、災害による影響と損害保険料とを比較検討して付保の判断を行います。なお、PMLが高い個別物件があれば、個々に地震保険の付保を検討いたします。

(注) PML (Probable Maximum Loss) とは、地震による予想最大損失率を意味します。PMLには、個別建築物に関するものと、ポートフォリオ全体に関するものがあります。PMLについての統一された厳密な定義はありませんが、本書においては、想定した予定使用期間 (50年=一般的建物の耐用年数) 中に、想定される最大規模の地震 (再現期間 475年の大地震=50年間に起こる可能性が10%を越える大地震) によりどの程度の被害を被るか、損害の予想復旧費用の再調達原価に対する比率 (%) で示したものを意味します。

カ. 財務方針

(ア) 借入及び投資法人債

- A. 本投資法人は、運用資産の着実な成長並びに効率的な運用及び運用の安定性に資するため、資産の取得、修繕等又は分配金の支払い、本投資法人の運営に要する資金若しくは債務の返済 (敷金・保証金並びに借入金及び投資法人債の債務の返済を含みます。) 等の資金の手当てを目的として、資金を借入れ (コール市場を通じる場合を含みます。) 又は投資法人債を発行することができます。但し、その限度額はそれぞれ1兆円とし、その合計額が1兆円を超えないものといたします (規約第14条)。
- B. 上記A. に基づき資金を借入れる場合は、資本市場及び金融環境を総合的に考慮し、将来にわたる経済・社会情勢の変化を予測のうえ、借入期間及び固定・変動の金利形態といった観点から効率的な資金調達手段を選定し、低コストの資金調達を図ります。また、物件の新規購入、敷金等のテナント預り金の返還等の資金需要への機動的な対応を目的として、コミットメントライン契約等の、事前の融資枠設定又は随時の借入の予約契約を締結することがあります。
- C. 上記A. に基づき資金を借入れる場合は、適格機関投資家 (証券取引法第2条第3項第1号に定める意味を有します。以下同じといたします。) からの借入に限るものといたします (規約第14条)。
- D. 借入金又は投資法人債の発行につき、本投資法人は運用資産を担保として提供することができます (規約第14条)。
- E. 本投資法人の資産総額のうち、借入額及び投資法人債発行額の残高が占める割合 (以下「ローン・トゥ・バリュー・レシオ」といいます。) の上限については、60%を目途といたしますが、新たな運用資産の取得等にともない、一時的に60%を超えることがあります。

(注) 資産総額とは、ローン・トゥ・バリュー・レシオ計算時点における直近の決算期末貸借対照表に記載された資産の部の金額をいいます。但し、有形固定資産について不動産鑑定士による鑑定評価に基づいて算定した価額と期末帳簿価額との間に差額がある場合は、その差額を当該有形固定資産の期末帳簿価格に加減して求めた金額といたします。

(イ) 募集投資口の追加発行

- A. 本投資法人は、資金の手当てを目的として、役員会の承認を経て、募集投資口の追加発行を機動的に行うことができます。
- B. 募集投資口の追加発行については、ローン・トゥ・バリュー・レシオ等、本投資法人の財務状態を考慮し、投資口の希薄化にも配慮のうえ決定いたします。

キ. 資金動向、市況動向、不動産市場動向等の急激な変化等予期しえない事由により、上記のような運用ができない場合があります。

③ 不動産管理方針

ア. 本投資法人が投資対象として取得した不動産、不動産の賃借権又は地上権及び不動産信託受益権の信託財産である不動産 (以下あわせて「保有不動産」と総称します。) においては、中長期的観点から継続的な設備投資による資産価値・競争力の維持・向上を図り、かつ収入拡大 (賃料等の増加、空室率の低減、契約期間の長期化及び固定化等) と費用低減 (外注委託費、水道光熱費等の削減) による運用収益の安定的

な成長を目指します。

イ. 資産運用会社は、以下に示す定量・定性分析の内容を検討しつつ各保有不動産に係る過去の関与度等を考慮に入れながら、委託業務の内容や報酬等について細部を交渉し、各保有不動産毎に可能な限り最適なプロパティ・マネジメント業務受託者を選定いたします。

項目	内容
企業内容・実績	① プロパティ・マネジメント業務受託者としての経験・実績 ② 評判、マネジメント方針の一貫性 ③ 会社財務の健全性
能力・体制	① 市場への精通度 ② テナント探索能力及び仲介ネットワークの有無 ③ 物件に関する経理及びレポーティング能力
手数料	① 手数料の仕組み及び水準
利益相反	① 近隣における競合プロジェクトの有無

ウ. 本投資法人は、保有不動産の維持又は価値向上に必要なと認められる長期修繕積立金、支払準備金、分配準備積立金並びにこれらに類する積立金及び引当金等を積立てることができます。

エ. 災害やテナントの退去等による収益の大幅な減少や変動を回避するため、適切な投資配分比率の維持や損害保険（火災保険、賠償責任保険等）の付保等の諸手段を講じるよう努めます。

オ. 本投資法人は、中長期的な安定収益の確保を目的として、原則として全ての保有不動産を賃貸（駐車場、看板等の設置等を含みます。）するものとしたします。かかる賃貸に際して、敷金又は保証金等これらに類する金銭を受け入れることがあり、かかる金銭は、規約別紙「資産運用の対象及び方針」の定めに基づいて運用されます（規約別紙「資産運用の対象及び方針」Ⅳ.（１）及び（２））。

カ. 資金動向、市況動向、不動産市場動向等の急激な変化等予期しえない事由により、上記のような運用ができない場合があります。

④ 開示方針

ア. 投資家に対してできる限りの情報開示を行い、投資家にわかりやすい商品を提供することを開示の方針といたします。

イ. 全ての投資家に対して正確で偏りのない情報を遅滞なく伝達できる環境を常に整えることに努めます。

ウ. 本投資法人は、投信法、証券取引法、株式会社東京証券取引所（以下「東京証券取引所」といいます。）、社団法人投資信託協会等がそれぞれ要請する内容及び様式に沿って開示を行います。

エ. 不動産、不動産の賃借権及び地上権（信託の受益権、有価証券及び匿名組合出資持分の主たる裏付けとなるものを含みます。）について、資産運用報告等により評価額を開示する目的で評価する場合には、原則として不動産鑑定士による鑑定評価額をもって開示評価額といたします（規約別紙「資産評価の方法及び基準」Ⅲ. 2.）。

オ. 上記エ. につき、投資対象不動産取得時からその後最初に到達する決算日にかかる評価額を開示するまでの期間においては、当該投資対象不動産の売買契約書等に記載された売買価格（取得諸経費、固定資産税、都市計画税及び消費税を除きます。）をもって開示評価額といたします。

⑤ その他

ア. 本投資法人は、その有する特定資産の価額の合計額に占める特定不動産（本投資法人が取得する特定資産のうち不動産、不動産の賃借権、地上権又は不動産、土地の賃借権若しくは地上権を信託する信託の受益権をいいます。）の価額の合計額の割合を 100 分の 75 以上といたします（規約別紙「資産運用の対象及び方針」Ⅱ.（２）③）。

イ. 本投資法人は、資産の総額のうち占める不動産等（不動産、不動産の賃借権、地上権、信託の受益権（不動産、地上権及び土地の賃借権のみを信託する信託に係るものに限ります。）及び匿名組合出資持分（その出資された財産を不動産、不動産の賃借権又は地上権のみに運用することを定めた匿名組合契約に係るものに限ります。））の価額の割合として財務省令で定める割合を 100 分の 75 以上といたします（規約別紙「資産運用の対象及び方針」Ⅱ.（２）④）。

(2) 投資対象

① 基本的投資対象

規約に規定する本投資法人の投資対象は以下のとおりです（規約別紙「資産運用の対象及び方針」Ⅱ.（１））。

ア. 主たる投資対象とする特定資産

本投資法人は、運用資産の着実な成長と安定した収益の確保を目的として、主として以下に掲げる特定

資産に対して投資いたします。

(ア) 不動産等

- A. 不動産、不動産の賃借権及び地上権
- B. 不動産、土地の賃借権又は地上権を信託する信託の受益権（不動産に付随する金銭とあわせて信託する包括信託を含みますが、投信法第2条第5号において定義される有価証券（以下「有価証券」といいます。）に該当するものを除きます。）
- C. 不動産、不動産の賃借権又は地上権に対する投資として運用することを目的とする金銭の信託の受益権（有価証券に該当するものを除きます。）
- D. 当事者の一方が相手方の行う上記A. からC. までに掲げる資産の運用のために出資を行い、相手方がその出資された財産を主として当該資産に対する投資として運用し、当該運用から生じる利益の分配を行うことを約する契約に係る出資の持分（以下「不動産に関する匿名組合出資持分」といいます。）

(イ) 不動産対応証券

資産の2分の1を超える額を不動産等に投資することを目的とする次に掲げるものをいいます。

- A. 優先出資証券 資産の流動化に関する法律（以下「資産流動化法」といいます。）第2条第9項に定める優先出資証券
- B. 受益証券 投信法第2条第12項に定める受益証券
- C. 投資証券 投信法第2条第22項に定める投資証券
- D. 特定目的信託の受益証券 資産流動化法第2条第15項に定める特定目的信託の受益証券（不動産等として定義される上記(ア) B. 又はC. に掲げる資産に該当するものを除きます。）

イ. その他の特定資産

本投資法人は、上記ア. に掲げる不動産等及び不動産対応証券に該当する特定資産のほか次に掲げる特定資産により運用いたします。

(ア) 預金

(イ) コール・ローン

(ウ) 国債証券（証券取引法第2条第1項第1号で定めるものをいいます。）

(エ) 地方債証券（証券取引法第2条第1項第2号で定めるものをいいます。）

(オ) 特別の法律により法人の発行する債券（証券取引法第2条第1項第3号で定めるものをいいます。）

(カ) 資産流動化法に定める特定社債券（資産流動化法第2条第9項で定めるものをいいます。）

(キ) 社債券（証券取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。但し、転換社債券及び新株予約権付社債券を除きます。）

(ク) 投信法に定める受益証券（証券取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。但し、上記ア. (イ) B. に定めるものを除きます。）

(ケ) 投信法に定める投資証券若しくは投資法人債又は外国投資証券（証券取引法第2条第1項第7号の2で定めるものをいいます。但し、上記ア. (イ) C. に定めるものを除きます。）

(コ) 貸付信託の受益証券（証券取引法第2条第1項第7号の3で定めるものをいいます。）

(サ) 資産流動化法に定める特定目的信託の受益証券（資産流動化法第2条第15項で定めるものをいいます。但し、上記ア. (イ) D. に定めるものを除きます。）

(シ) コマーシャル・ペーパー（証券取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）

(ス) 外国又は外国法人の発行する証券又は証書で、上記(ウ)乃至(キ)及び(シ)の証券又は証書の性質を有するもの（証券取引法第2条第1項第9号に該当するものをいいます。）

(セ) 外国貸付債権信託受益証券（証券取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）

(ソ) オプションを表示する証券又は証書（証券取引法第2条第1項第10号の2で定めるものをいいます。但し、上記(ウ)乃至(セ)及び下記(タ)乃至(テ)に係るものに限りません。）

(タ) 預託証書（証券取引法第2条第1項第10号の3で定めるもので、上記(ウ)乃至(オ)及び(キ)の証券の性質を有する本邦通貨建のものとしたします。）

(チ) 外国法人が発行する譲渡性預金証書（証券取引法第2条第1項第11号で定めるもので、本邦通貨建のものとしたします。）

(ツ) 貸付債権信託受益証券（証券取引法第2条第2項第1号で定めるものをいいます。）

(テ) 外国法人に対する権利で、上記(ツ)の権利の性質を有するもの（証券取引法第2条第2項第2号で定めるものをいいます。）

(ト) 金銭債権（投資信託及び投資法人に関する法律施行令（以下「投信法施行令」といいます。）第3条第1号、第12号及び第14号に該当するものを除きます。）

(ナ) 金融デリバティブ取引に係る権利（投信法施行令第3条第14号で定めるものをいいます。）

(ニ) 株券（証券取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。但し、本運用方針のために必要又は有用と認められる場合に投資するものとしたします。）

ウ. 有価証券に対する投資

本投資法人は、主として有価証券に対する投資として資産運用することを目的といたしません。

エ. 特定資産以外の資産（組織運営に伴い保有する資産を除きます。）に対する投資

本投資法人は、特定資産のほか、以下の資産に投資することがあります。但し、本運用方針のために必要又は有用と認められる場合に投資するものとしたします。

(ア) 商標法に基づく商標権、その専用使用权又は通常使用权

(イ) 温泉法に定める温泉の源泉を利用する権利及び当該温泉に関する設備等

(ウ) 民法で規定される動産

(エ) 民法で規定される地役権

(オ) 資産流動化法に定める特定目的会社の特定出資（資産流動化法第2条第6項で定めるものをいいます。）

(カ) 電気通信事業法附則第9条で規定される電話加入権

(キ) 信託財産として上記（ア）乃至（カ）を信託する信託の受益権

(ク) その他特定の不動産等に付随する資産で、当該不動産等と併せて取得することが適当と株式会社東京証券取引所が認めるもの

オ. 特定資産以外の資産（組織運営に伴い保有する資産）に対する投資

本投資法人は、上記ア.乃至エ.に定める資産の他、本投資法人の商号に係る商標権、著作権法に基づく著作権等その他組織運営に伴い保有するものであって、株式会社東京証券取引所が適当と認めるものについては、これを取得することができます。

② 投資基準及び種類別、地域別、業種別等による投資予定

本投資法人の投資基準及び種類別、地域別、業種別による投資予定については、上記「（1）投資方針 ② 基本方針に基づくポートフォリオ運用基準」をご参照ください。

(3) 分配方針

① 利益の分配

本投資法人は、原則として以下の方針に基づき分配を行うものとしたします（規約第13条第1項）。

ア. 投資主に分配する金銭の総額のうち、利益（本投資法人の計算期間の末日における貸借対照表上の純資産額から出資総額、出資剰余金及び評価差額金の合計額（出資総額等）を控除した額をいいます。以下同じ意味で用います。）の金額は、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従って計算されるものとしたします。

イ. 日本の租税関連法令が、本投資法人の投資主に対して分配する金銭について一定の要件のもとで損金算入を認めている場合、本投資法人は、かかる租税関連法令が当該損金算入を認めるために定めた要件を満たすように投資主に金銭を分配しなければなりません。

② 利益を超えた金銭の分配

本投資法人は、役員会において適切と判断した場合、投信法の規定に従い、役員会の承認を受けた金銭の分配に係る計算書に基づき、利益を超えて金銭の分配をすることができます。但し、社団法人投資信託協会の規則等において定める額を限度といたします（規約第13条第2項）。

③ 分配金の分配方法

上記①及び②に規定する分配金は金銭により分配するものとし、原則として決算日から3ヶ月以内に、決算日現在の最終の投資主名簿（実質投資主名簿を含みます。）に記載又は記録のある投資主又は登録質権者を対象に、投資口の所有口数に応じて分配いたします（規約第13条第3項）。

④ 分配金の時効等

上記①に規定する分配金は、その支払開始の日から満3年を経過したときは、本投資法人はその支払の義務を免れるものとしたします。なお、未払分配金には利息を付さないものとしたします（規約第13条第4項）。

⑤ その他

本投資法人は、租税関連法令により、個人の投資主が利益を超える分配額に対してその都度譲渡損益の算

定を行うことが必要とされる限り、原則として、投資主に対して利益を超える金銭の分配は行いません。但し、下記ア．乃至ウ．のいずれかに該当する場合には、上記①乃至④に従い利益を超える金銭の分配をすることができるものといたします。

- ア． 税法等の変更により、個人の投資主が利益を超える金銭の分配額に対してその都度譲渡損益の算定を行うことが必要でなくなった場合（法人の投資主に対する譲渡損益の取扱いについては現状のままであるにもかかわらず、個人の投資主に対する譲渡損益の取扱いに改正等がある場合も含まれます。）。
- イ． 税法等の変更により、個人の投資主が譲渡損益の申告を行うことが一般的に行われるようになる等、利益を超える金銭の分配を行うことが適当と認められる状況になったと本投資法人の役員会において判断される場合。
- ウ． 本投資法人が租税特別措置法第 67 条の 15 に規定する投資法人の課税の特例の適用を受けるための要件を満たす必要が生じた場合等、利益を超える金銭の分配を行うことが必要であると本投資法人の役員会において判断される場合。